Season.8
部落書記官

INDEX.1

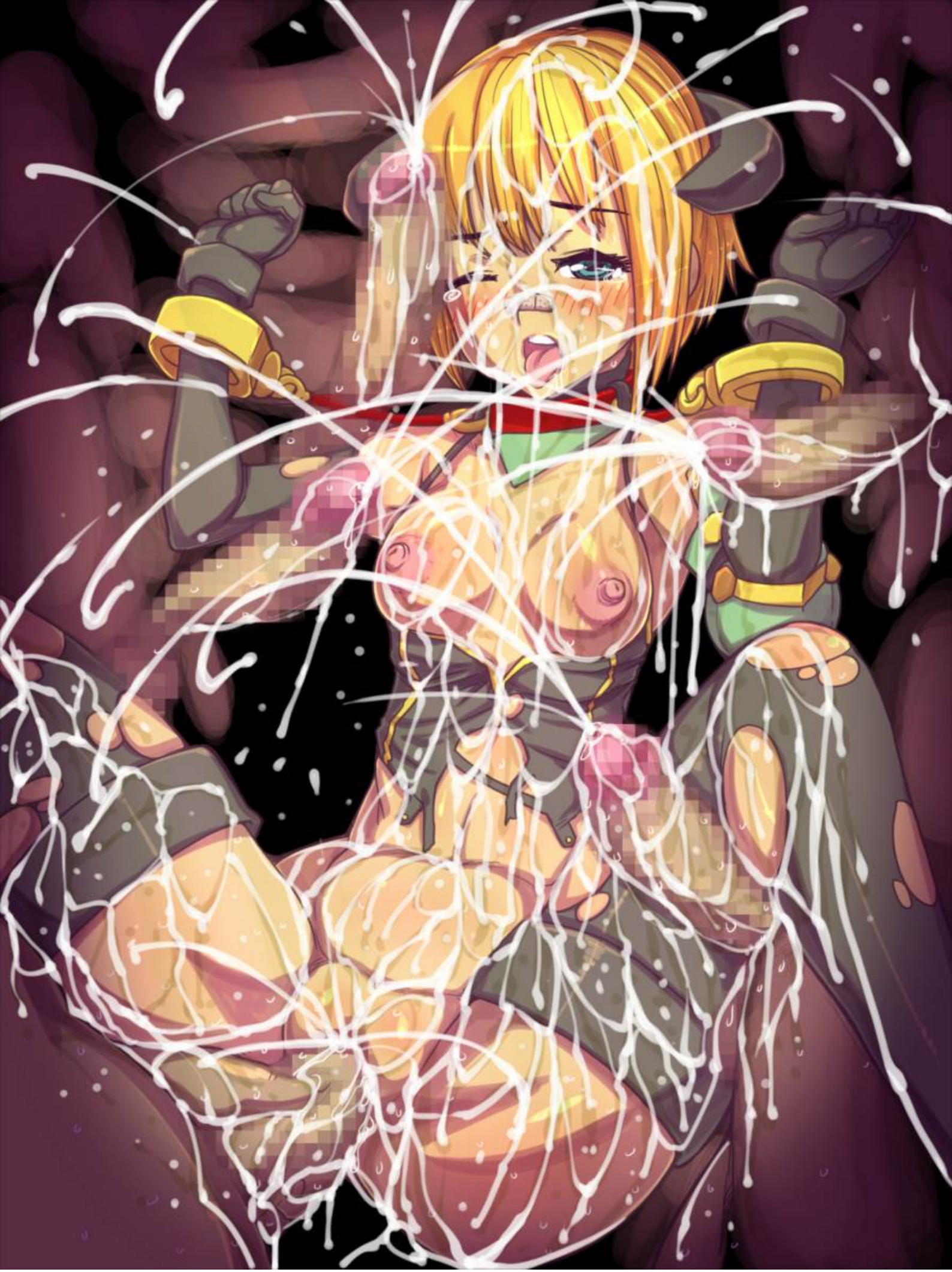
005p 701枚：絶対防衛レヴィアタン　ヨルムンガンド
008p 702枚：ラブライブ　東條希
011p 703枚：無彩限のファントム・ワールド 川神舞
014p 704枚：サモンナイト6 アム
017p 705枚：グランブルーファンタジー ベアトリクス
020p 706枚：ブレイブルーリミックスハート マイ
023p 707枚：＃FE 織部つばさ
026p 708枚：艦隊これくしょん 鹿島
029p 709枚：エルソード グランドアーチャー
Pick☆Up 032p 710枚：紅殻のパンドラ ウザル・デリラ
038p 711枚：バトルガールハイスクール 天野 望
041p 712枚：最弱無敗の神装機竜 フィルフィ
044p 713枚：翠星のガルガンティア エイミー
047p 714枚：beatmaniaIIDX ミラベル
050p 715枚：リングドリーム 琴無千鶴
Pick☆Up 053p 716枚：ウチ姫 ヴィヴィ・ロリータ
059p 717枚：プリンセスコネクト！ 草野優衣
062p 718枚：白猫プロジェクト ターシ
065p 719枚：問題児シリーズ 黒ウサギ
068p 720枚：俺妹　五更瑠璃
071p 721枚：デジモンワールドネクストオーダー ルーシュ
074p 722枚：モンスターハンタークロス　ネコ嬢
077p 723枚：この素晴らしい世界に祝福を!　アクア
080p 724枚：QMA ヴァニィ
083p 725枚：無彩限のファントム・ワールド ルル
Pick☆Up 086p 726枚：ひなビタ♪ 久領堤　纏
092p 727枚：魔法つかいプリキュア キュアマジカル
095p 728枚：閃乱カグラ NewWave Gバースト 霞
098p 729枚：ミリオンアーサー エニード
101p 730枚：艦隊これくしょん 能代
104p 731枚：蒼き雷霆 ガンヴォルト モルフォ
107p 732枚：ルーンファクトリー ドロップ
110p 733枚：メルクストーリア セレス
113p 734枚：デレマス 櫂ありす

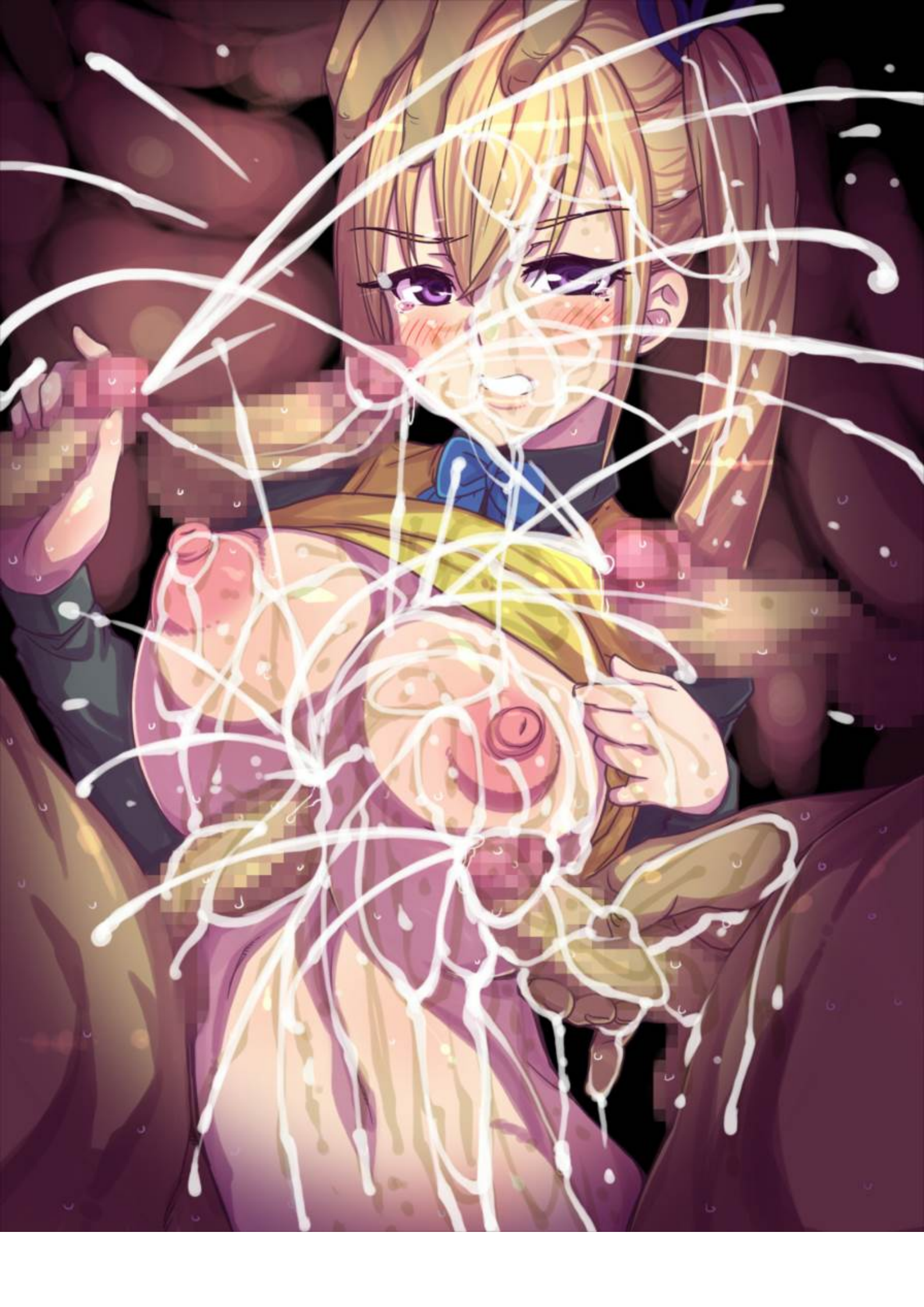
INDEX.2

Pick☆Up 116p 735枚：グランブルーファンタジー アンチラ
122p 736枚：ブレスオブファイア6 アミリア
125p 737枚：蒼き雷霆ガンヴォルトπ　オウカ
128p 738枚：セブンスドラゴン ローグ
131p 739枚：戦記絶唱シンフォギア 雪音クリス
134p 740枚：幻影異聞録 志摩崎舞子
137p 741枚：スターオーシャン4 ミュリア
140p 742枚：フォトカノ 早倉舞衣
143p 743枚：この素晴らしい世界に祝福を！　ダクネス
146p 744枚：千年戦争アイギス 剣の聖女ゼノビア
149p 745枚：サーバント×サービス　山神ルーシー
152p 746枚：バトルガールハイスクール ミシェル
Pick☆Up 155p 747枚：ふしぎの海のナディア エレクトラ
161p 748枚：緋弾のアリア 峰理子
164p 749枚：学戦都市アスタリスク　刀藤綺凛
167p 750枚：神羅万象 光魔后妃リリス
170p 751枚：はいふり 知名もえか
173p 752枚：スクールガールストライカーズ 降神小織
176p 753枚：グリムノーツ レイナ
179p 754枚：ネトゲの嫁は 玉置亜子
182p 755枚：パズドラ 冥霊神・ネフティス
185p 756枚：グランブルーファンタジー ゾーイ
188p 757枚：くまみこ 雨宿まち
191p 758枚：CODE：BREAKER 高津あおば
194p 759枚：双星の陰陽師　音海蘭良
Pick☆Up 197p 760枚：クロムクロ 白羽 由希奈
203p 761枚：甲鉄城のカバネリ 菖蒲
206p 762枚：灰と幻想のグリムガル シホル
209p 763枚：スターオーシャン5 ミキ・ソーヴェスタ
212p 764枚：FATE／GO ナーサリーライム
215p 765枚：ガールズ&パンツァー クラーラ
218p 766枚：グランブルーファンタジー　アリシア
Pick☆Up 221p 767枚：七つの大罪　ディアンヌ
227p 768枚：ソードアート・オンライン　セブン

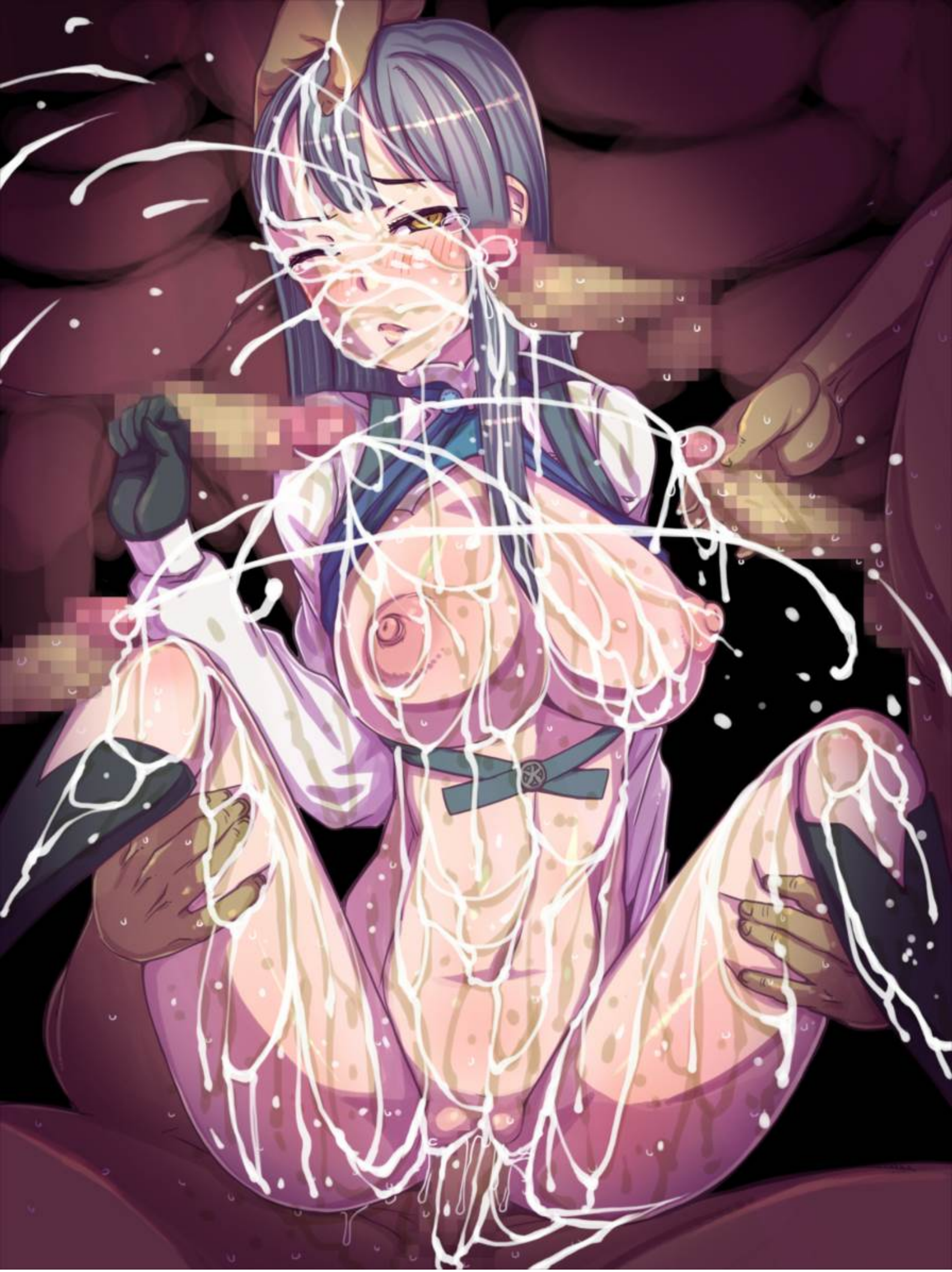
INDEX.3

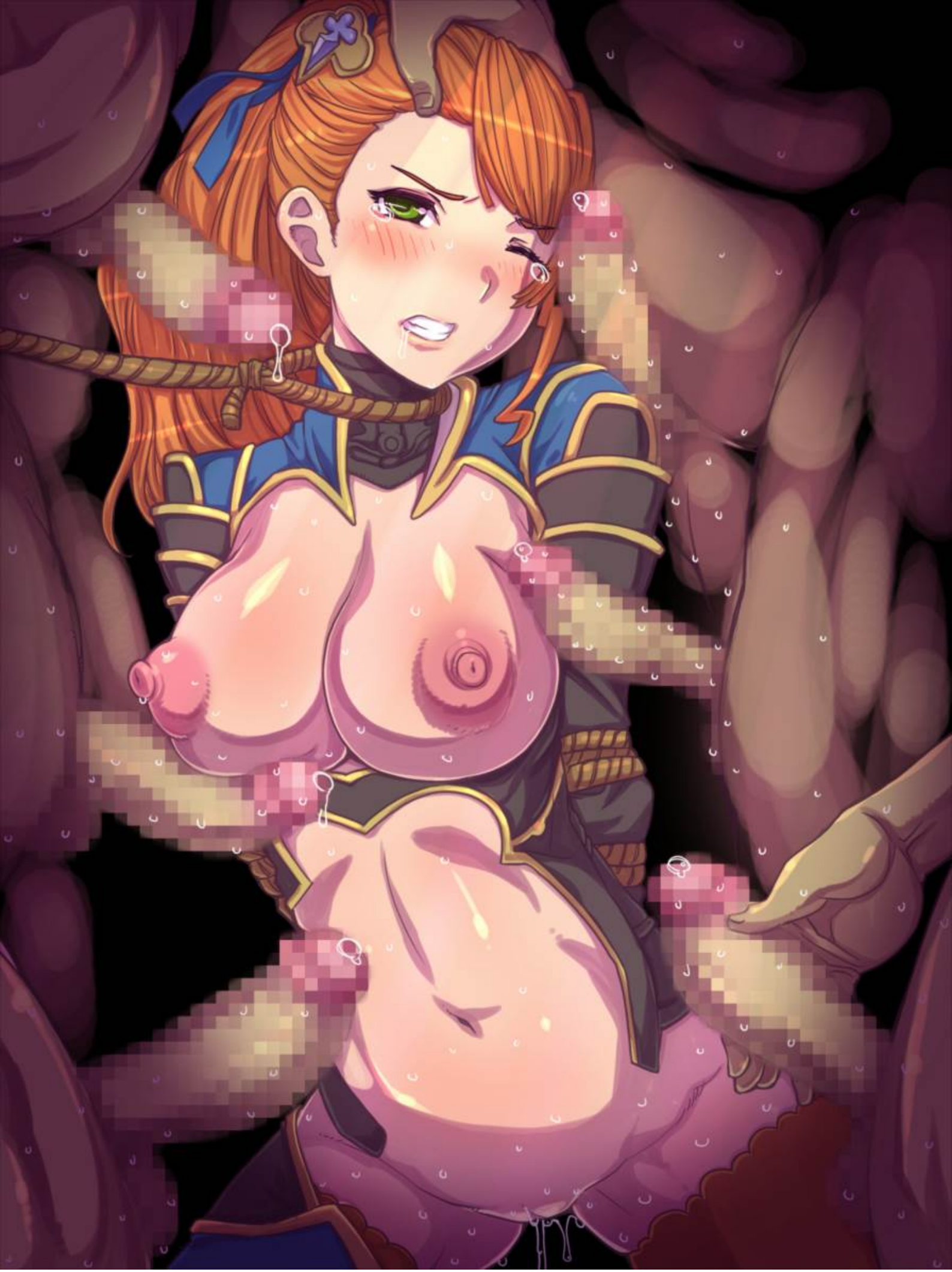
230p 769枚：新妹魔王の契約者 長谷川 千里
233p 770枚：少年メイド 凰美耶子
236p 771枚：ネトゲの嫁は女の子じゃないと思った？ 猫姫
239p 772枚：エンドライド ルイーズ
242p 773枚：ハイスクール・フリート 西崎芽衣
245p 774枚：白猫プロジェクトダグラス2 テトラ
248p 775枚：出たな！ツインビー　メローラ姫
Pick☆Up 251p 776枚：ドラゴンクエストⅣ　マーニャ
Pick☆Up 257p 777枚：ヒーローアカデミア 麗日お茶子
Pick☆Up 263p 778枚：fate grand_order　酒呑童子
269p 779枚：グリムノーツ 赤ずきん
272p 780枚：エルソード アラ・ハーン
275p 781枚：ミリオンアーサー ニムエ
278p 782枚：フィリスのアトリエ リアーネ・ミストルート
281p 783枚：LoV3 エンプーサ
284p 784枚：黒猫のウィズ　ミコト
287p 785枚：EXVSマキシブースト セシア
290p 786枚：艦隊これくしょん 青葉
293p 787枚：シャドウバース イザベル
296p 788枚：ロードス島戦記 ディードリット
299p 789枚：ルフランの地下迷宮と魔女ノ旅団 ドロニア
302p 790枚：スパロボ メルア
305p 791枚：パズドラクロス アナ
308p 792枚：ワンダークラウン アイダ
311p 793枚：NewGame 葉月しずく
314p 794枚：タブー・タトゥー 一ノ瀬桃子
317p 795枚スクールガールストライカーズ 沙島悠水
320p 796枚：フラワーナイトガール プルメリア
323p 797枚：白猫プロジェクト トモエ
326p 798枚：アクティヴレイド 星宮はるか
329p 799枚：神羅万象チョコ 魔導師セイザーヴェルス
332p 800枚：GUILTYGEAR Xrd ディズィー

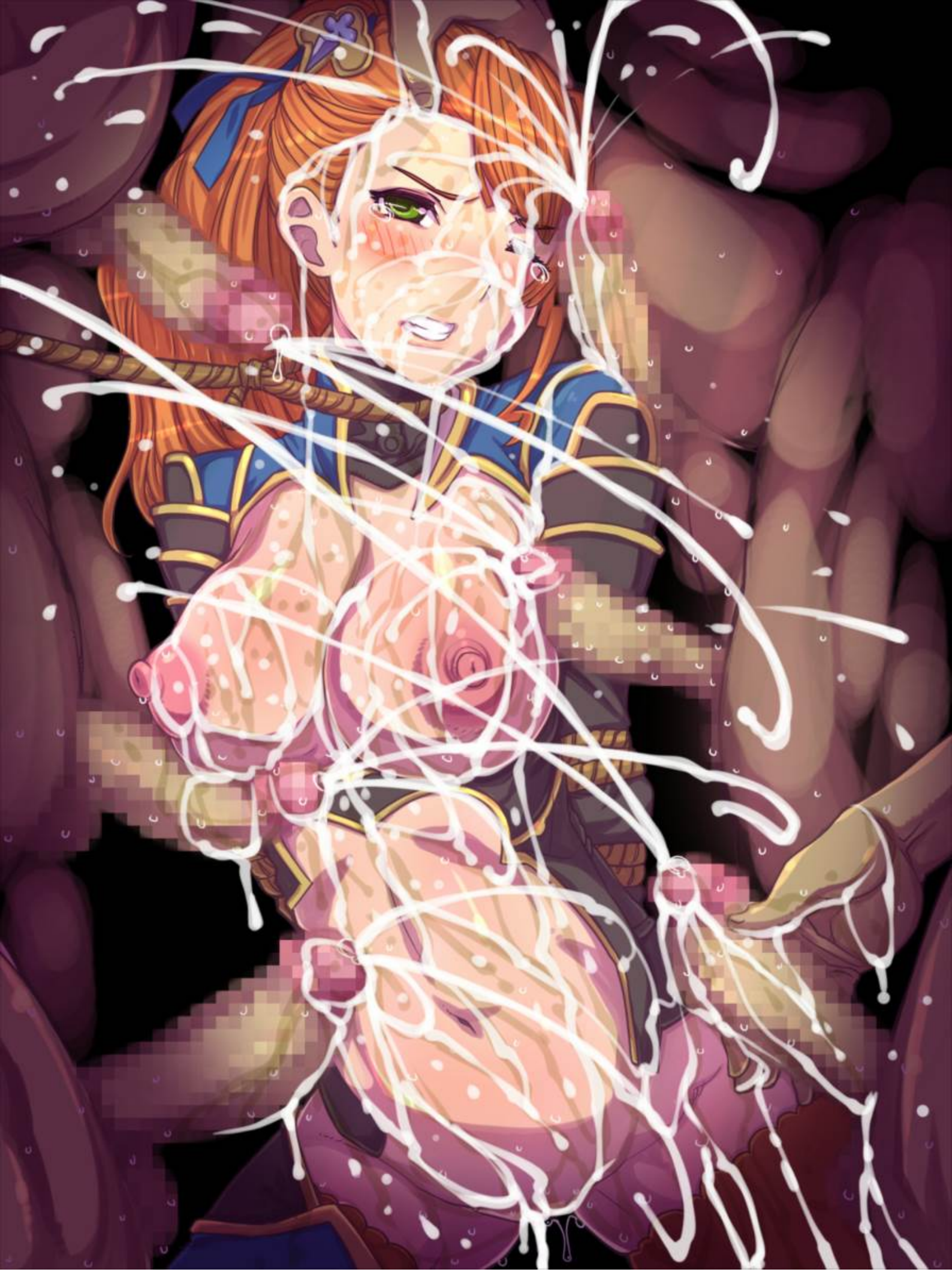


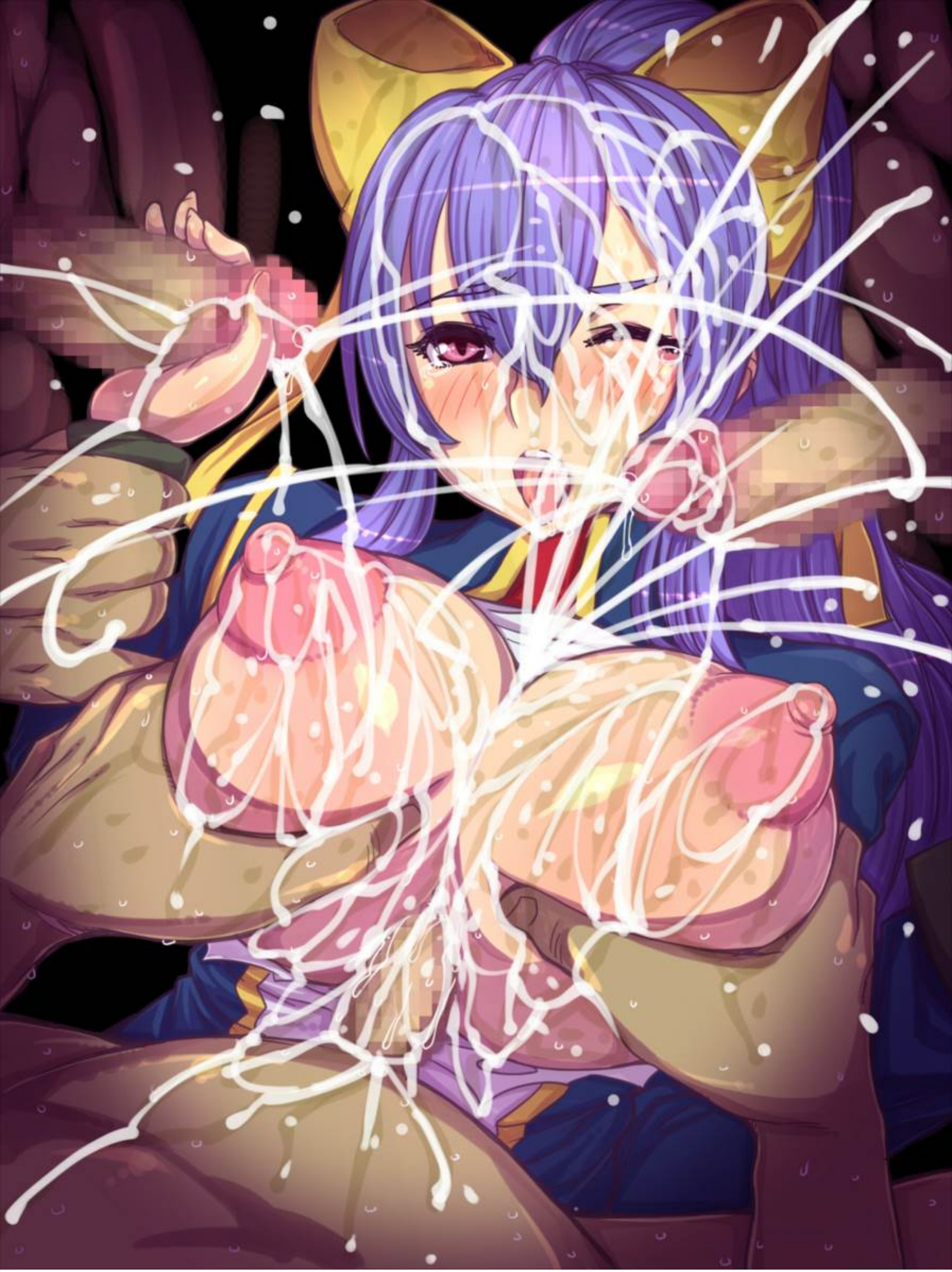


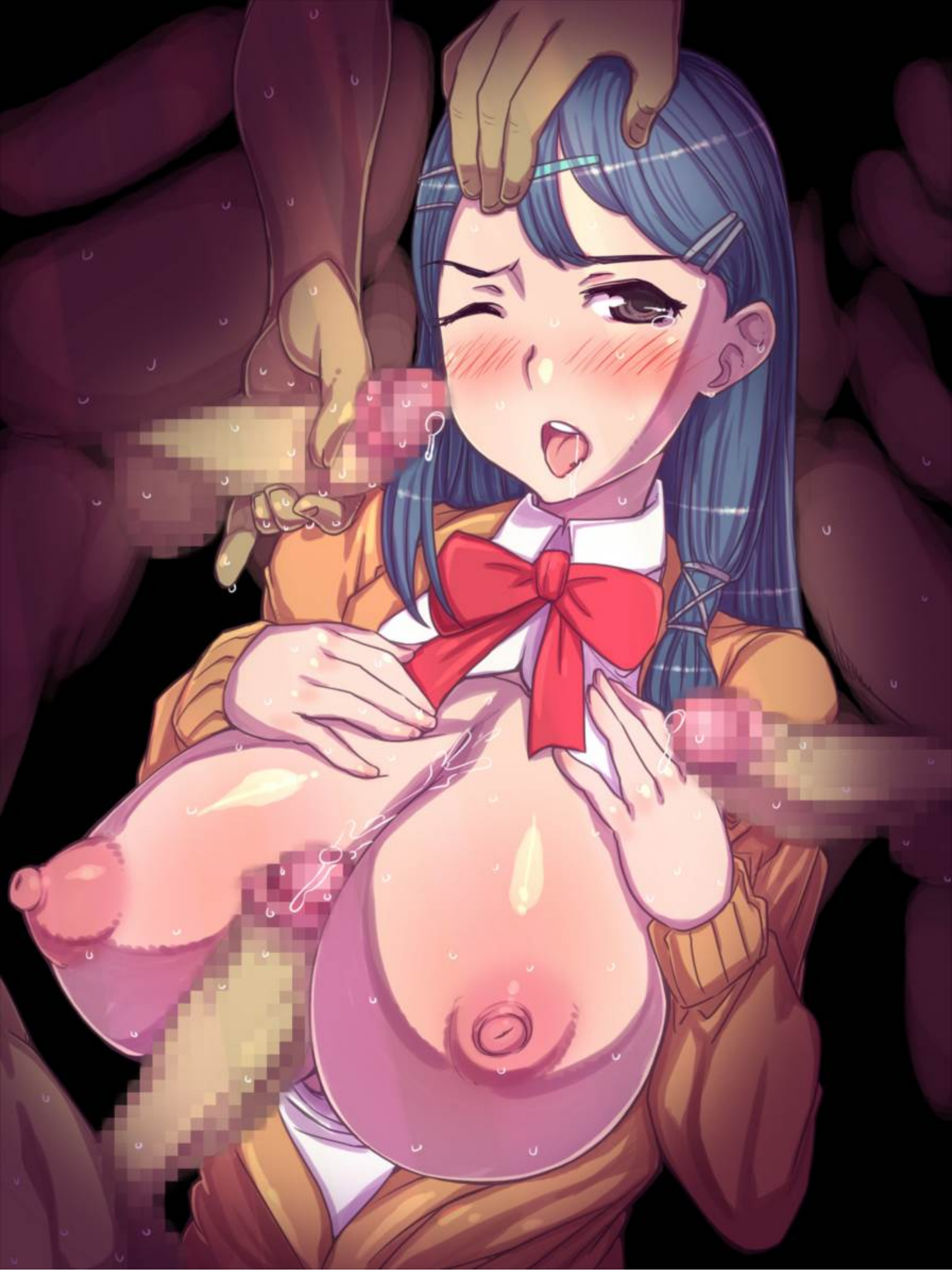
すげぇでてるっ…あひっ
イグッ!イグッ!イグッ!
うっ!ゼクン
んくぅっ
ずびぃ!!
どぴぴ!!
イクッ!でるっ!
でるっ!でるっ!
ゼェクッ
ぜクン
ぜクン
ぜクン
びゃばっ
ダメッダメッ!
んっんあっ
どぴゅっ!
ぜクン
あひっ
出るっ…
うっ!
うっ!うっ!うっ!
ウッ…
おぉでるでるぅ~
イグッあ~でる…
ぜクン











710枚目　ウザル・デリラ

Pick☆Up

楽園の暗部で

シナリオ by メガネスキー

人口リゾート地、セナンクル島

人々がにぎやかでさわやかに楽しむ景色の奥深く、ある施設の一角で
その宴は始まろうとしていた。

「さあ、起動認証キーの場所を言ってもらえますか」

屈強な男達が目の前で四つんばいになっている女を見下しながら言う。

「ふっ、さあね、暴走事故の崩落に巻き込まれて潰れたんじゃないかね…」

褐色の女は火照り暴走しそうな自分の肉体を汗でびっしょりに濡らし
強がることでようやく意識を保っている状態だった。

「科学者なら無駄だと分かりそうなものですがね　おい、もう一本射て」

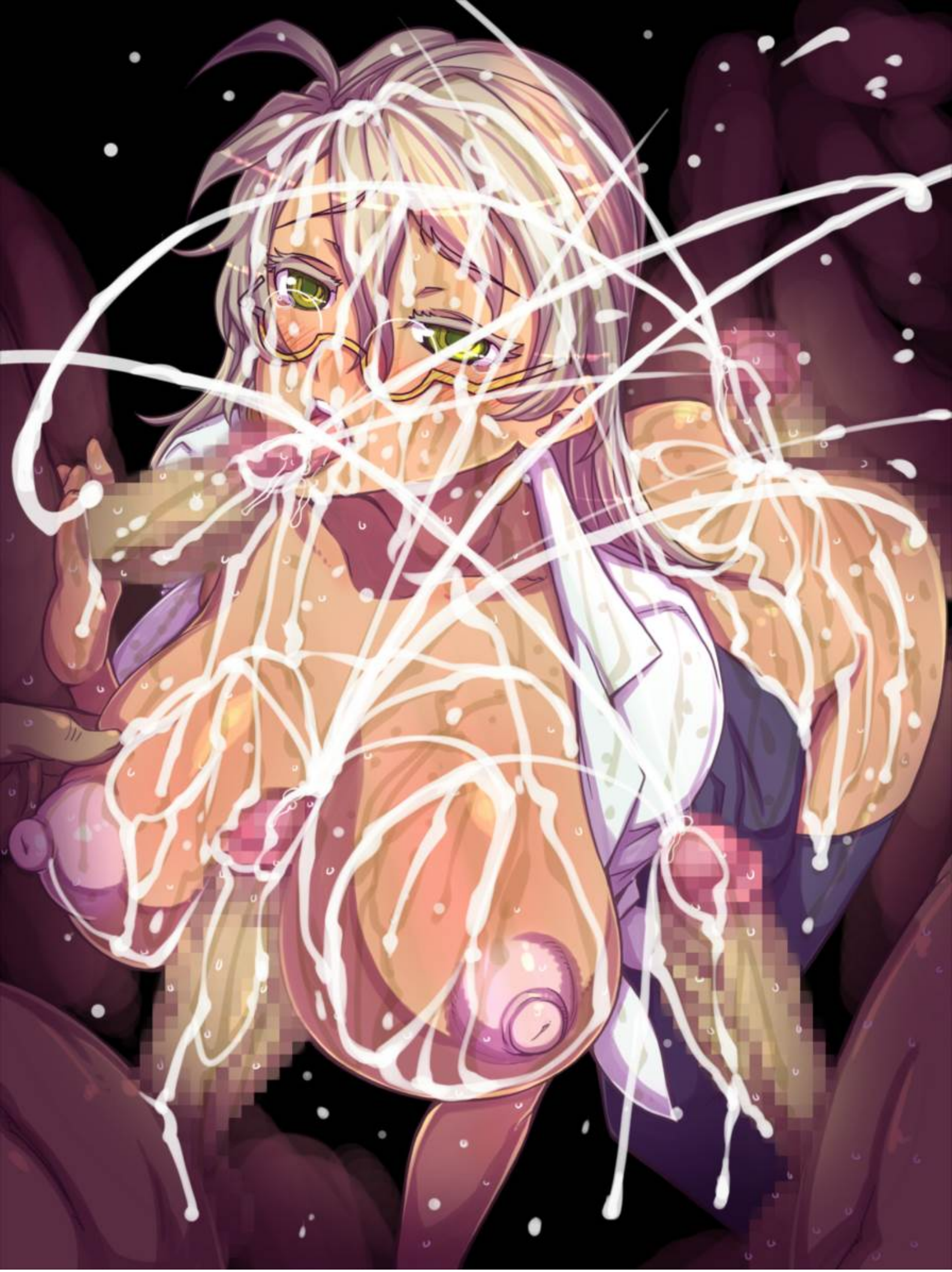
自白剤…すでに二本射たれ、これが三本目…
個体差はあるものの、廃人になるライン…

落ちそうな意識のなかで抵抗のために必死に思考をめぐらせる、しかし
薬剤に含まれる別の効能が彼女の支配を始めていた。

淫乱の効能…　褐色の女科学者、ウザル・デリラの肉体に
その薬剤はメスの肉欲を暴れ狂わせはじめていた。

「暴走事故・・・ですか・・・・
　ご自身の開発した兵器の暴走で事故死を偽装するとはなかなかでしたよ」

「体長・・・うへへへ、そろそろ・・・」



「やりすぎて壊すなよ…」

彼女に話しかけていた男が部屋を出ると、残された屈強な男達が色めき立つ。

「ああ・・・お、おかされ・・・ちゃう・・・あひぃ」

ウザルの意識はもうすでに肉欲に押しつぶされていた。
自身の高尚な科学者という自信をかなぐり捨てて、淫行にふけりたい…
男達に乱暴にねぶりまわされて、おかされて、イキたい・・・

「あああ～ちんぽぉ！ちんぽくるぅ！いやあああ！」

科学者が持つ知の崩壊への恐怖、女の持つ生物的肉欲の狂喜、
右脳と左脳が交互に感情をスイッチして、
まるで狂ったかのように喘ぎ始めた。

「おほぉ！この女自分から咥えはじめやがったぞ！」
「みてみろ！こいつケツの穴まで愛液でドロッドロだぁ！」
「そんなに犯してほしいのかよ～！仕方がねえやつだぜ」

屈強な男達が服を脱ぎ、さらに野獣のような肉体が露になる。
臍まで反り返ったペニス、乱暴にクリトリスを撫で回すであろう太い指、
下品な言葉とクサい息で乳首を好みしゃぶる唇・・・

男達の肉体が、ウザルの肉体を貪り楽しもうとする快楽の期待と
知的で高尚な彼女の精神やプライドを、乱暴に嬲り壊そうとする恐怖

「あああ～！こわれるっ！こわれるぅう！あひいいい！」

どろどろに解けていく景色、ひたすらペニスをしごき、嘗め回す。
愛した人が喜ぶように覚えた行為、自分もそうして欲しいという欲求を重ね
狂い暴走する肉欲のまま穴という穴で男達のすべてをくわえ込もうとする！

「いやああ！いやっ！やめてええ！ご゛わ゛れ゛るぅ～！」

「おら、パイズリしろ！自分ばっかしヨガってんじゃねえ！」
「ケツ穴ほじってやるからな！おらっ！おらっ！すげええ！しまるぅ！」

前、後ろといわず、上からも下からも男達のペニスが襲い掛かる。
ペニスは容赦なく白濁液を浴びせそこから自我崩壊の恐怖が染み込んでくる。

「いやあああ！いぐうううう！あひぃい！ひぐぅう！」

恐怖、快楽、畏怖、絶頂・・・・

言わないと壊れる、言っても壊れる、壊れたくない、いや、もう壊れたい・・・
「でるっ！でるぅうう」「イクぞ！いくいくいくいくぅうう！」
「顔ッ！顔出せ！ガンシャだイク！！！」

「あへえええ！あひぃぃいいい！」

飛び散る男達の大量体液が、ウザルの脳内に快楽物質をどくんどくんと
打ち出されるビジョンと重なる。彼女の思考は快楽に負けてそれを貪っていた。

「適当なところで彼女のメガネからデータを吸い出しておけ」
「は？ではあそこに起動認証キーが？」

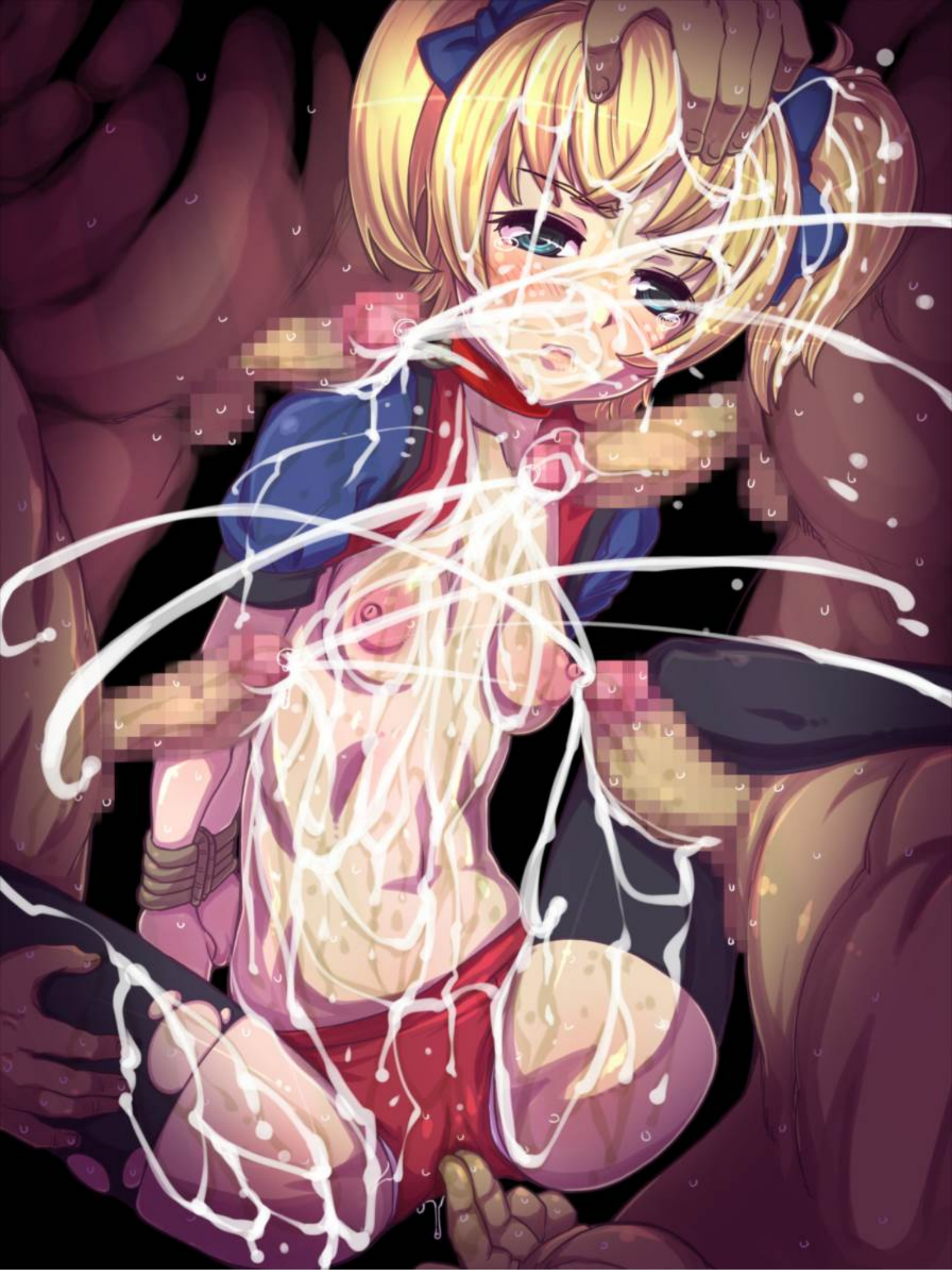
別室のモニタで見ていた男は研究者用のいすに体を預け目をつぶった。

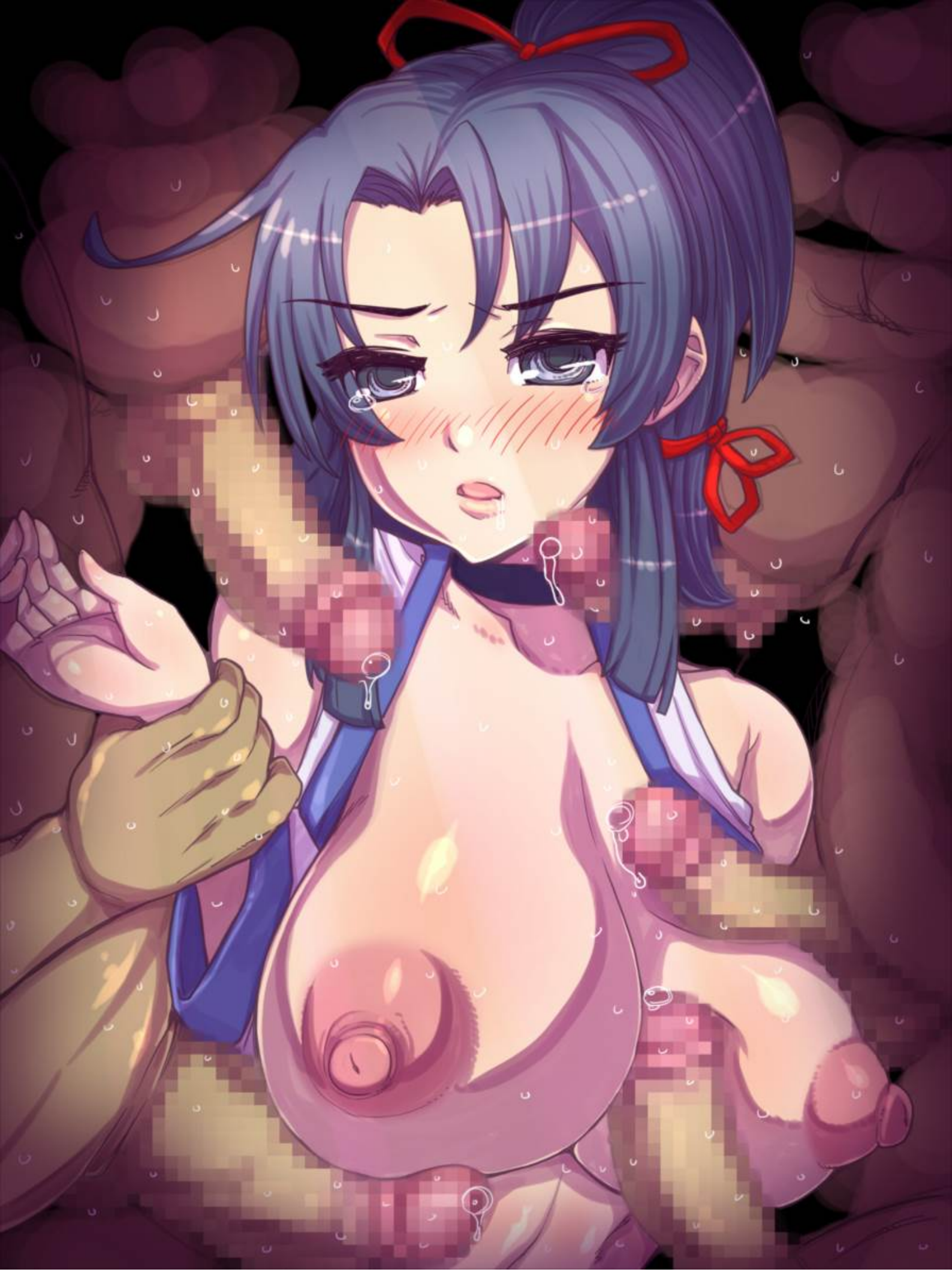
「下手に手を出してデータを消されたらかなわんからな
　どんなに強く賢くても、女を篭絡させるのは肉欲、昔からそう決まってる」

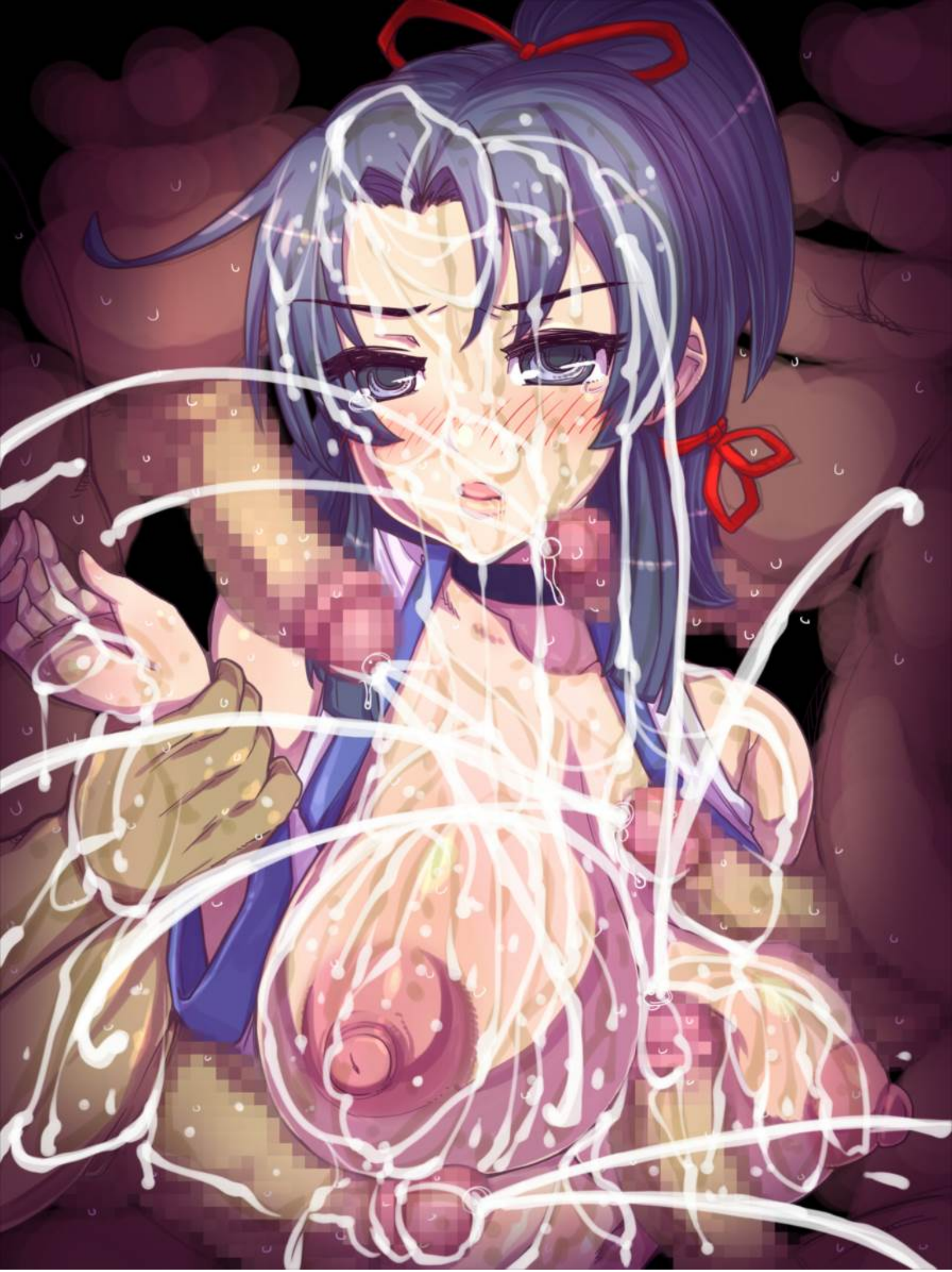
モニタの向こうではかつて賢かった女が肉欲に負けてよがり狂っている。

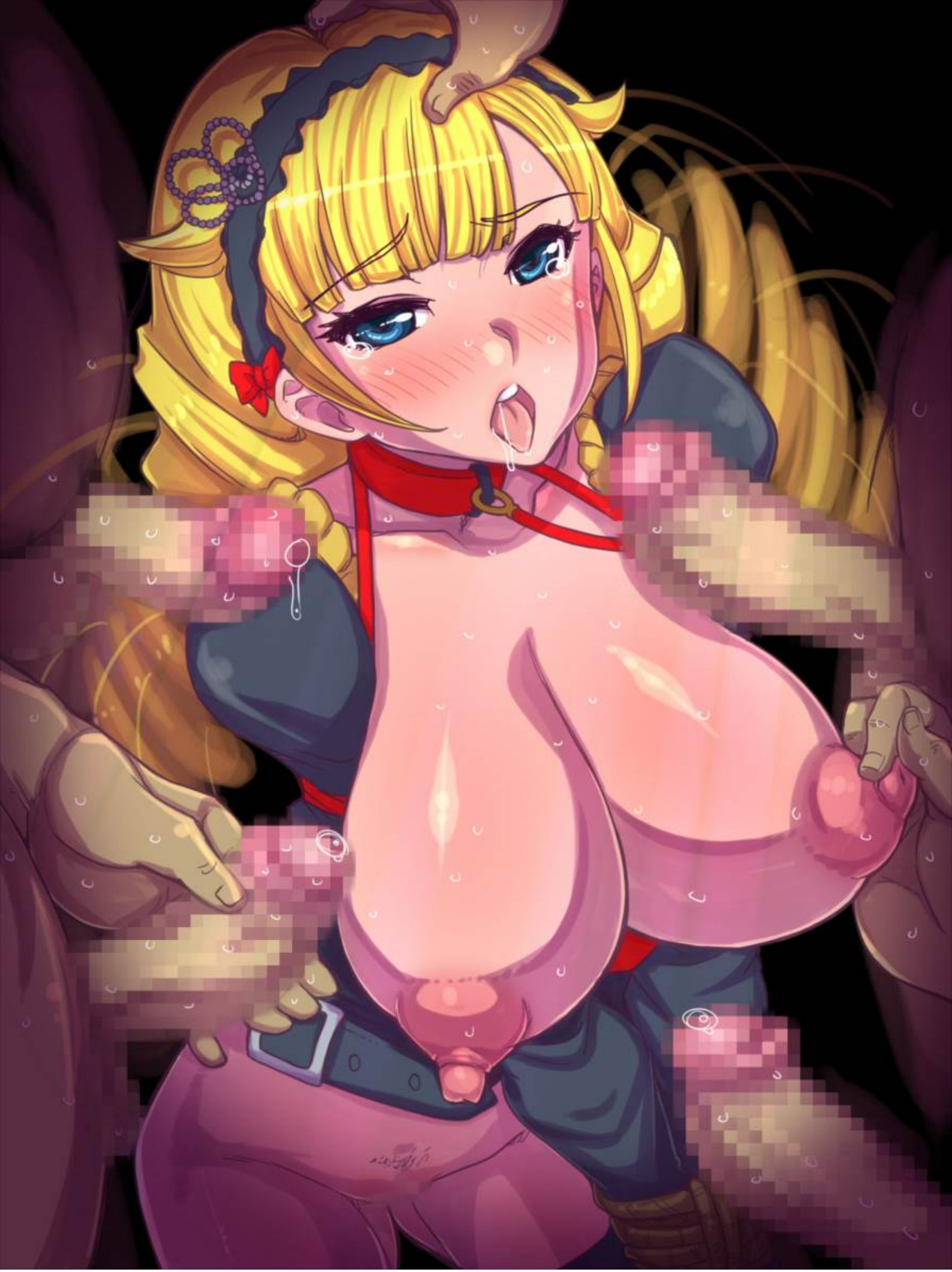
「リゾート地の表の顔が平和の表情をたたえているのなら・・・
　この饗宴は・・・狂喜と恐怖が支配する兵器の開発にふさわしい
　あるべきウラの姿なのかもしれない・・・・なあ？博士・・・」

END









716枚目 ヴィヴィ・ロリータ

Pick☆Up

無数の茎と一輪の薔薇

シナリオ by PYU

「き、キミ達は・・・いったいどういうつもりなんだ・・・！」

魔王城、その薄暗い古い城の地下牢に拘束された少女。
ヴィヴィ・ロリータは、姫君のドレスとは似つかわしくない、
ひざまず居た上で半裸と言う惨めな姿を晒していた。

「こいつが新しい肉便器かぁ・・・うへへ」
「どうするつもりかぁ？そんな事いわなくても、わかってんだろぉ？」

ニヤついた下品な笑みを浮かべる彼らは、魔王の下で働かされている男達だ。
彼らは褒美として新しい餌、彼らの言葉で言えば「肉便器」を
ちょうど与えられたところだった。

「前の肉便器姫ニナちゃん、もうボロボロだもんなぁ～」
「ヴィヴィちゃ～ん、今度は大事にするよぉ？よろしくね～うへへへぇ」

『妊娠・・・』『レイプ・・・』『パイズリ・・・』『中だし・・・』

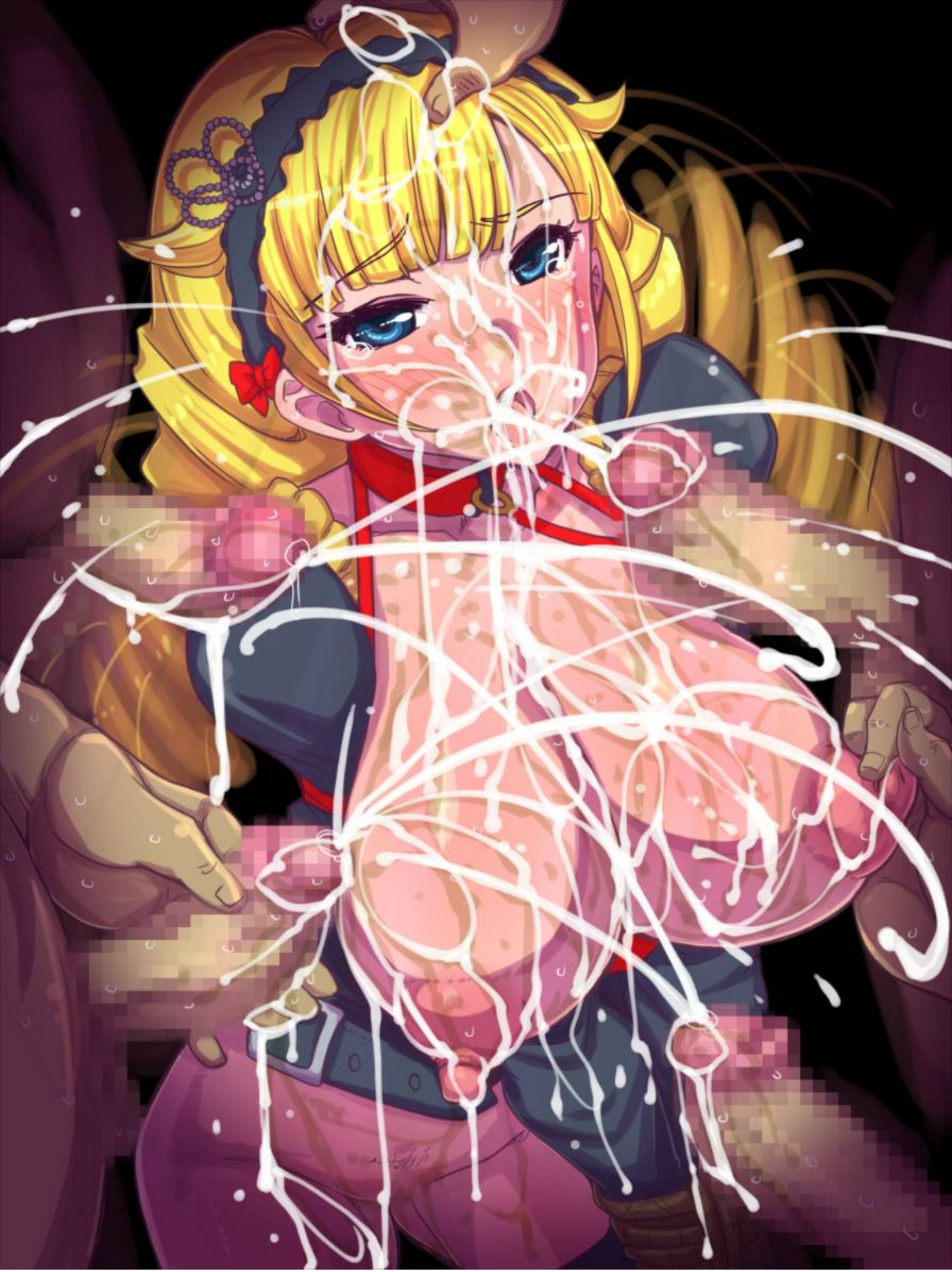
「ひぃ・・・!!!」

男達の下品な想いが、彼女の心の中へ流れ込んでくる。
悪夢のような妄想、少女の悲鳴、体臭、ぬめり、
その果てに溢れる下品な快感・・・

彼女の一族は真実の心を映し出す能力を持っているのだ。
男達の心、欲望にまみれた想いなどは手に取るようにわかる。

「ウソ・・・ウソウソ・・・・あああああ！」

だから聞かなくてはならなかったのだ。
彼らの「真実」が、あまりにグロテスクすぎて、信じられなかったのだから。



「やべえ！ちんこがギンギンに勃ってきた！」
「みろよこいつ！乳首たってやがるぜえ！いじってやれ！」

男の卑猥な感情、思いなど、今までだって散々感じてきた。
それが彼女の心を苦しめることもあったが、乗り越えるだけの強さもあった。

しかし、こんなに醜い感情があるとはにわかには信じられなかった。
自分のような美しさ、かわいらしさを、欲望のままに汚したいと願う、
恐ろしいほどにグロテスクな肉欲の感情・・・

「ああ～おれもう我慢できねえ！ぶっかけるぅ・・・・！」
「お、俺もぉ～もう何日もガマンしてんだよぉ」

信じられない・・・自分がこんなに恐怖で嫌がっているのに、
彼らはそれに興奮している・・・

ヴィヴィの心は複数の男達の肉欲にすでに嬲りまわされ、
完全に折れていた。

「せ・・せ、精液を・・・か、かけるの・・・？」

ニヤ突いた男達が、涎をたらさんばかりに口を半開きにし、
彼女の痴態と慄きを餌に興奮している。その興奮を表す肉竿の猛りが
いまはちきれんばかりに天をあおぎシゴかれている・・・！

「やっ！だ、出すな、私に向けて出すな！だすなぁ～！」

ああ、彼らにはこの命令さえも、懇願さえも、醜い豚に与える餌なのだ・・・
完全に諦めきった時、彼女の中にグロテスクな快感が急激に流れ込んできた。

「もう限界だ！ああ！でるぅう！」「ああ！すげええ！キンタマ空になるぅ」
「おああああっ、いく、いく～！」「ウォッ！うぉおおお！」

びゅっ！びゅるっ！びゅるるっ！！びゅるるるっ！！！
どびゅびゅっ！びゅるるるう！どくっどくっ！どくんどくんどくん！

「ああ！あああ！でてるぅ〜！よごしてるッ！便器にされてるぅ・・・！」

男達のペニスから大量の白濁液が放たれ、カラダを白く染め上げていく。
諦め、心が完全に折れると同時に、彼女の真実を映し出す能力が
男の肉欲を否応なく受け入れはじめていた。

「ああ・・せいし・・・よごされ・・あ・・いく・・・いいッ
　レイプいい！ああ！あ――――――――――――――――――――！」

自我が崩壊してだらんと開かれた口、顔にかけられた精液が滴りながら
その口にたまり、溢れ、激しくナマ臭い匂いすらも、快楽の一部として貪り、
よがり狂っていく・・・

「おおッ！すげえ、急にヨガりはじめやがッたぜ！もしかして興奮してる？」
「ああイキそッ！まんこドロドロじゃねえか！イイだろ、おらケツだせ！」

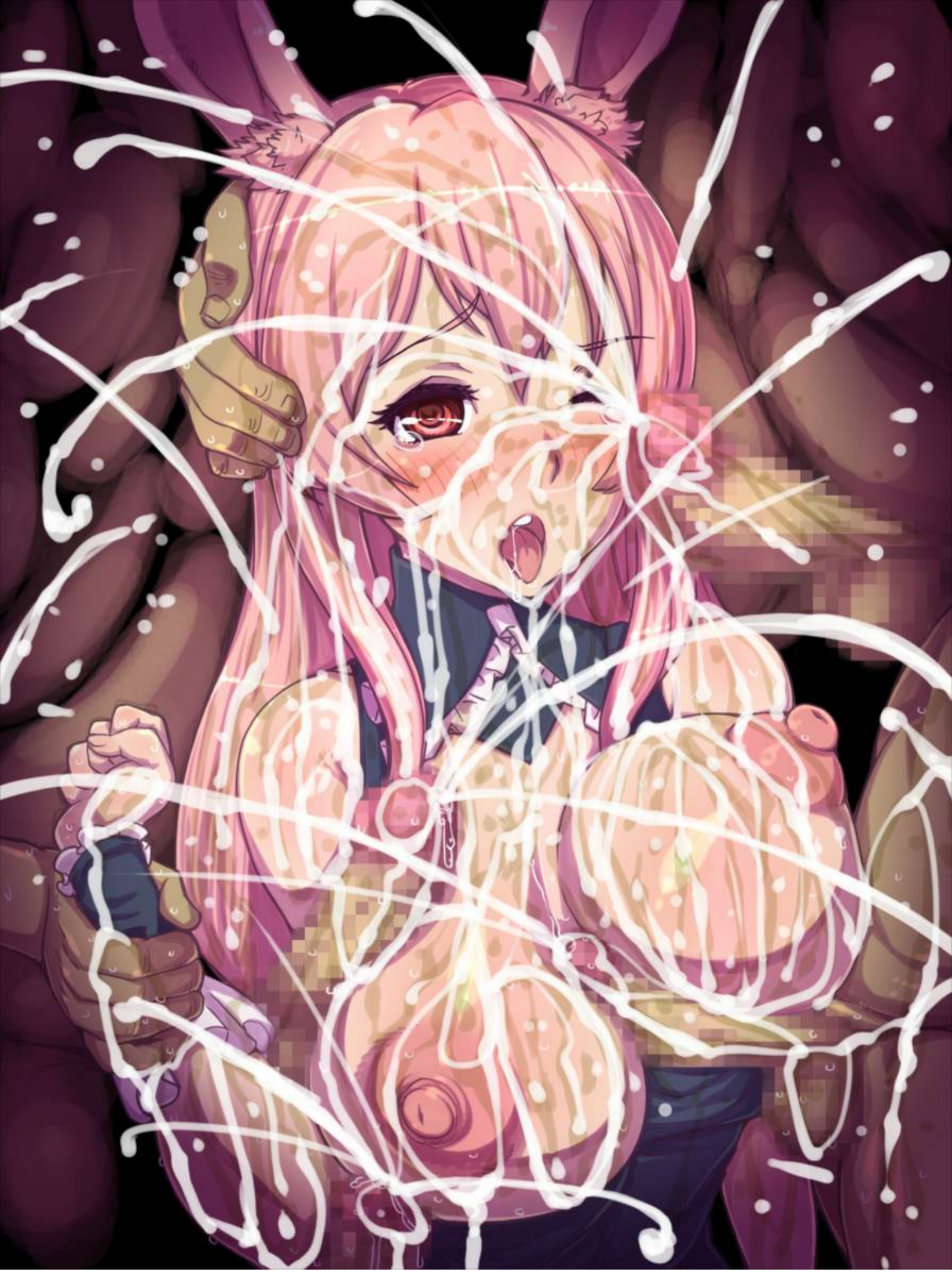
「ちが・・・興奮なんて・・・あっ！あっ！ああ！あひぃい！あへええ！」

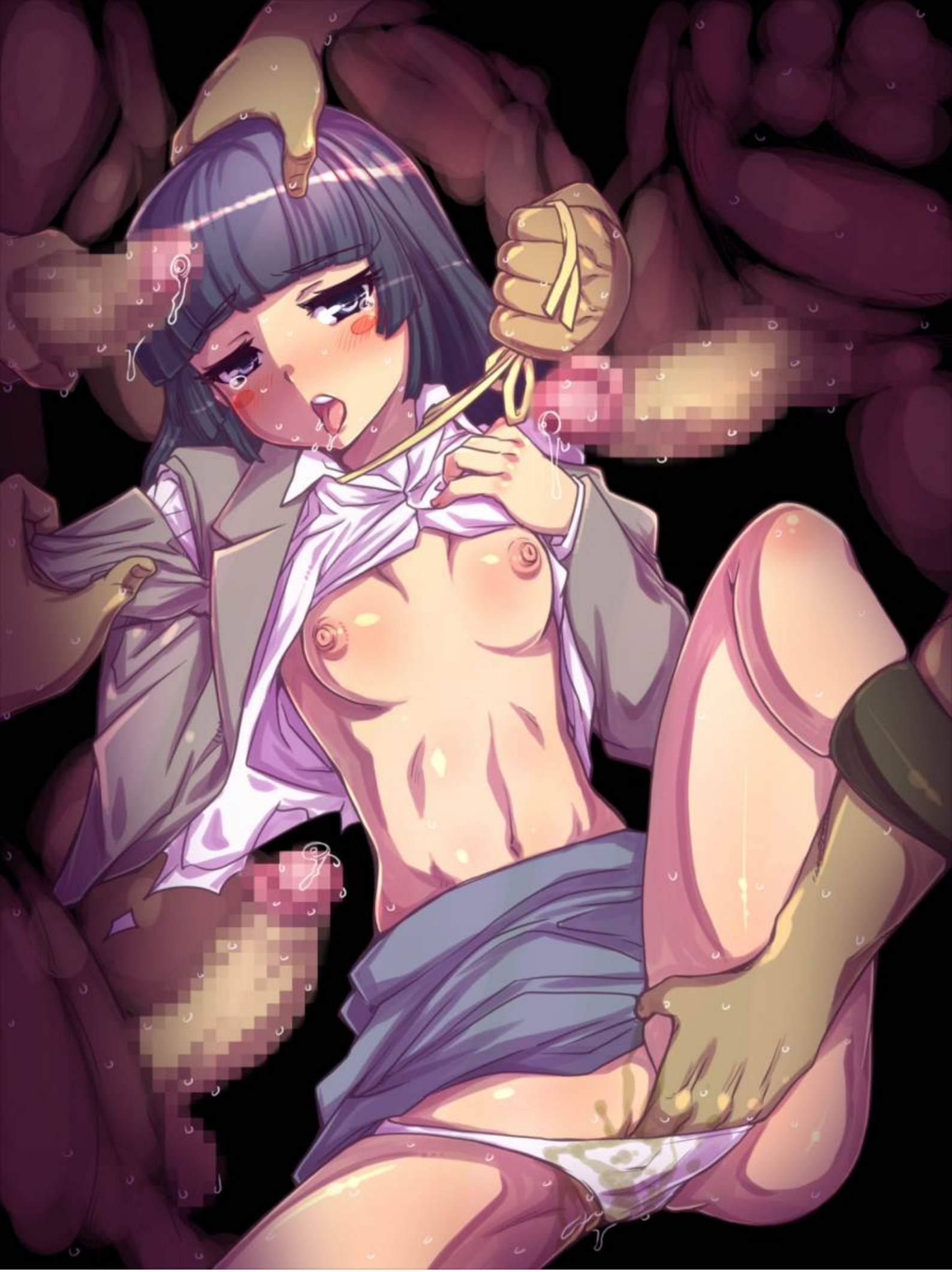
壁に押し付けられ、動物の交尾のように後ろから犯される。
水桶に映るヴィヴィの顔がその格好に良く似合うメスの顔になっていたのを
彼女のぼんやりとした意識が見つめていた・・・・・。

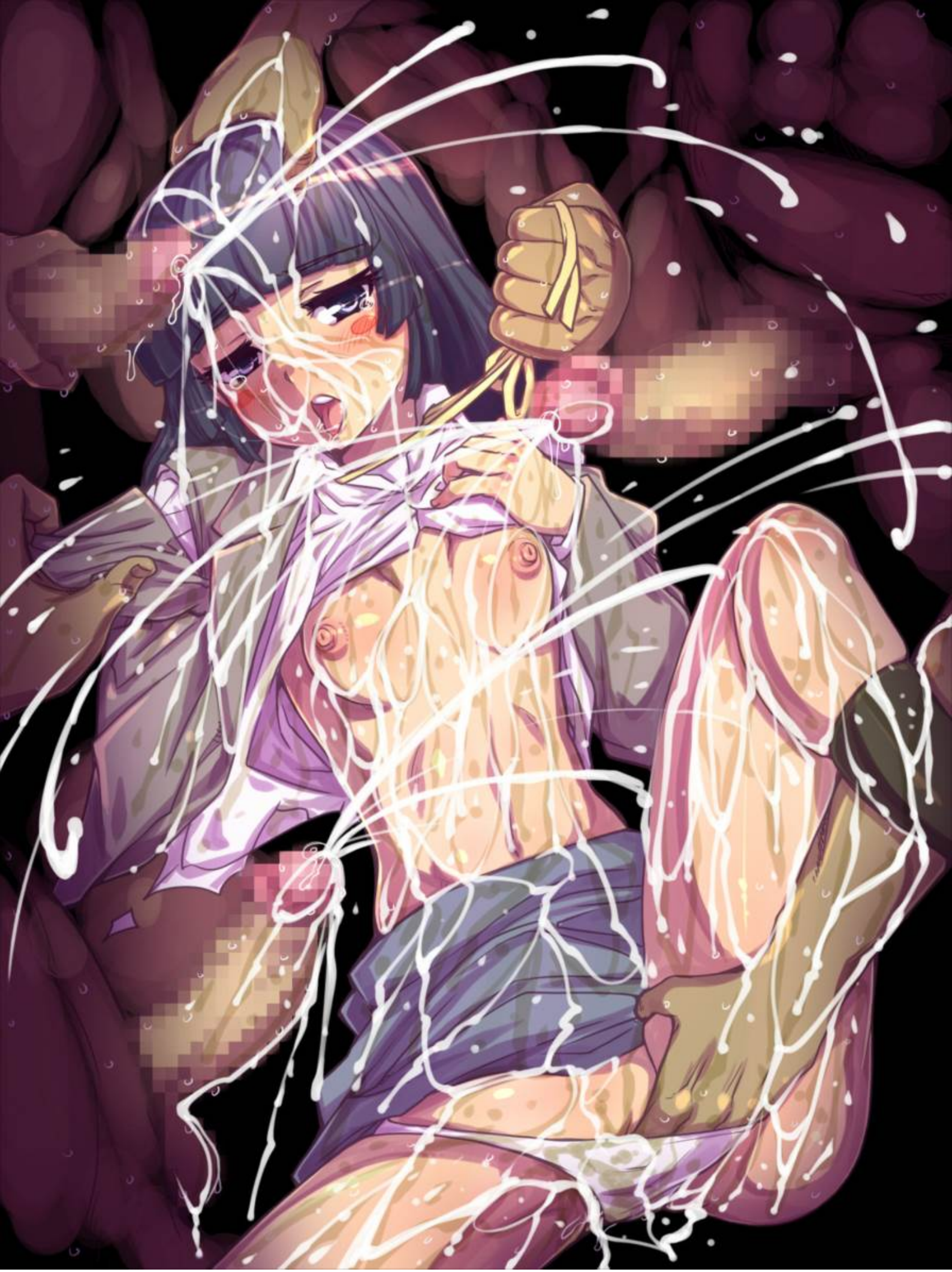
数ヵ月後・・・
近頃は男達も足を運ぶことが減った。あんな下品な感情の生物にも
孕んだ女を犯すのは気が引けるとみえる。　来ても「いいか？」などと
許諾を求めるのだから、ふざけたものだ。

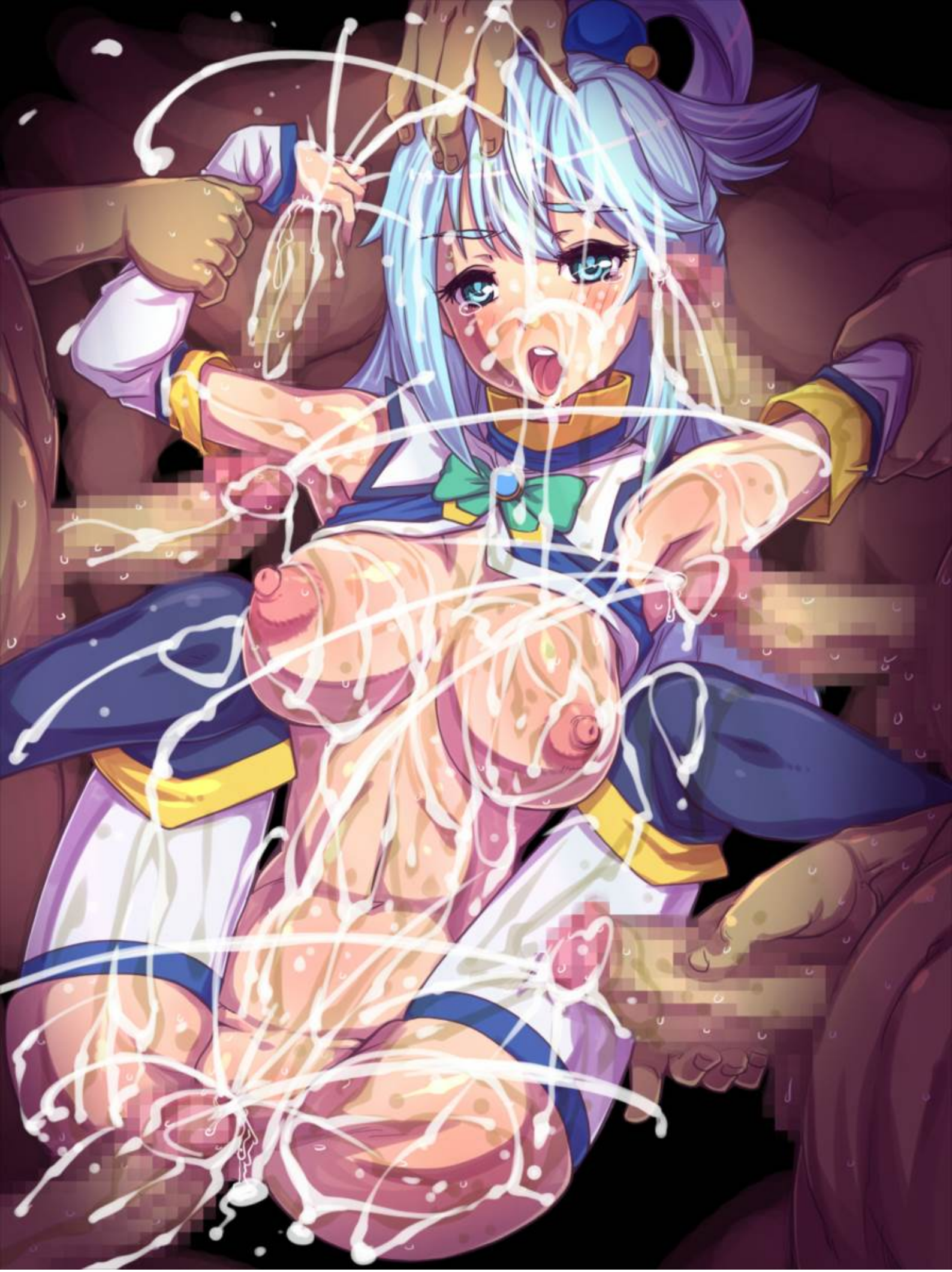
「いいに決まっている、私は・・・キミ達の・・・肉便器なのだから・・・」

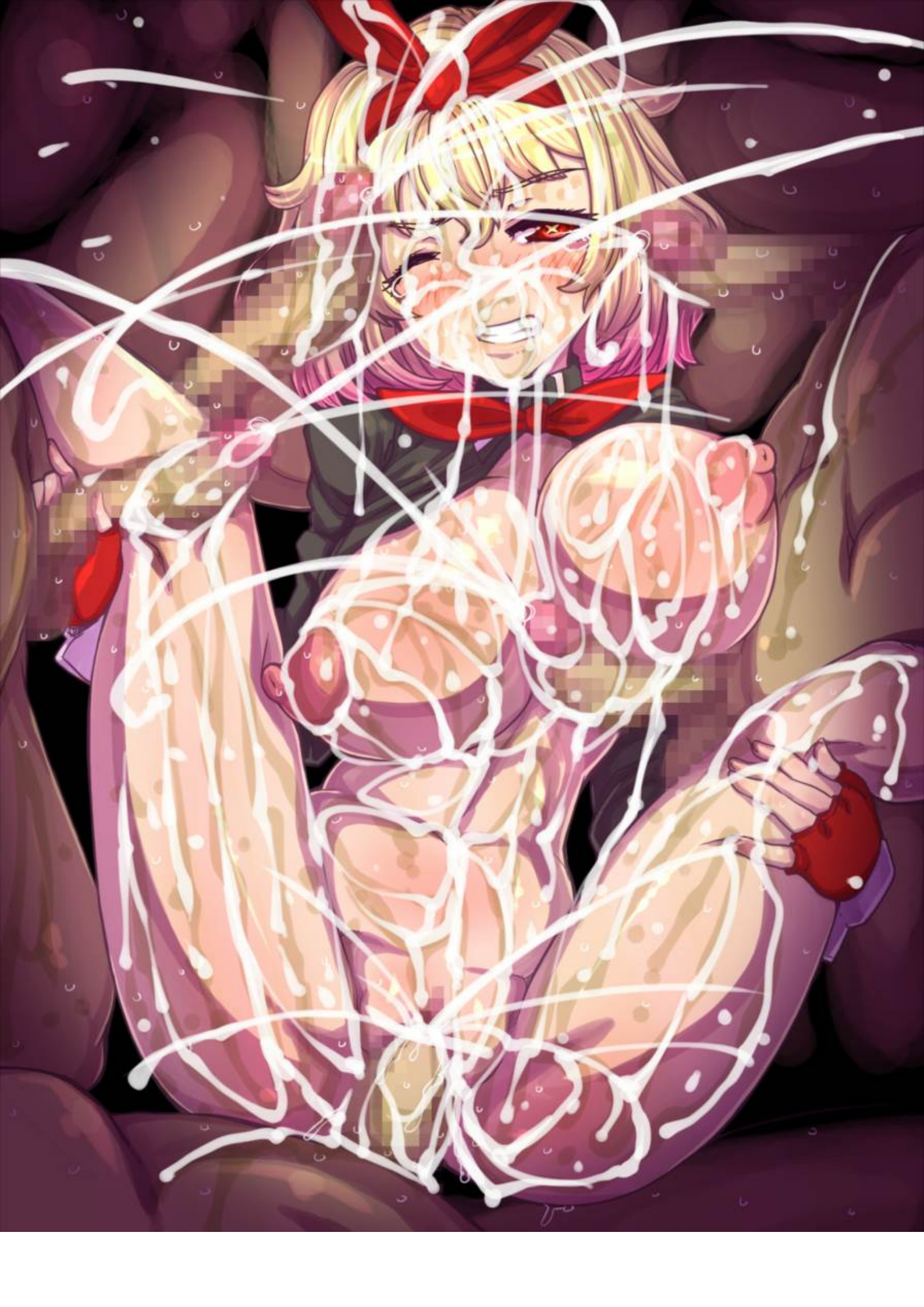
END











726枚目　ひなビタ♪　久領堤　耀

Pick☆Up

倉○川市へようこそ♪

シナリオ by クスフィアス

「ええ～本日集まっていただいた皆様は、アンケートによりますと、
都会での仕事に疲れ、ケッコンもできず、ドーテーでございましてぇ・・・

おっとしつれい、つまりですね、我が市にお越しいただける資格が
十分と判断いたしましてぇ、我が市の魅力をご紹介させて頂こうと
そういうわけでございます！」

小会場に集められた男達。
やたら豪華な招待状につられて来場した男達は過疎地の案内だと知り
会場にはしらけたムードが漂う。が、紹介者の登場で空気が変わった。

「よ、ようこそ皆様、今日は、我が市の魅力を・・・
存分にご堪能していって下さい・・・！」

壇上に現れた、秘書のような美人の女性。

会場の男達の誰もが、綺麗な女性だと思った次の瞬間、
彼女はおもむろに胸をさらけ出し、股を卑猥なポーズでM字に開脚すると、
潤んだ瞳で陰部を弄り始めたのだ。

「！！！！！！！！！！！！」「ど、どういうことだよこれ！」

「さあ皆様っ・・・我が市の魅力を・・・存分に堪能してくださいッ！」

どよめく男達を尻目に、彼女は困ったような顔をしながらも、
懸命にエロティックなポーズでアピールしている。

「み、皆様、さあ、日々の疲れを、倉○川市が育んだエロい体で
どうぞ癒してください・・・・」

「おい、これ、ヤッちまっわねーと損じゃね？」「お、おう、そうだな・・・」

ひとりの男が彼女に近寄ると、
まるでタガが外れたように一斉に男たちが詰め寄る。

「ちょ、み、皆さん、そんなに慌てないでください……ほらっ、ね？」

彼女が艶かしい手つきで男の腰に手を回す。
慣れているわけではないが懸命にベルトとズボンのチャックを下ろし、
ペニスを優しく取り出すと、既にいきり立つ肉棒の先端へ、軽くキスをした。

「わ、私の唇がこんなに柔らかいのも、
　倉〇川のおいしいお水のおかげですよ・・・？」

すこし困ったような表情が、男の情欲をさらに滾らせる。
周りの男達もその異様な光景にガマンができず、一斉に彼女の愛撫を求めた。

「おっ、おおお、おれもっ、おれもっちんちんにっ、ちゅ、ちゅー！！！」
「俺が先だぞてめぇ！　はやくっ、はやく俺のちんこ舐めてぇ！！」

次々と勝手な言葉を並べる男達。すでに勃起してはちきれんばかりのペニスを
彼女に向けてキスをせがむ。

「あ・・み、みんな欲張りですね・・・そんなに・・・一度には・・・あっ」

久領堤纏は誘致の為に性的なサービスで市の魅力を紹介するという
タウンマネージャーの裏の顔を与えられていた。

こんな信じられない卑猥な役職、はじめは抵抗したが、上が決めたことには
逆らえない。逆らうという事は、安定した職を失うということなのだ。

「俺！おれえ！」「どけよ！おれが先だ！」「こっちこっちおおお！」

「え、え、うそ、アッ！！！」

どびゅっ・・・・

異様な空気にガマンの限界を迎えた男が、彼女の体に白濁液を吐き出す。

「お・・・おあああ！おれもおれもおれもおお！でるでるでるうう！」
「イク！おらこっちみろぉ！おらっおらぁ！」「しゃぶって！ほらほらあ」

一気に精液の海に沈む纏。男達の容赦ない射精に、自分をなくさないように
懸命に市のアピールを続ける。

「く、倉〇市のっ・・・のどかな空気が・・・この柔らかで豊満な胸を！
　あ！あああ！　ちょ、やめて・・・だめ・・・あああ！」

乱暴に体を撫で回され、精液と涎と汗とでどろどろになっている。
ストッキングを引き裂き、今にも膣に挿入しようと男達が
纏の体に勃起ペニスをつき立てる

「まって、そこは、そこはだめ・・倉〇川市…のぉっ！
　良さッ　んんんっ！んああ！」

「おい、おれ引っ越してくるぜ！だからよぉ・・・なあ？」
「お、おれもおれも！」

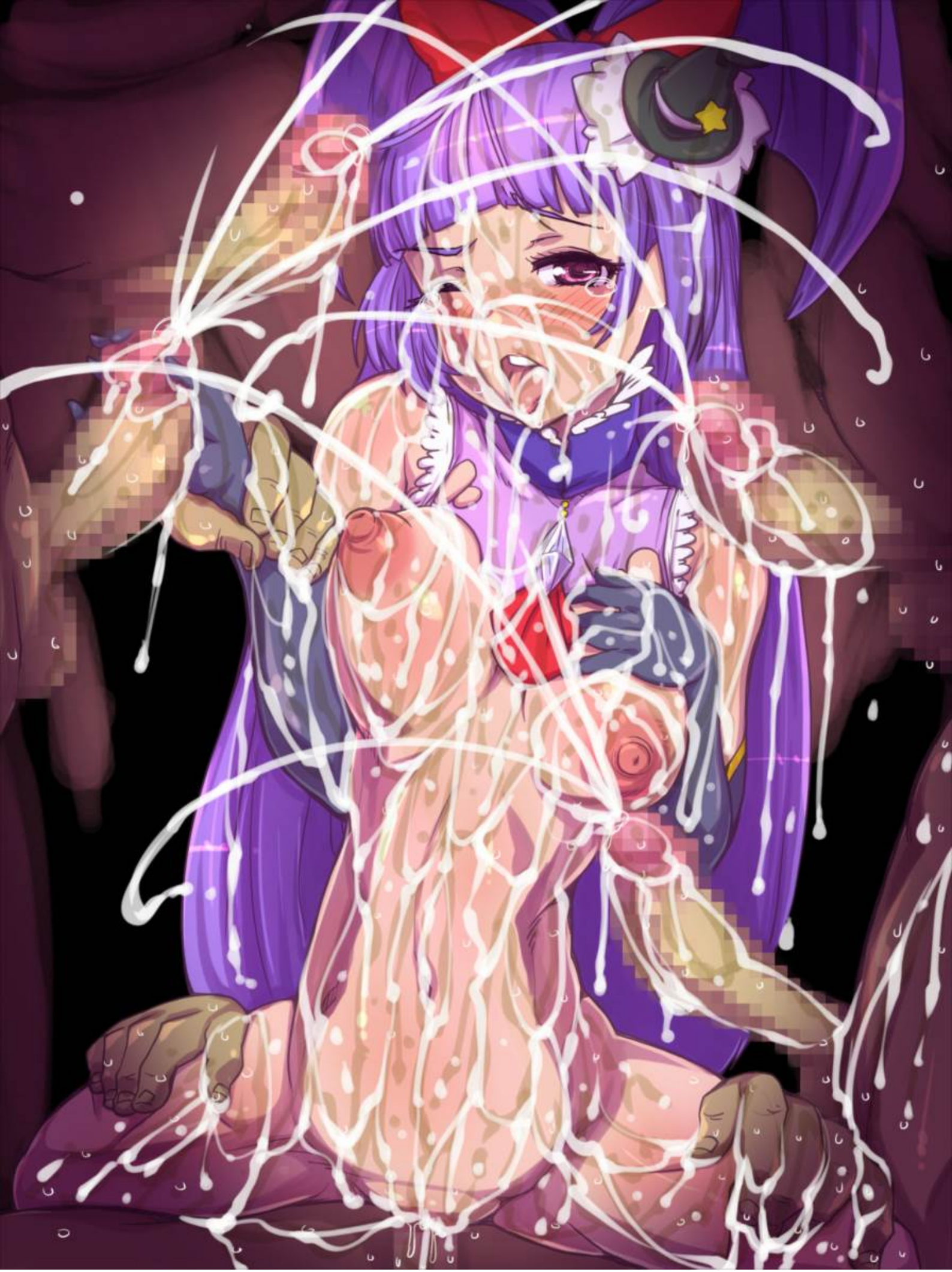
「それでは皆様、こちらに移住承諾書をご用意しております
　承諾された方から順に、纏君のオマ・・失礼、倉〇川市の一番の魅力を…」

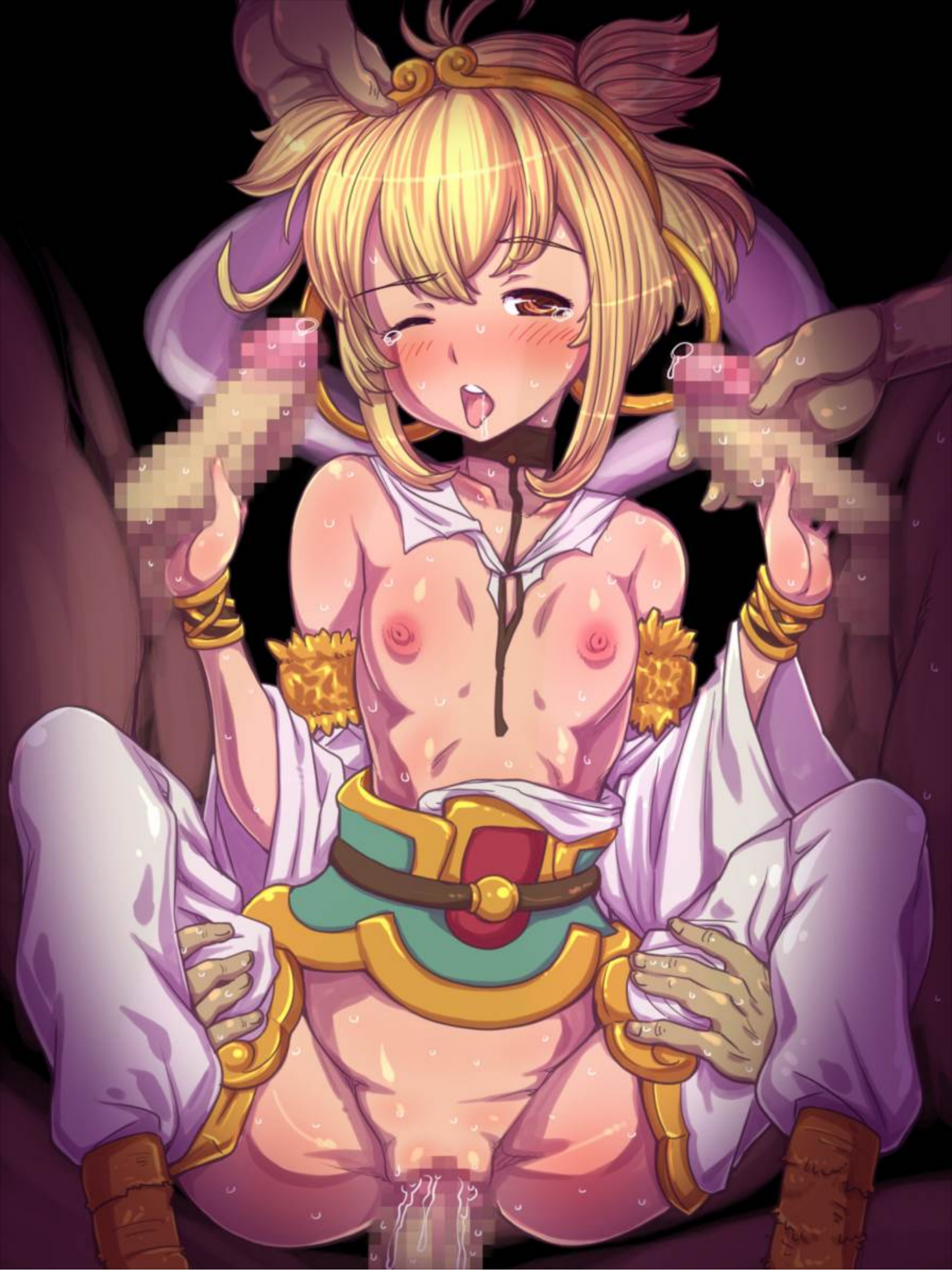
男達が我先にと承諾書に記入していく。あの数の男たちと・・・ぶるぶると
恐怖で体を震わせる久領堤　纏の肩を上司が叩いて言った。

「大丈夫、移住してきたら彼らの相手をするのは例のアイドルチームだから
　纏君は今回だけの特別だからね？　ねえ？」

彼女達をいけにえにして、自分だけ助かる・・・？　その言葉に安堵する。
しかし、後悔も安心もかみ締める前に、承諾書を書いた男が、
彼女の方へ歩いて、近づいて来ていた・・・・。

END





735枚目　グランブルーファンタジー　アンチラ

Pick☆Up

精天大聖

シナリオ by クスフィアス

「うっ…ぐぅ…！　はな…せぇ！」

屈強な男達に四肢をガッシリと掴まれ、身動きが取れない少女。

彼女の名前は十二神将が一人、アンチラ。しかし衣服は剥ぎ取られ、
痛々しい傷跡とあざから、敗北を喫した直後のようだった。

「へ……へへっ、何が十二神将だ……こうなっちまえばただの女よぉ！」
「あぁ…生意気な言葉も、逆にソソるぜ…ひひひ…っ！」

男たちは数人で彼女を打ち負かしたようだ。無理矢理押さえつけ、
既に興奮からか、裸になって勃起したイチモツを晒け出している者までいる。

「うっ…くそぉ…お前ら、ヒキョウだ……っんんん！！？！！」

キっと睨み付ける彼女を、男はニヤニヤした顔で近づく。
体を密着させ、腰をこすり付けるように何度か動かすと、次の瞬間・・・

「はいっ！アンチラちゃんの処女開通～～～～～♪」

「～～～～っ！？！？！？　いたっ、いたいっ！！やめっ…んん！！」

まだ準備が出来ていない彼女の小さな入り口が、強引な男の挿入によって
ムリムリと裂け広がっていく。

初めて受ける自身の身体を貫く痛み。それに伴う切れ切れの悲鳴と吐息。
しかし、男の腰の動きがガツンガツンと乱暴で破壊的な衝撃を与え続ける。

「あぁ、初物を頂けるなんていいなぁ……」
「お前は尻穴にでも突っ込めばいいじゃねぇか、初モノかはしらねーがよ」

身勝手な言葉を浴びせる男達、しかしもうその声は聞こえていない。
姦通の痛みと激しい腰の打ちつけ、スゴンスゴンというリズムだけが
彼女の中で繰り返し響いている。

「はぁっ！はぁっ！中に出すぞっ・・・中にっ、うううっ！！！！」

「ああっ、だめっ・・・だっ　うそっうそぉっ！
　あっ！あっ！ああ！あああ！！！！あああああぁッ～～～！！！！！！」

呼吸も出来ないほど力強く抱きしめられ、膣の中に吐き出される。
どくっどくっと吐き出される感覚が分かるほど、大量の射精・・・。

悲鳴を上げる意外何も出来ない。それでも、徐々に男の力が抜けていくと
ようやく自分の体に起きた悲劇に意識が向いていく。

「あぁあ…うそっ……ボクがこんな……うそだよぉ……ぐずっ…」

挿入していた男はまるでゴミでも捨てるかのように彼女を放した。
しかしすぐ次の男に抱きかかえられ、ガバガバのどろどろになった肉穴には
非情な程張り詰めた肉棒がムリムリと差し込まれていく。

「へへへっ、まだまだこんなもんで休んでちゃいけねぇぜ？」
「そうそう、お楽しみはこれからだからよぉ……」

アンチラの華奢な体が、今度は下から激しく突き上げられる。
早くはないが、力強く激しい腰の突き上げの度に、アンチラの可愛らしく
厳かに実った乳房が、ぷるんっ　ぷるんっ　と揺れていく。

「あうっ！ああう！も、もうやめてよ…こんな事…おねがい…」

涙を浮かべ男達に懇願する。威勢の良さはもう微塵もない。
そんな事を考えられる余裕もないほど、彼女は激しく肉体を突き上げられた。

「うるせえよ、おらしゃべる暇があったらしゃぶれっ」
「おら、こっちもだろ、手で握れッつーの」

「やめて…もうやめてよぉ…うっ…ぐすっ……やだよぉ……」

どびゅっ！どくどく！どくん！

握らされていた肉棒が、脈を打って精液を吐き出す。
凄まじい量の白濁液が、アンチラの健康的な色の肌に滴り落ちていく。

「うっ！中に出すぞぉ！　なかっなかにっ！！！」

「ぁん！　あっ…出る、出てっ…んんんっ！！！」

今、目の前で見せられた射精・・・それが、自分の体の中で・・・・
グロテスクな匂いのあの汚い体液が、あんなに大量に・・・・？

「はあああああ！だ、だめええ！ああああ！あっ！あっ！ああああ！」

敗北と痛みと熱気で、自分に何が起こっているのかわからない。
でも、そんなことはわからない方が良かったのだ。

「顔っ、顔だせっ！ぶっかけてやるっううっ！！」
「あぁっ、もっと強く握ってぇええ！おっおぅうっ！！」

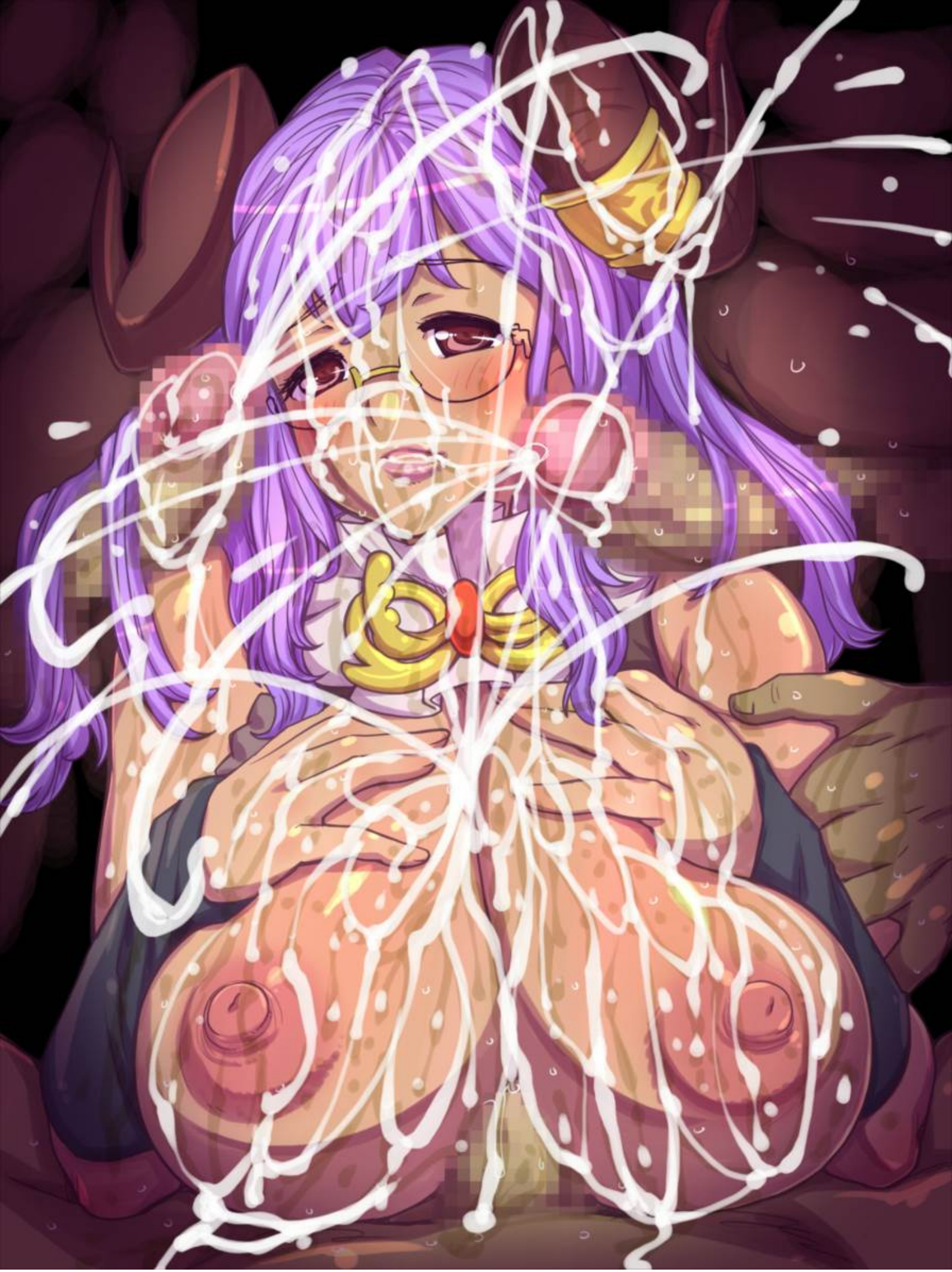
膣の中で吐き出した男は、なおも腰を振り続けている。
ペニスを扱かせる男は、何度もアンチラの顔に射精した。
汁まみれの体は、もう力なく男達の腰の動きや欲望に
力なく付き合うだけだった。

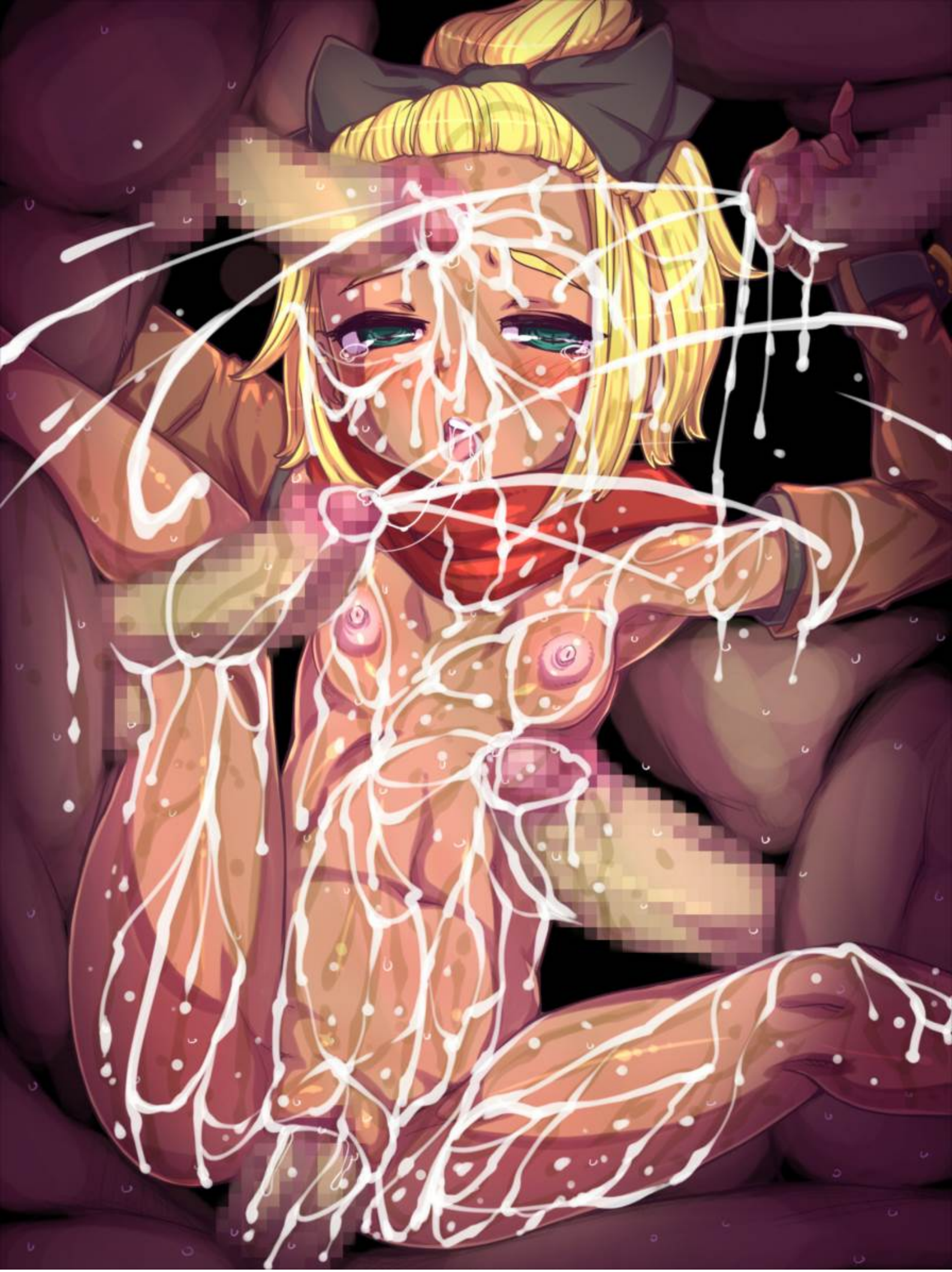
「年々歳々花相似たり・・・」

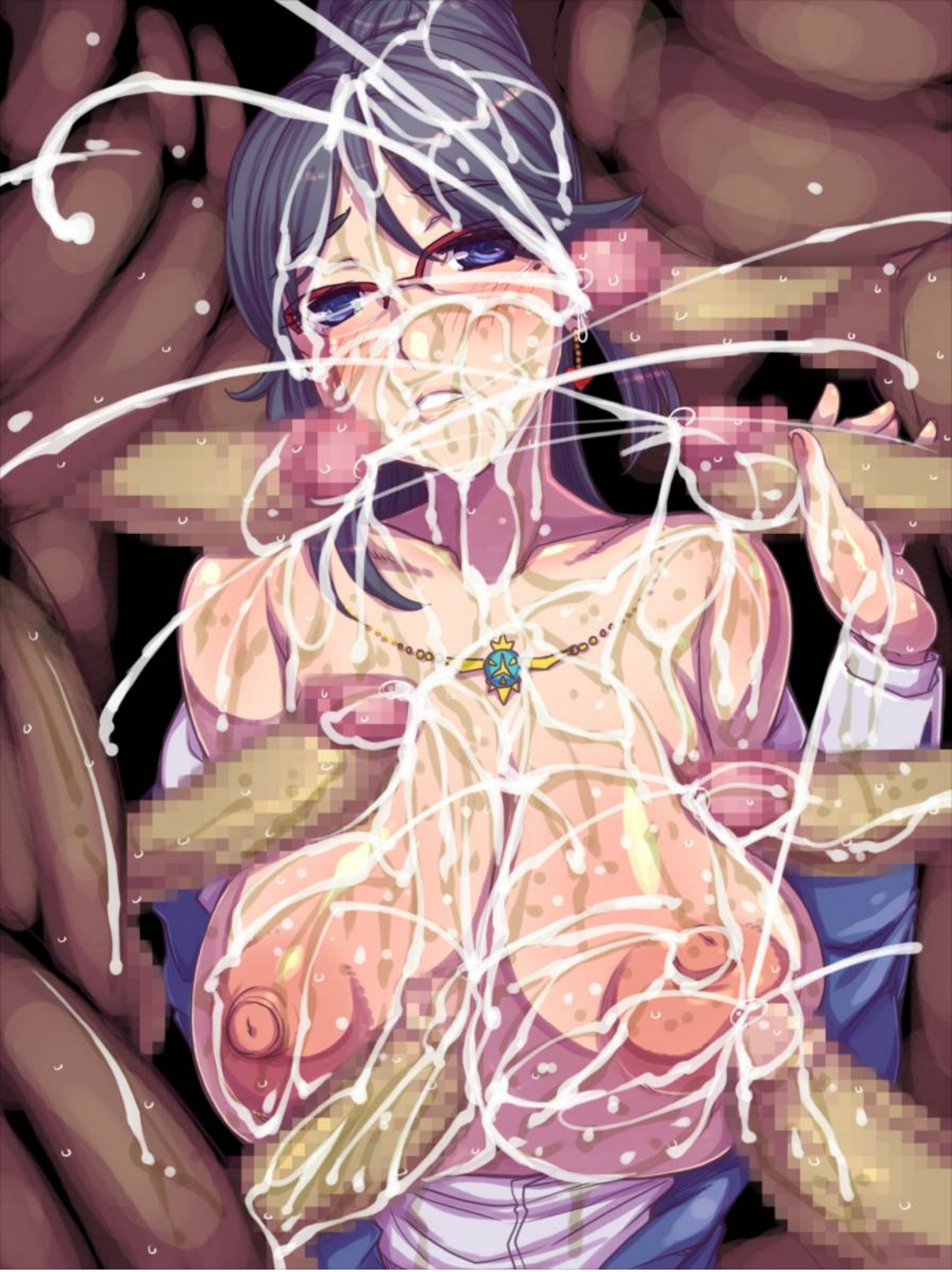
いつもの口癖をふと思いつく。威勢の良かった自分も、今はもう居ない。
きっとこの男達も、すぐに飽きていなくなるに違いない。

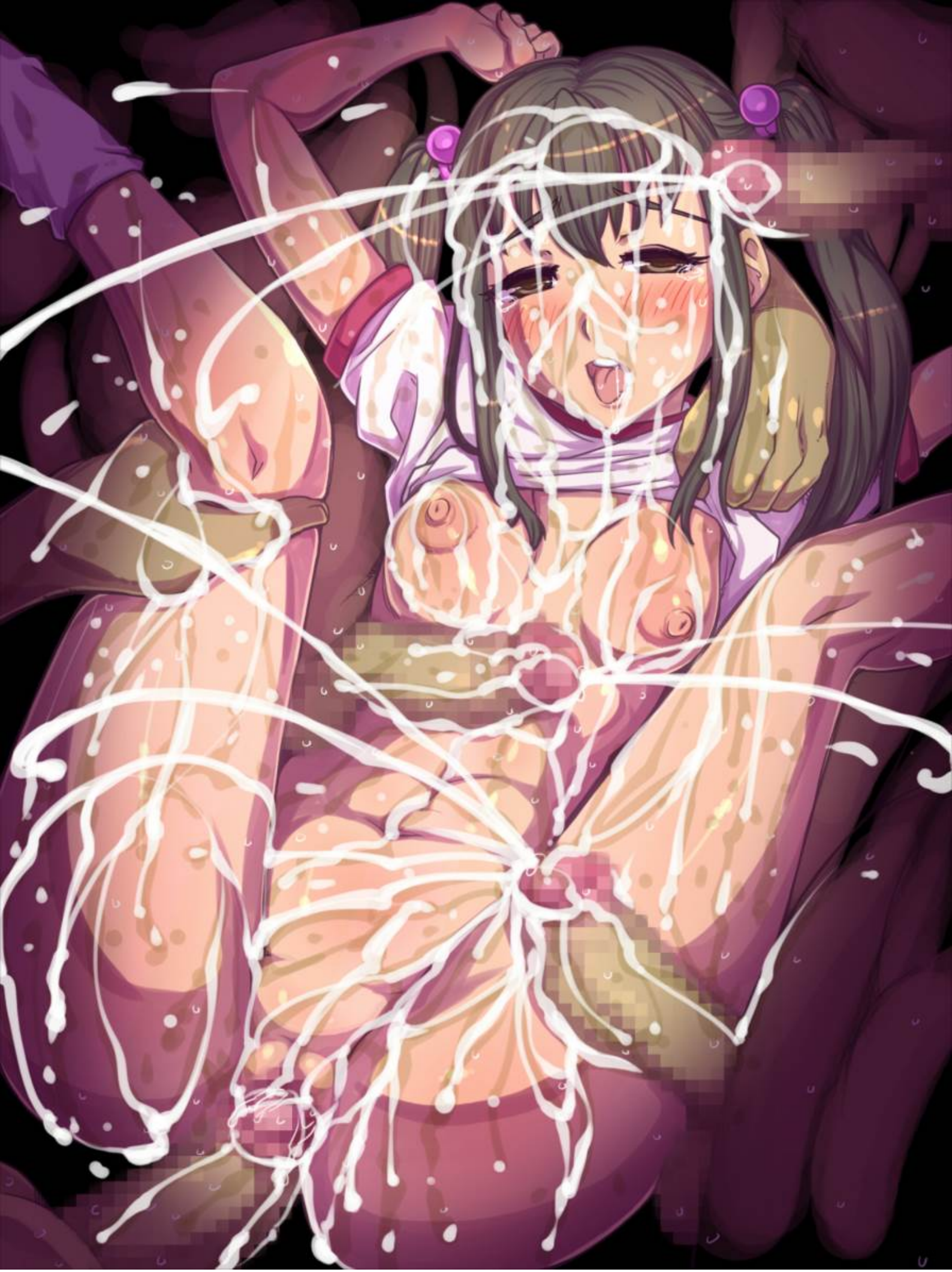
自然の繰り返す季節に比べれば人間の移ろいなどはあっという間なのだから。
アンチラは繰り返されるレイプの中で、強がりも、悲哀も、
すべての感情と思考を辞めていた・・・。

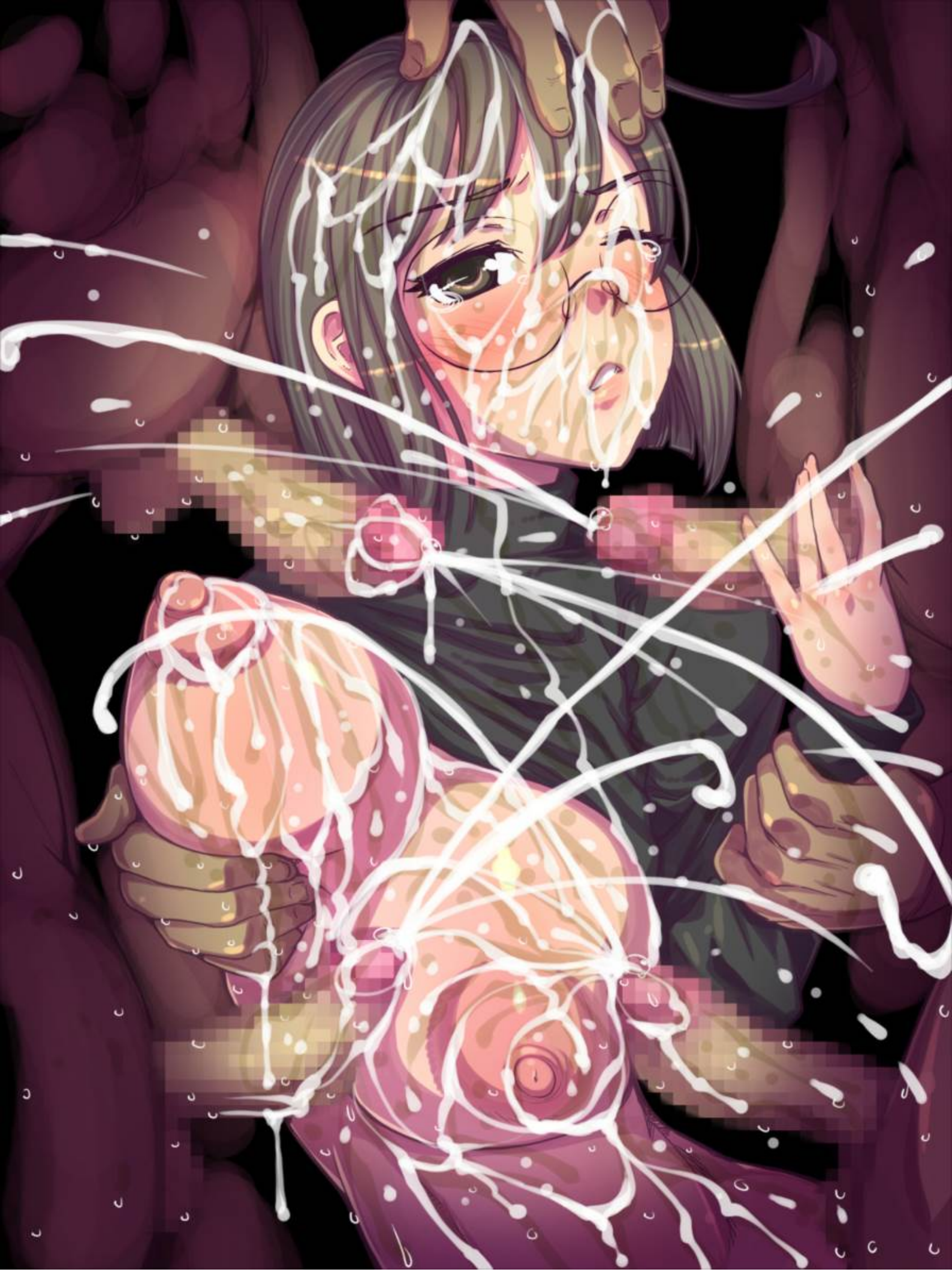
END

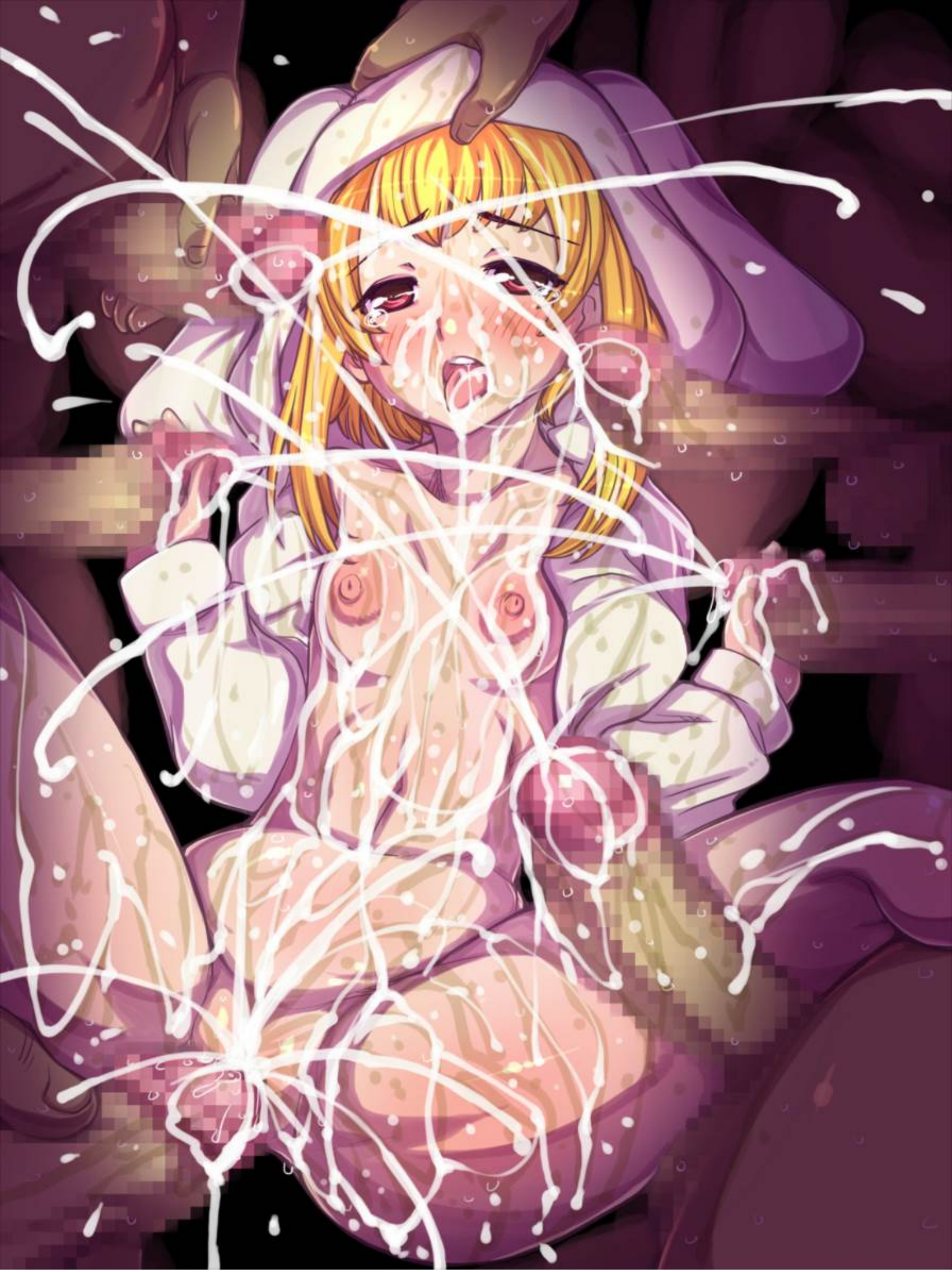












Pick☆Up

陥落

シナリオ by 辻善

「はあはあはあ・・・・やめなさい・・・こんなことして・・・・」

宇宙に出る予定だったノーチラス号の位置が補足され、
ガーゴイルによって拿捕されてからほんの数時間後。

船長はガーゴイルと二人きりの交渉から、戻ってこないでいた。

「おい、このオンナ・・・アトランティスの生き残りだぁ・・・」
「どうせみんな殺しちまうんだ・・・もったいねえ・・・よなあ？」

見張りの兵士によって連れ出されたエレクトラは
その男たちの下品な息遣いに、明らかな身の危険を感じていた。

ぴっちりとした宇宙服ごしにまさぐる男たちの手。
乳首のありかを探り、乱暴にほじくり返そうとする。

「だめ・・・やっ・・・・」

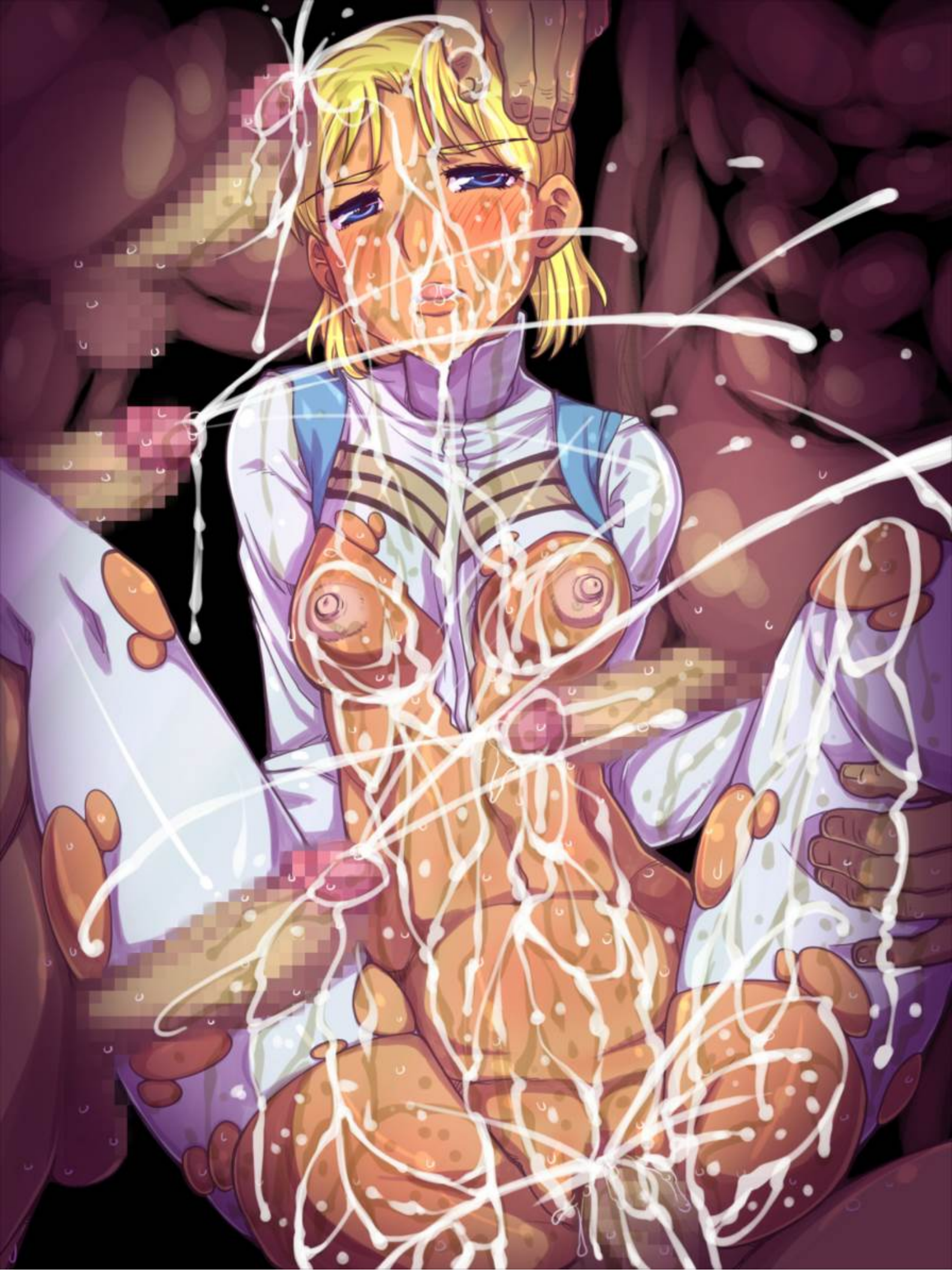
気丈なエレクトラも、抵抗する手段のない命の危機に
力なく抵抗することしか出来ない。

「船長のオンナだぜ？いいのかよぉ」
「おめえもやめる気なんてどうせねえだろ？」

「このクソどものせいで多くの仲間達が死んだんだ、
　これぐらいさせてもらわねえとよぉ・・・・あああ！？」

宇宙服越しに胸をモミしだいていた兵士の手が、
乱暴に生地を引っ張り破き脱がした。

「おかせ！おかせ！」「レイプだ！はらませろッ！」「ぶっかけろ！」



「いやっ！いやあああ！ゆるしてぇ！ああ！いやぁあああ！！！」

宇宙服の白い生地から弾けるようにあらわになる褐色の肌。
美しく伸びた四肢と、適度な大きさの胸のふくらみ。

エレクトラの魅力的な肉体に、禁欲を強いらてきた兵士達の情欲が暴走し
その肌色に向けられた敵意が性欲に変換されていく。

「おら、はらめや！膣に出しまくってはまらせてやるぅ！」
「おおおお！でるぅ！でるでるでる！」「いくぞ！顔だせえ！」

兵士達の屈強な腕が、エレクトラの華奢な四肢を押さえつけ、
性欲の捌け口に使う道具のように弄ぶ。

「ああ！でてるぅ！だめッ！船長！あかちゃんが・・・赤ちゃんできちゃう！
いや！船長以外の・・・人は・・・・だめ！だめだめええ！」

抵抗する程に動きを激しくする男の腰。
エレクトラの懇願が、抵抗が、男を興奮させているのだ。
嫌がれば嫌がるほどに激しくなる男達の愛撫・・・。

船長と過ごした夜とは比べ物にならないほど、乱暴で、下品で
身勝手なセックス・・・・。

「うああでるうううう！ウッ！うっ！ウウウウウウ！」

「いやあああ！ああああああああ！いくいくうううう！」

膣の中に下品な液がどくどくと注がれる。下品な男の子種が・・・・
愛してもいない敵に犯される屈辱と陵辱が、絶対的な絶望感をもたらし
エレクトラを律している知的な部分を破壊する。

「いってるぅう！ちんぽが！私の中でイってるうぅ！あひぃいい！」

「ケっ！こいつも壊れちまったか！」
「戦場で殺す前のオンナを犯すと、いつもこうだな」
「それがいいんだろうがぁ！おらおらおらぁ！イクッでるうう」

膣の中で男がイク。肌の上で射精する。目の前で肉棒が精液を吐き出す。
男たちの絶頂、下品な嗚咽と匂いを振りまいて、男たちの絶頂を
見たくもない快楽の証「射精」を見せ付けられる。

「あああああ～でるでるでるでるうううう！」「イグッ！いぐううう」

船長が優しく愛してくれたのとは比べ物にならない乱暴で粗悪な行為。
肉欲を満たすためだけに、ひたすら快楽を追い求めてエレクトラを汚し犯す。

「あひぃ！あひっ！あひっ！あああああ！いぐぅううう！」

恐怖でタガが外れたエレクトラが、自身の肉欲にすがる。
船長と過ごした夜、愛された日々を思い出し、
せめてその夜の絶頂を思い出してイク。

褐色の肌を染めていく男たちの欲望。
グロテスクなペニスの先端から、白濁液を吐き出すさまを散々見せ付けられ、
膣の中を何度も何度もおかされ、かき回され、注ぎ込まれ、
心も体も徹底的におかされるエレクトラ。

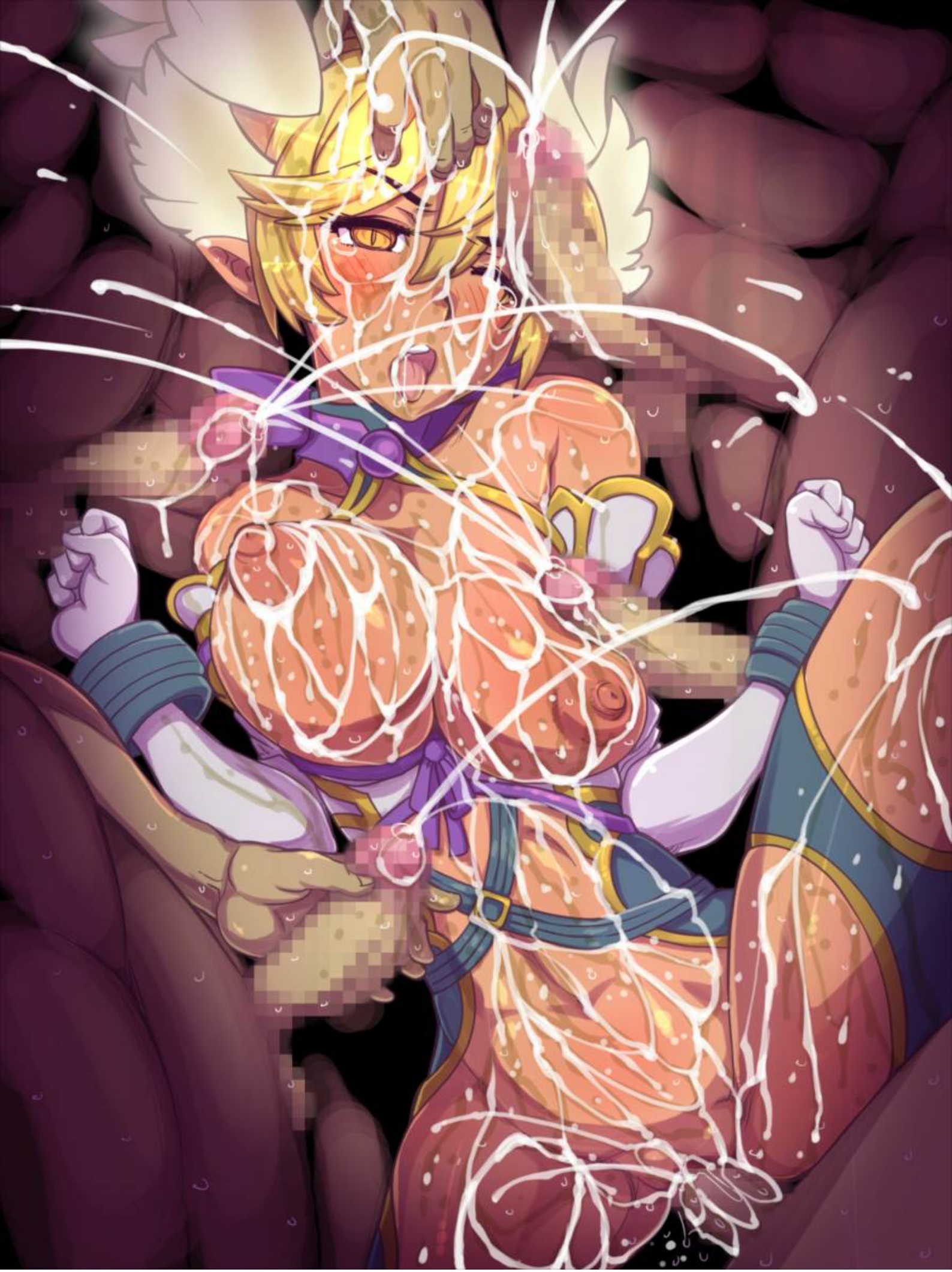
「あひぃ！あああ！いくっいくっいいくくぅう！おうううう！」

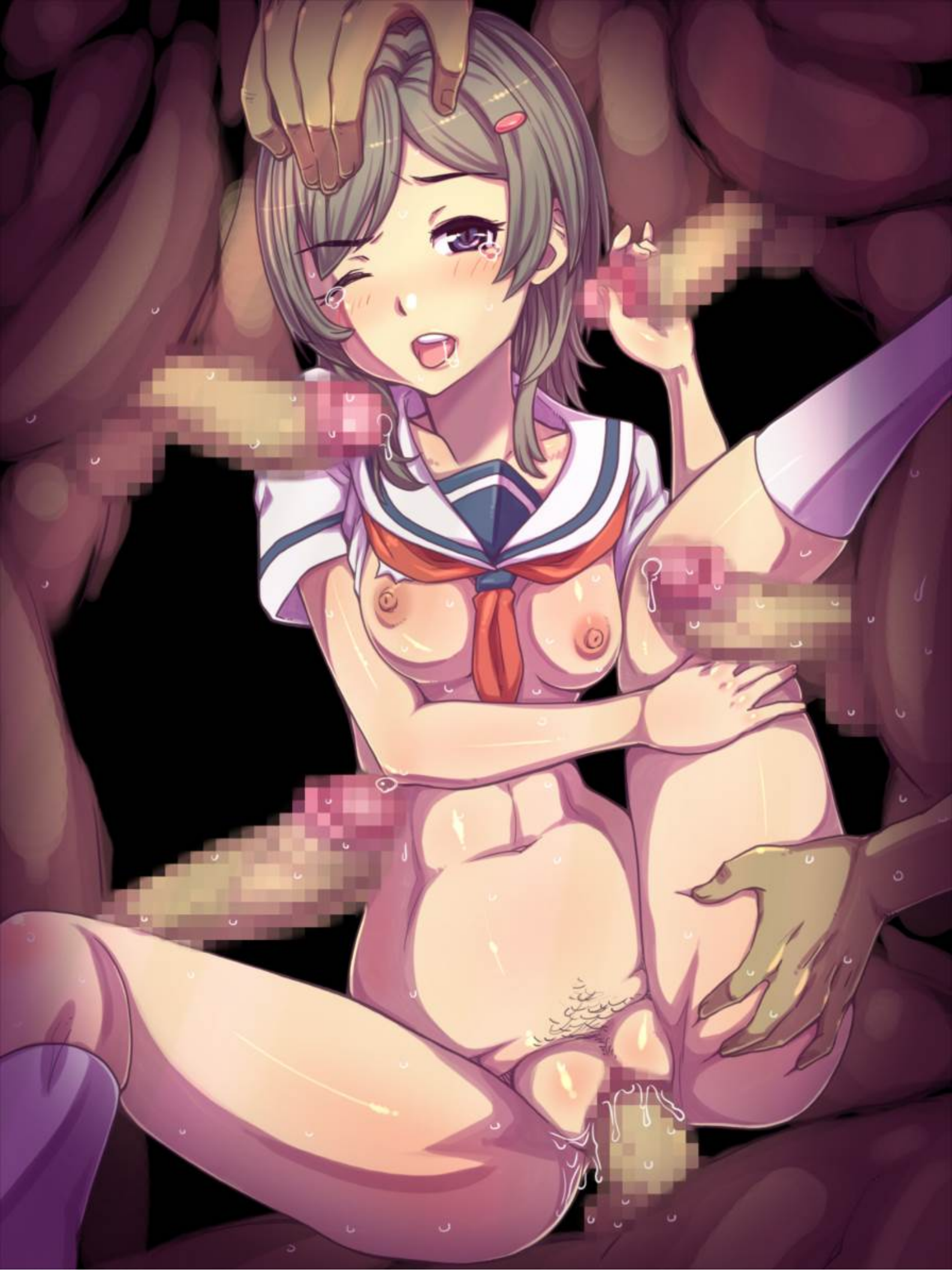
私は汚されてしまった・・・船長のものだった自分が、
船長の敵に犯され、孕まされてしまった・・・・

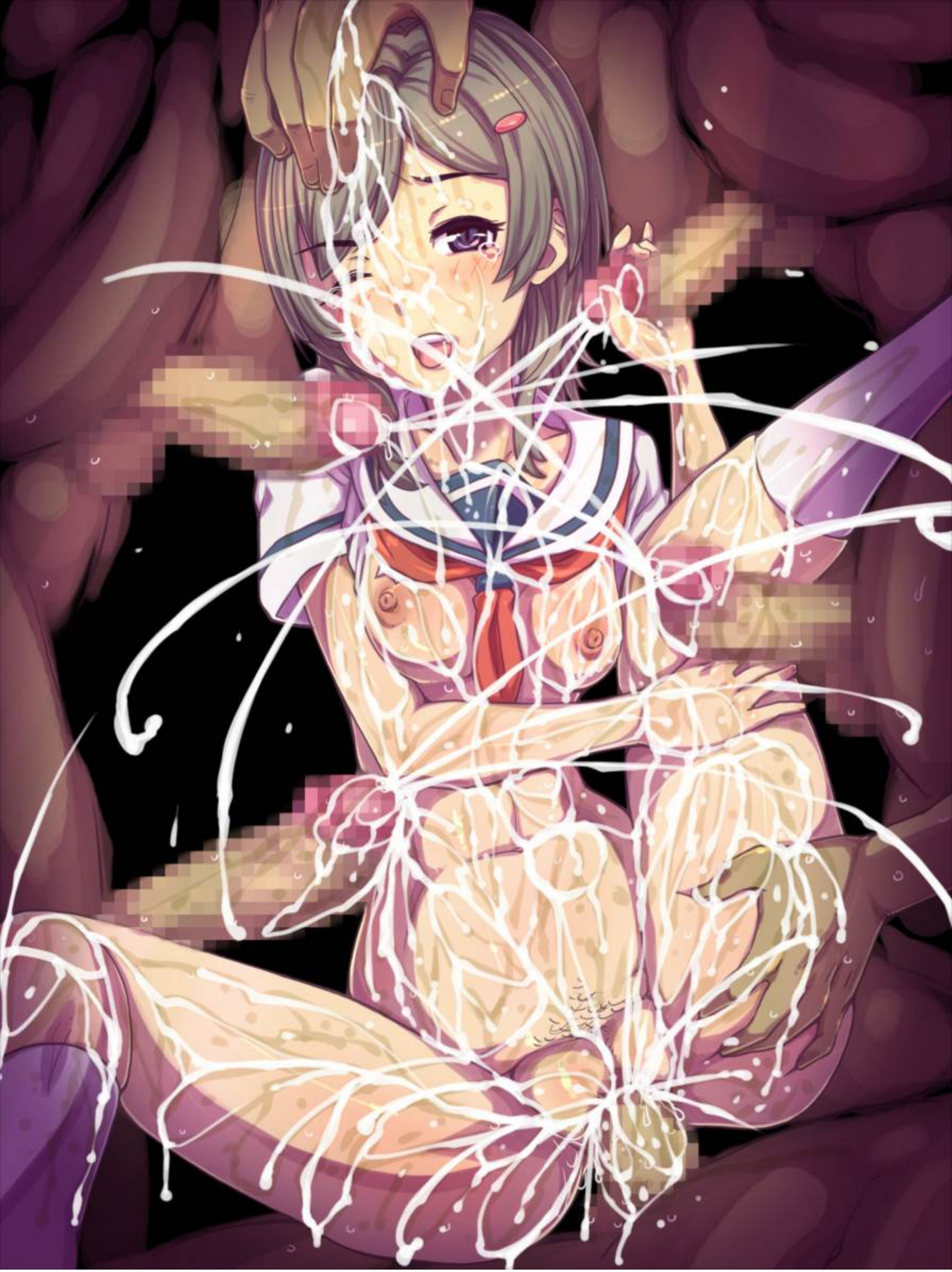
もう自分の中に自分を律するものがなくなったとき、
エレクトラは壊れるしかなかった。

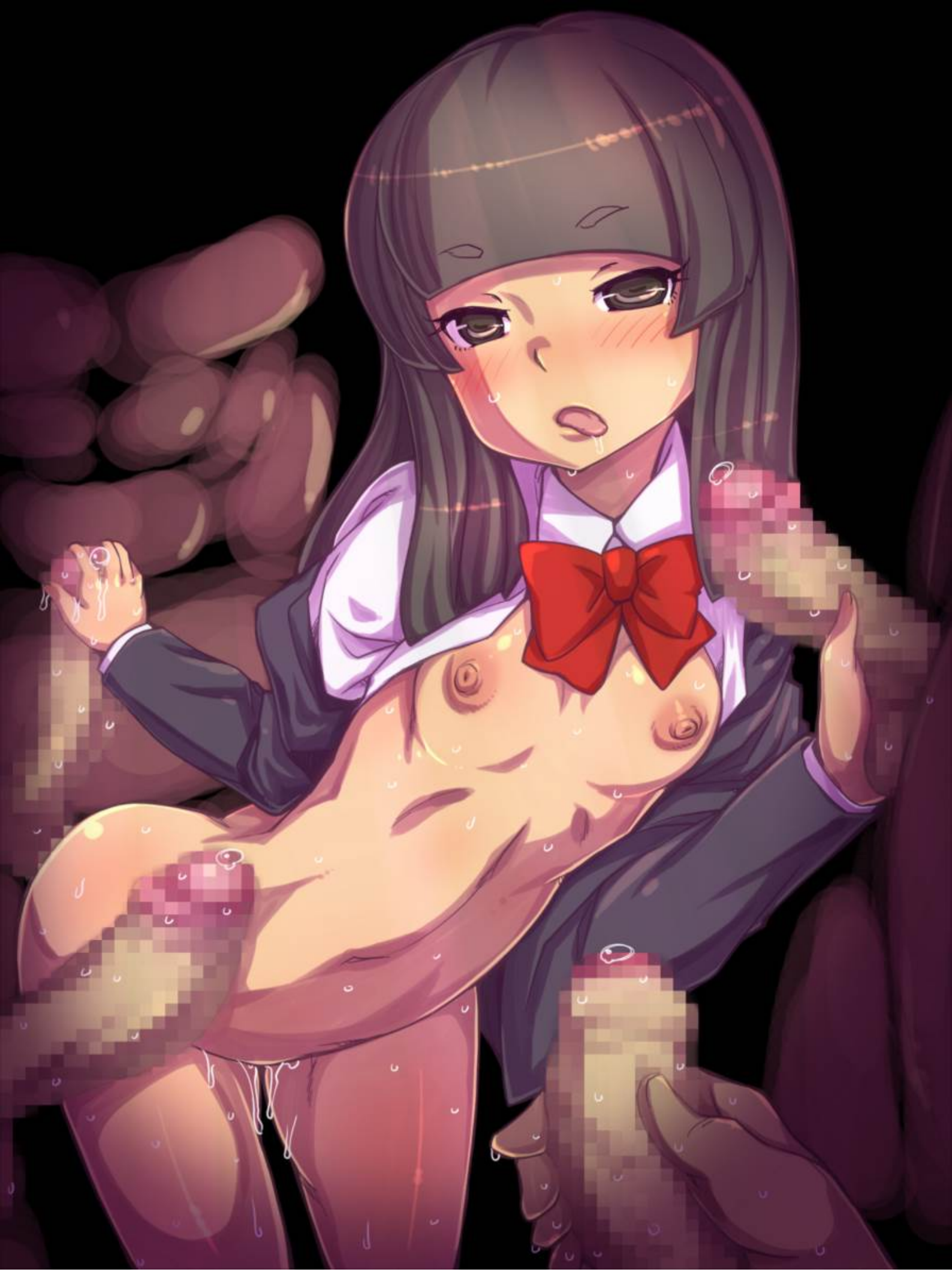
それしか、船長を愛した自分を罰する手段がないのだから・・・。

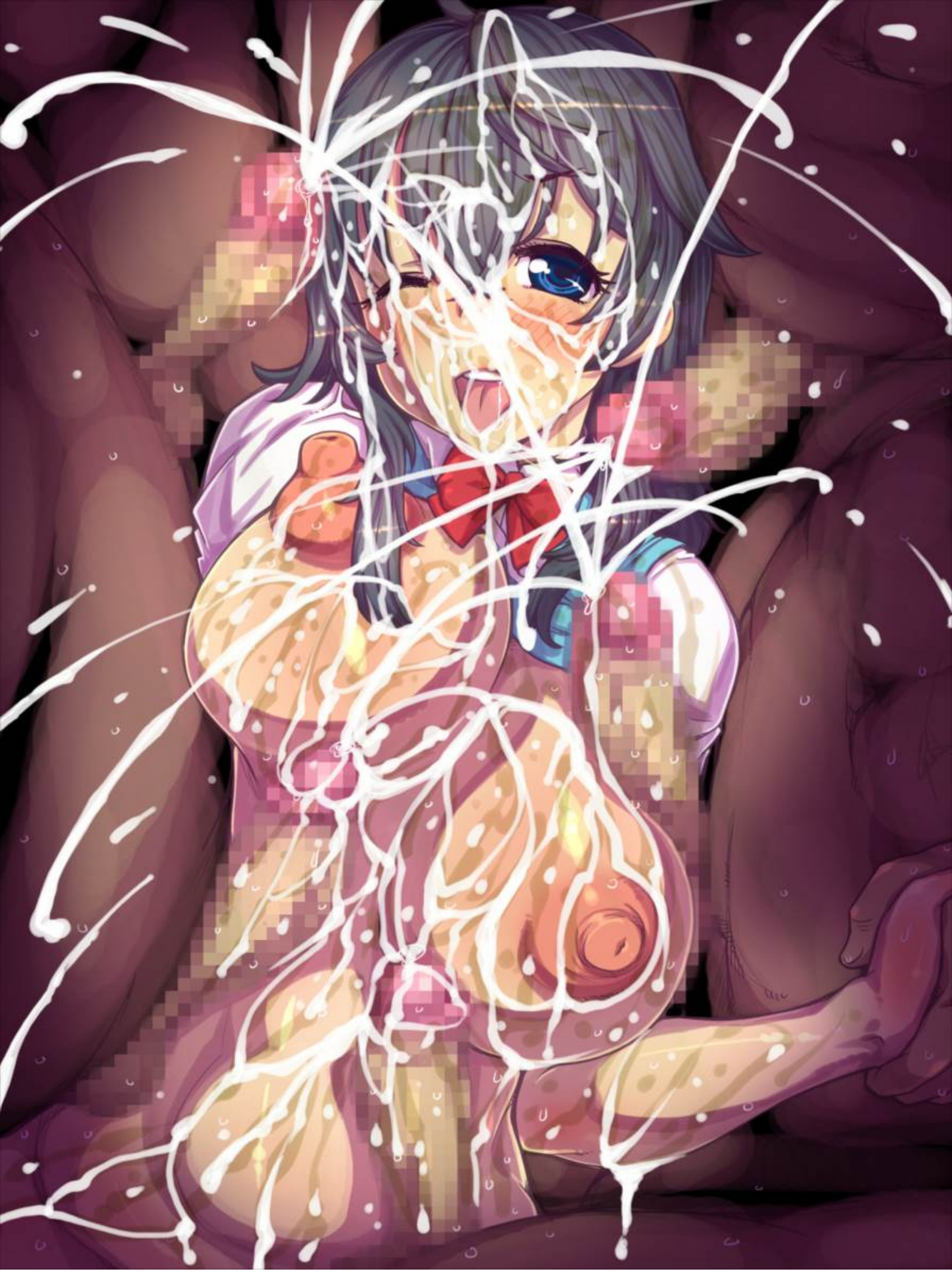
END

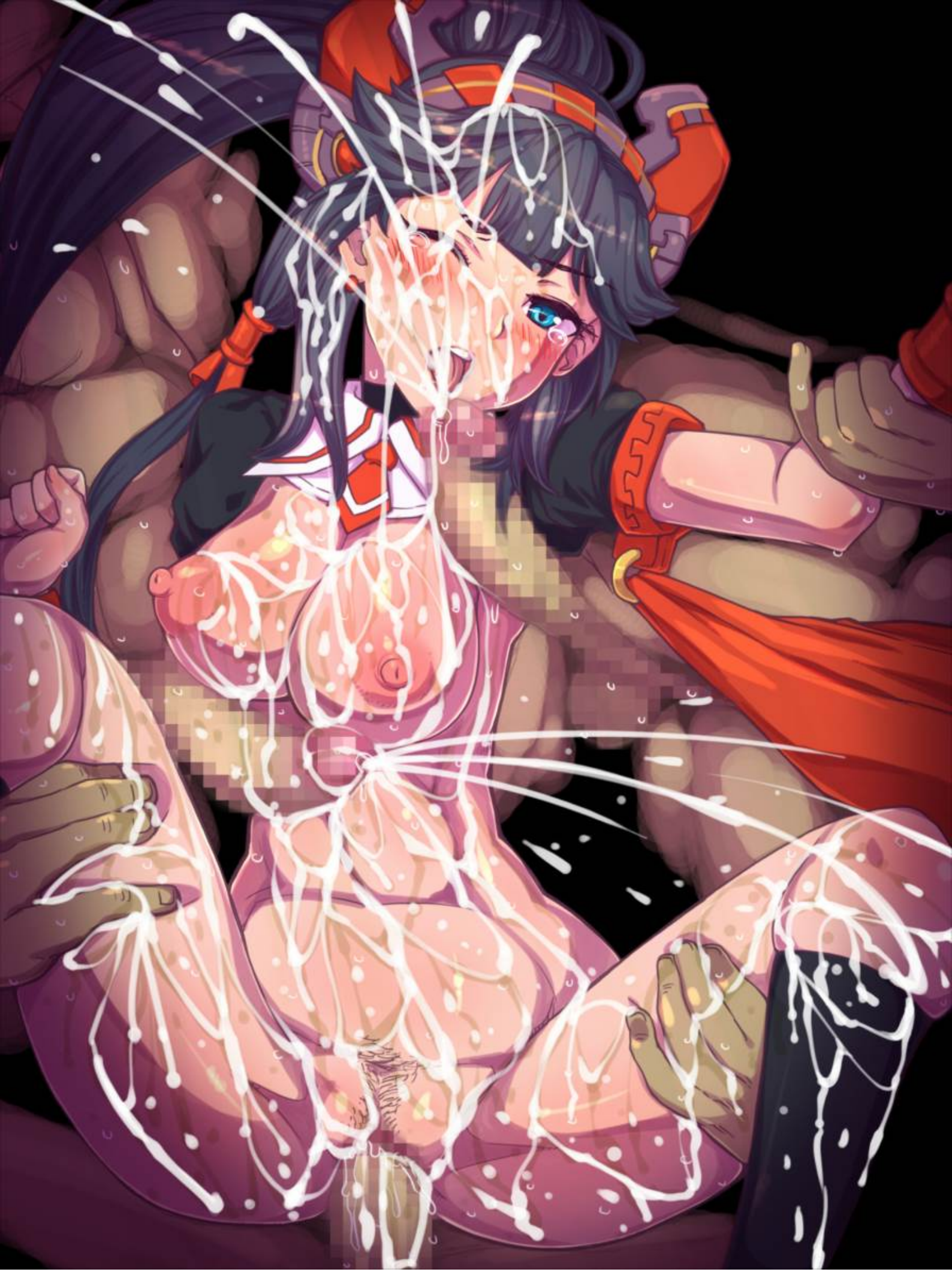


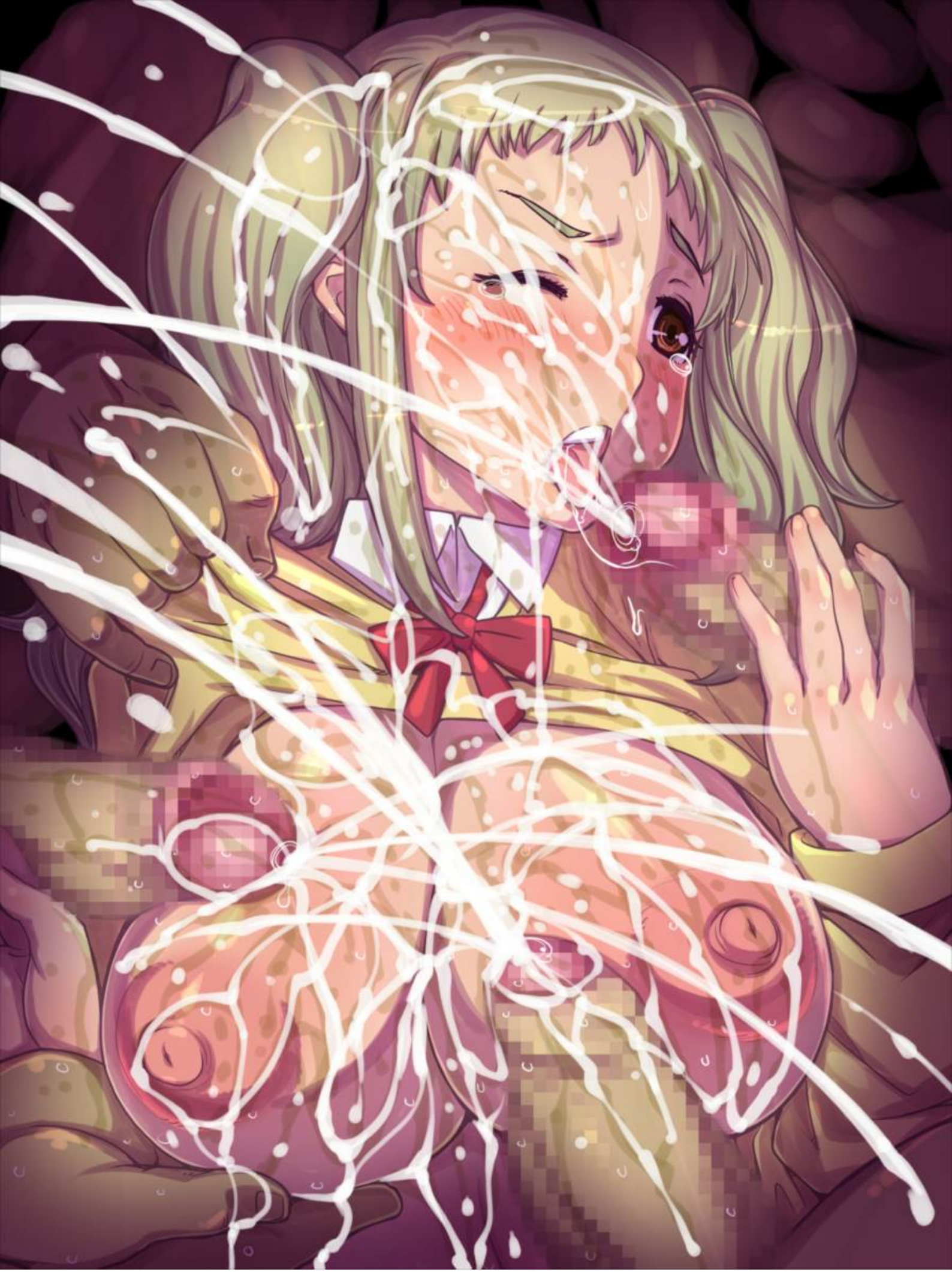












760枚目　クロムクロ　白羽 由希奈

Pick☆Up

装置挿入

シナリオ by F藍G

地下深いある研究室・・・
殺風景な部屋にケダモノのような男たちの体臭が熱気となって立ち込めている。

薄い空気密度の中、朦朧とした意識の中で由希奈は卑猥なポーズで固定され、
実験用素体ライトを照らされていた。

「この装置を体に埋めることでクロムクロをもっと巧く扱えるようになります」
「動くんじゃねえ！人類を、地球を護るんだろ！」

研究服を着た年配の男たちが、拘束されてもなお抵抗する四肢を押さえつける。
それは局部をさらけ出した卑猥な姿勢になっていた。

「チッ、うまく入らんな」「どけ、こうするんだよ、俺のコックに付けて…」

男はおもむろにペニスをむき出しにすると、その猛った先端に
機械的な小さなチップをローションと一緒に塗りつけた。

「こんだけドロついてりゃ痛くは無いだろ、遠慮なくイクぞ…ウンッ！」

「ああ・・・あうっ・・・あんっ！あんっ！」

初めての貫通にもかかわらず、激しい腰の動きで卑猥な声が漏れる。

「おい、もっと潤滑剤を出せ！チップごと膣の奥に注ぎ込むんだ」
「わかってるよぉ！ウッ！ウオォオオ！」

激しい腰の動き、ゴプゴプと音を立てて、膣の中に熱い広がりを感じる。
膣内射精・・・中出し・・・膣の中ですさまじい量の射精が行われていた。

「グヘヘッ！奥までッ、ハアハアッ！奥まで入れていやるぜ！グヘぁ！」

獣の交尾のように腰を乱暴に突き動かしながら、由希奈の体を強く抱き寄せ
乱暴に唇を舐め、吸う。キスなどと呼ぶには下品すぎる行為に、
思わず由希奈の膣は反応してしまい、それをペニスへと反応で返す

「うッ、膣が搾って来やがったッ…まだ出るぅ！ウッ！ウッ！」
「班長ばっかズルイ、俺達もヤル！」「オレも！おれもぉ～！」

男達がグロテスクに勃起し、反り返った男性器を由希奈の眼前にさらけ出す。
複数のペニスが由希奈手で、胸で、口で、まるで道具の様に彼女の体を使い、
無遠慮に白濁液をぶちまけまくっている。

「あッ！あッ！アンッ！　だめっ・・・らめっ！らめぇ～！」

「ヒャッホー」「ウェ～イ・ウェ～イ」「スベスベ肌たまんネェ！」
「おら咥えろ！歯たてんじゃねえぞ！しゃぶれッ！しゃぶれッ！」
「おい！こいつの膣、ペニスを搾ってきやがるぜ！うおぉおいっちまうぅ！」

朦朧としていた由希奈の表情に、苦悶の色が浮かぶ。
精液の鼻を突く匂い、喉奥を襲うぬるついた肉棒、乱暴に膣をかき回す腰つき

「ウっ、出そう…オレ。でるぅ！」「おっ、俺も！だめだ、我慢できんッ」
「ウッ！ウッ！ウッ！イクゥウ！」「でるでるでるでるでるぅううう！」

どびゅっ！ビュルルル！ズビッズビッ！快楽を伴う音を立てて
ペニスから放たれる大量の精液。一気に白濁に染め上げられていく由希奈…

「あっ・・・あああ！！　え・・・・？　キャー！！！！！」

男たちの乱暴な動きと精液の匂いで朦朧とした意識が、徐々に戻り始めた時
自分を犯していた男たちがエフィドルグ(異星人)の姿に見え始めた。

「ムっ！正気に戻ったのか！？」

「しかしもう既に十分処置は済んでいる」
「お前は我等の尖兵と成り、人類を滅ぼす兵を産む母体に成るのだ！」
「もう、我等の一部だ！直に馴れるサ、」

エフィドルグ達は腕ほどあろうかという生殖器で由希奈の肉体を弄ぶ。
白濁液が精液なのか、由希奈の体から放たれた涎、涙、それとも体液なのか
どろどろになった肉体とはっきりしはじめた意識の中、力なく呟く。

「だめっ…らめっ…もう、ゆるし…て…けんの…すけ…た…すけッ！おぶ！」

意識がはっきりしているが故に、自由の利かない肉体やめちゃくちゃに
犯されている事実がただひたすらに恐ろしい。乱暴に犯されているのに
しびれっぱなしで快楽を放ち続ける、自分の膣。

挿入されたチップが女の快楽を狂わせるほどに犯し、はっきりとした意識が
その事実を否応なく受け入れさせる。

「ぐぅ」「オうッ」「ウぁ」「孕め！孕め！孕め！」
「はぁはぁッ！もっと搾りな！く～ぅ脳髄にクル～っ」
「オイ！後つかえてるんだから、チャッチャと済ませて、後ろに回りな！」
「俺、ムエッタ居なくなってから溜ってて、3発イッタった！」
「ワイ、口、ケツ、オメコの3発やでェ」

下品な雑談と果てしなく肥大し続ける女の肉欲。きもちいい、快感、
グロテスク、レイプ…抵抗、できない・・・敗北・・・・

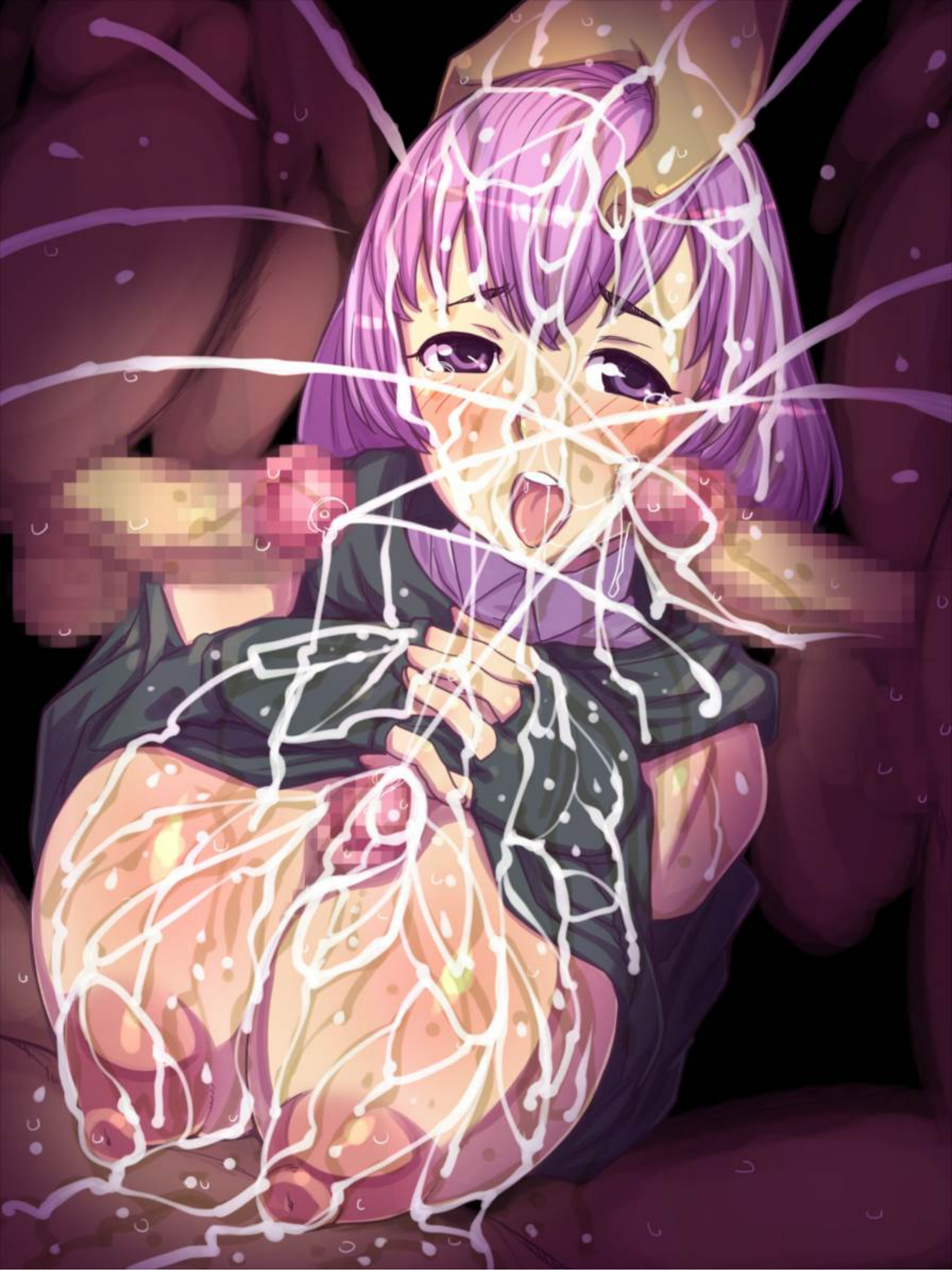
「あひぃッ！」ブチっと音を立てて切れる意識。正常な自我では耐えられない
快楽の壁をぶち破ったとき、由希奈の意識が飛ぶ。

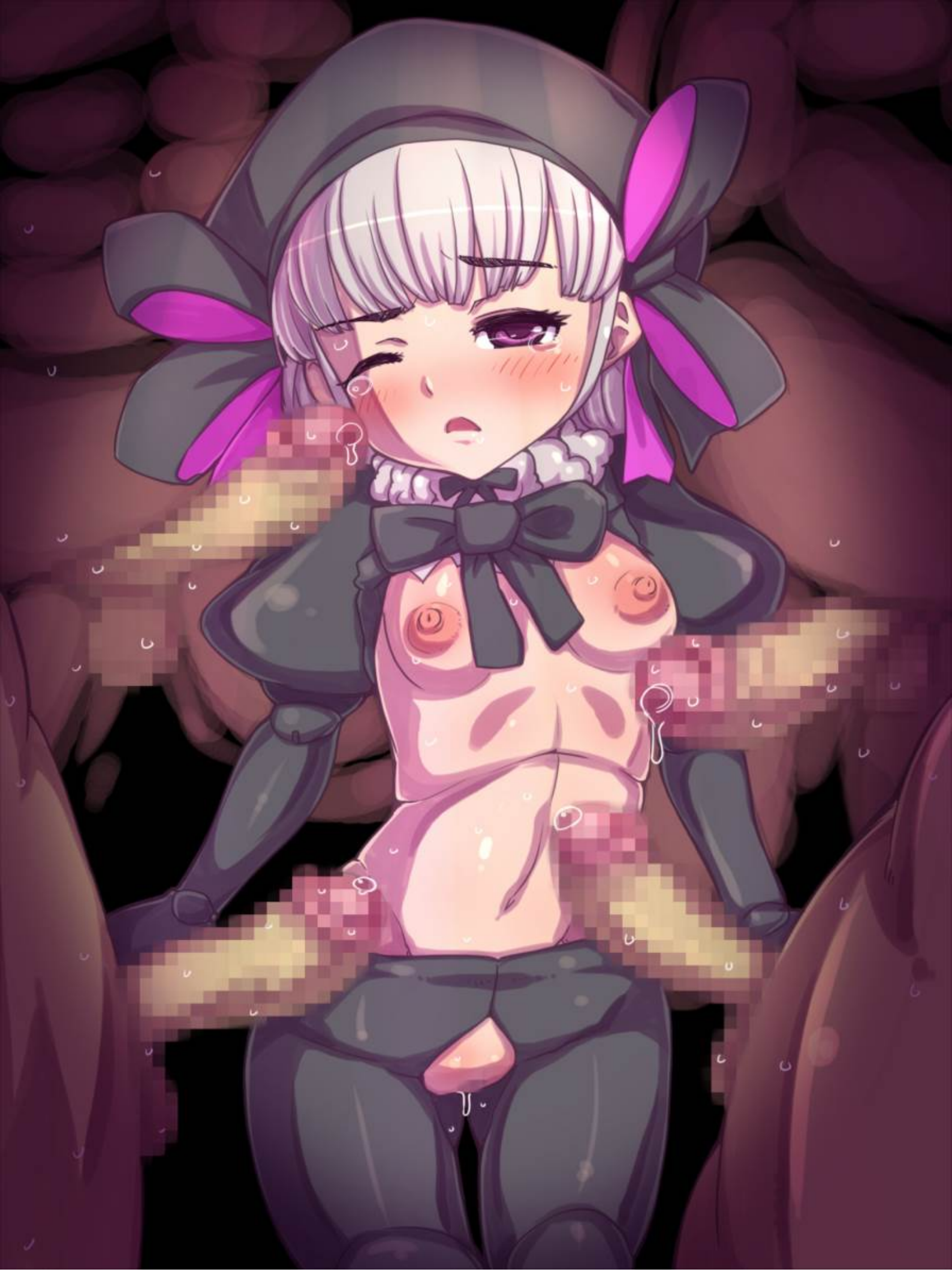
「意識が飛んだか？もう少し背徳感を楽しみたかったが・・・」
「また、記憶操作とマインドコントロールで好きなようにするサ」

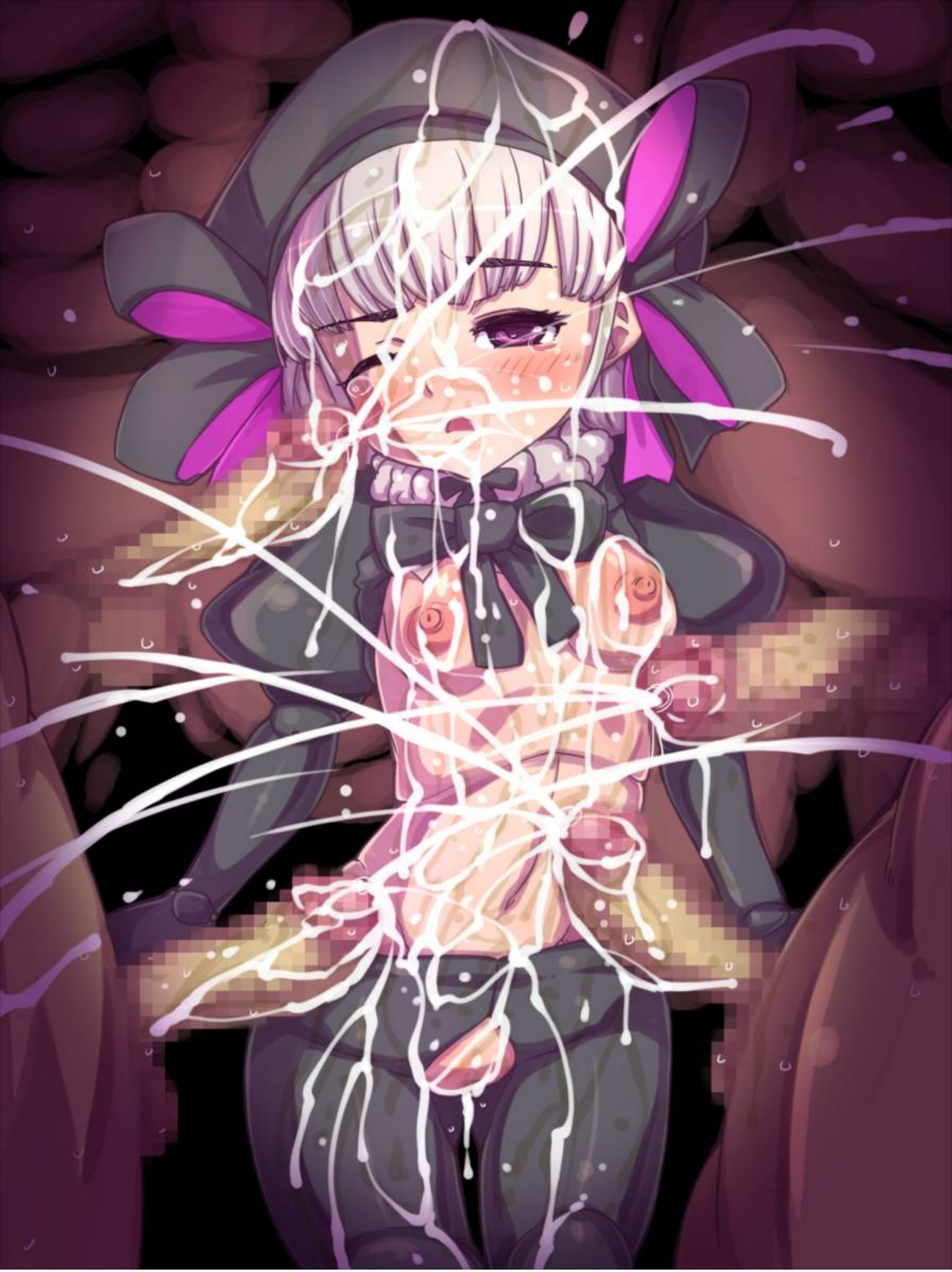
ぐったりとした由希奈の穴という穴に、グロテスクな生殖器が挿入されている。

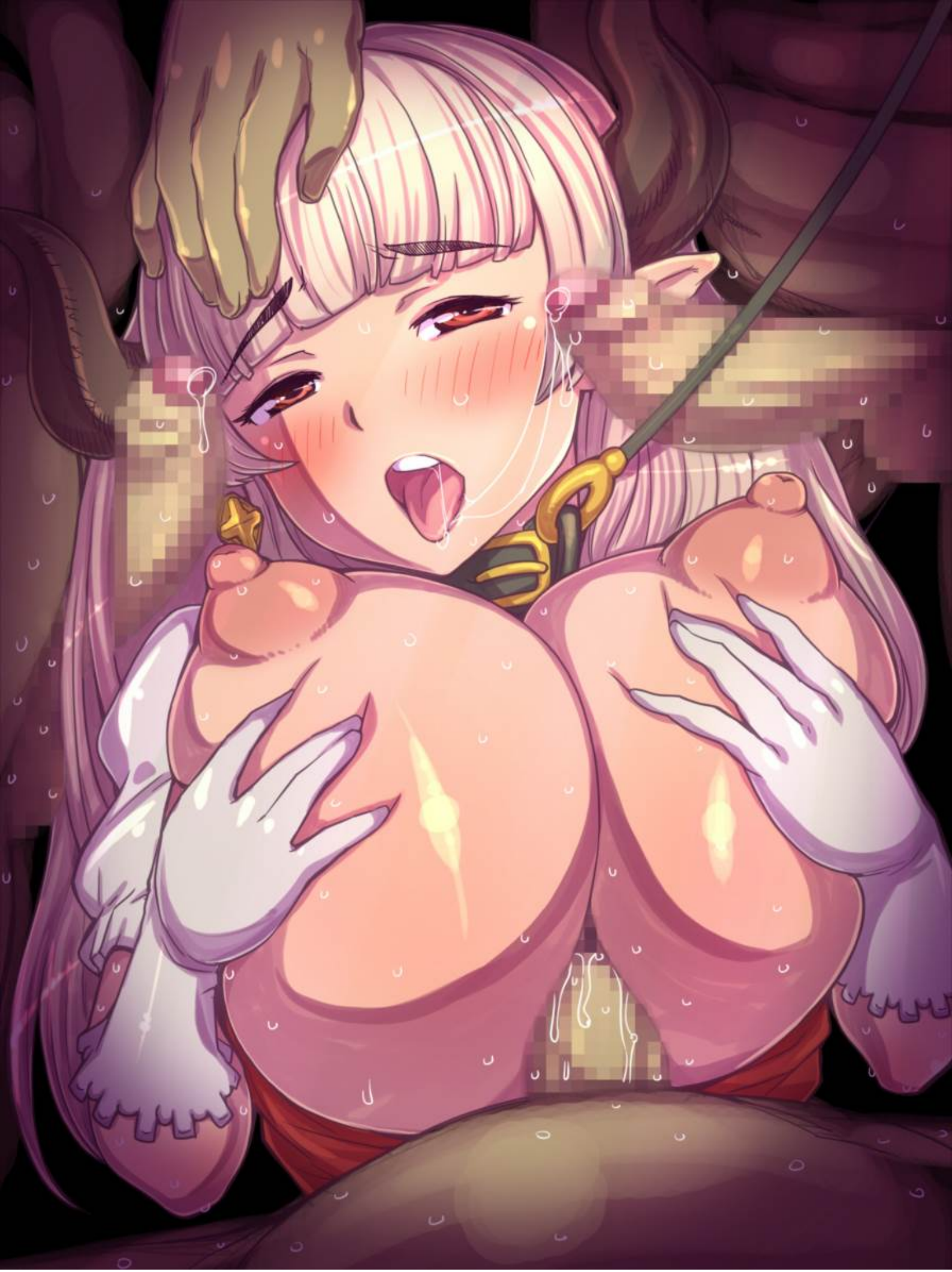
それは既に彼女自身から出ている触手といっていいほど
由希奈はDNAレベルでエフィドルグ達に犯されていた…。

END









767枚目　ディアンヌ

Pick☆Up

蹂躙のタブレット

シナリオ by チキン・フィレ雄

「はなせ・・・ボクから手を・・どけろぉ！　はなせよおおお！」

ディアンヌにのしかかる男。乱暴に破かれた衣服から、
肉感あふれる柔肌があらわになっている。

「うへへへ、大丈夫だいじょうぶぅ、おじさん優しくしてあげるからねぇ」

押しのけられない！なぜ？どうして？
力だけが彼女の取り柄だった。巨漢で強力な腕力。
肉体が蹂躙されたことなど想像すらできないディアンヌに
いま、薄汚い男がのしかかろうとしている。

「いやっ・・・・いやあああ！」

数時間前、ディアンヌはミニマムタブレット、巨人族の彼女の体を
小さくする薬をこっそり持ち出し、町へ遊びに来た。

たまには巨人族としてではなく、普通の女子として人間族の町を楽しみたい。
年頃の女子であれば特筆すべきこともない理由だ。

しかし、不幸がいくつか重なった。一つはミニマムタブレットが
特別仕様（失敗作ともいうが）身体能力も激しく低下させていたこと。

もう一つは彼女が、蹂躙された経験など当然ない巨人族であったこと。

「クソなまいきな小娘だぜ！とっととやっちまえよ！」
「えんりょするこたぁね！おら、その肉の剣はみせかけかぁ？
　ブッさしちまえ！ギャハハハハ！」

「いれるよぉ・・・あっ・・・うううう～！はいったぁ・・・ああっでるぅ」

ディアンヌの下腹部に、異物が入ってくる感覚。鈍い痛み、しかしそれ以上に
気色の悪い男のトロ顔と、もれる声と、臭い息・・・・。

「ウソッ！うそぉおお！いやいやいやいやぁあああ！」

膣の中に広がっていく熱い慟哭。びゅくっびゅくっと男のペニスが
ディアンヌの中で精液を吐き出している感覚が、はっきりわかる。

初めてのセックス・・・それがこんな汚い酒場の、汚い地面の上で
汚い男に無理やり・・・・・

「いやあああああああ！」

「う、うるせえなこのオンナ！」「おい、みんなでヤッちまおうぜ」
「お、おれもだすぜ、でるっでるぅ！」「オッ！オウッ！オォオ！」

抵抗できないと知ると、男たちがいっせいに勃起したペニスをさらけ出し
ディアンヌにむけてシゴき出す！
おぼれる犬を叩くように、的に向けて一斉に放たれる矢のように、
「打ってよい」相手には容赦なく注がれ放たれる鬱憤。

「いやっ！いやあ・・・ウソ・・・ウソぉ・・・
　ボクの体に・・・・こんなっ・・・こんなぁ・・・・」

「ふっふっふっ・・・ウゥウウウ！」

目の前でシゴき続けていた男が、うめき声を上げたかと思うと、
白い液をディアンヌの顔に向けて吐き出す。

「えっ！？　えええ！？」

はじめて見る射精。すさまじい勢いでディアンヌの顔を走り、
滴るそれが首や胸にどろどろと滴り落ちていく。

（こ、こんなのが・・・ボクのなかで・・・・・やっ・・・いやぁあ！）

「おら！こっちむけ！オレもイクぞ！いくっ！
いくっ！いくいくいくいくう！」

「あうぅう！いやぁ・・・ゆるして・・・ぼくっ！ぼくぅ・・・」

「なんだぁ急にしおらしくなりやがってぇ！もっかい中で出すからな！
おらっおらっおらっ！おうううううう！」

びゅくっびゅくっびゅくびゅくんっ！

ディアンヌの中で弾ける慟哭。見せ付けられた、ペニスから射精する現象が
自分の中で起きている。それが意味するもの・・・セックス、着床、妊娠・・・

「ああっ！あはぁあ！いやっ！ボクうボクいやだぁあ！」

抵抗しても、もう何も変えられない。
処女を失ったことも、犯された事実も、代わる代わる男たちに嬲られることも
もう力で現状を変更することは出来ない！

これが、蹂躙されるっていことなんだ・・・・

いままで蹂躙する側だったディアンヌの体が、
圧倒的な欲望と下品な悦びで蹂躙されている。

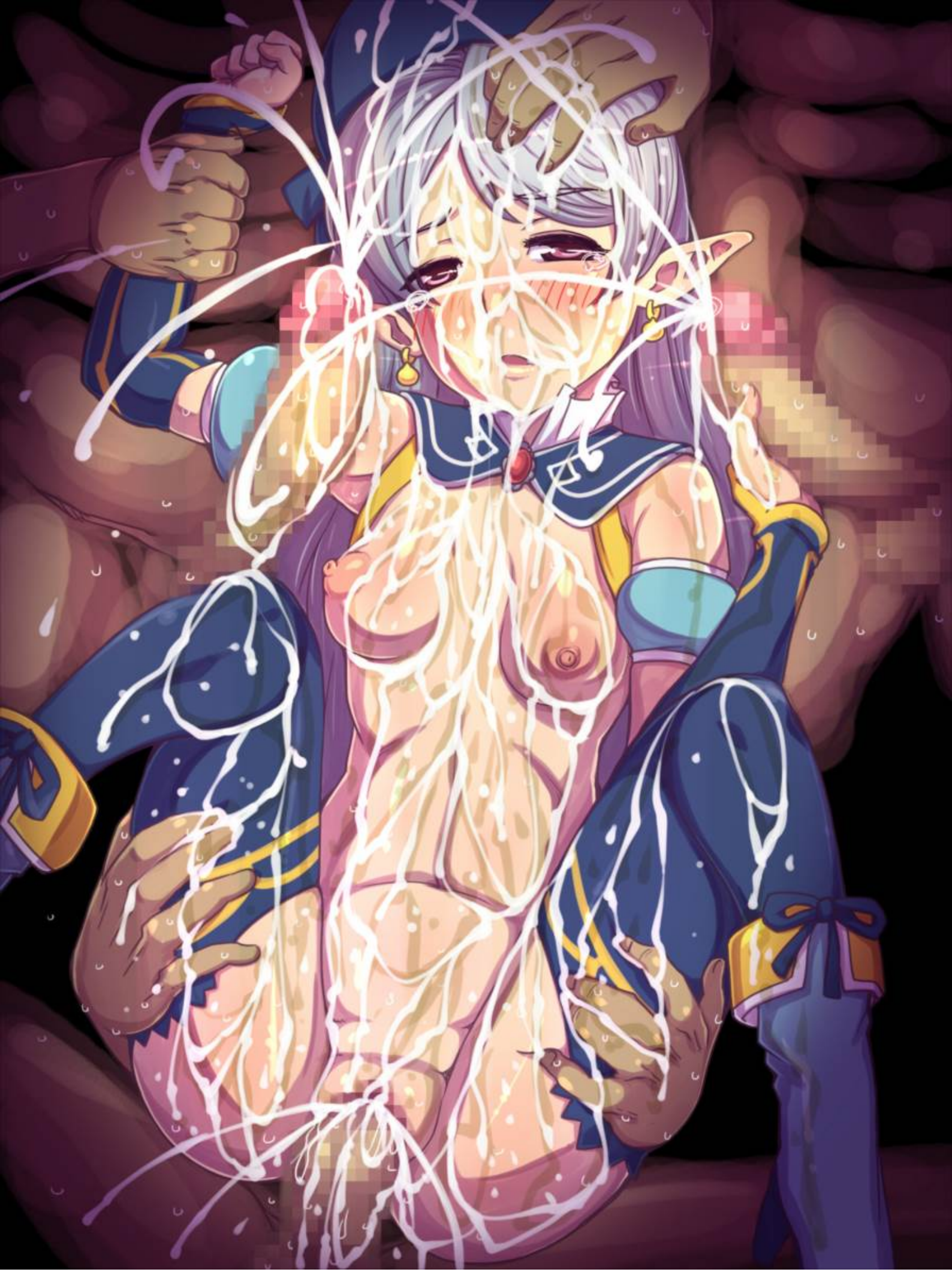
「いやっ・・・いあ・・・ひあぁ・・・・・あひぃいい！」

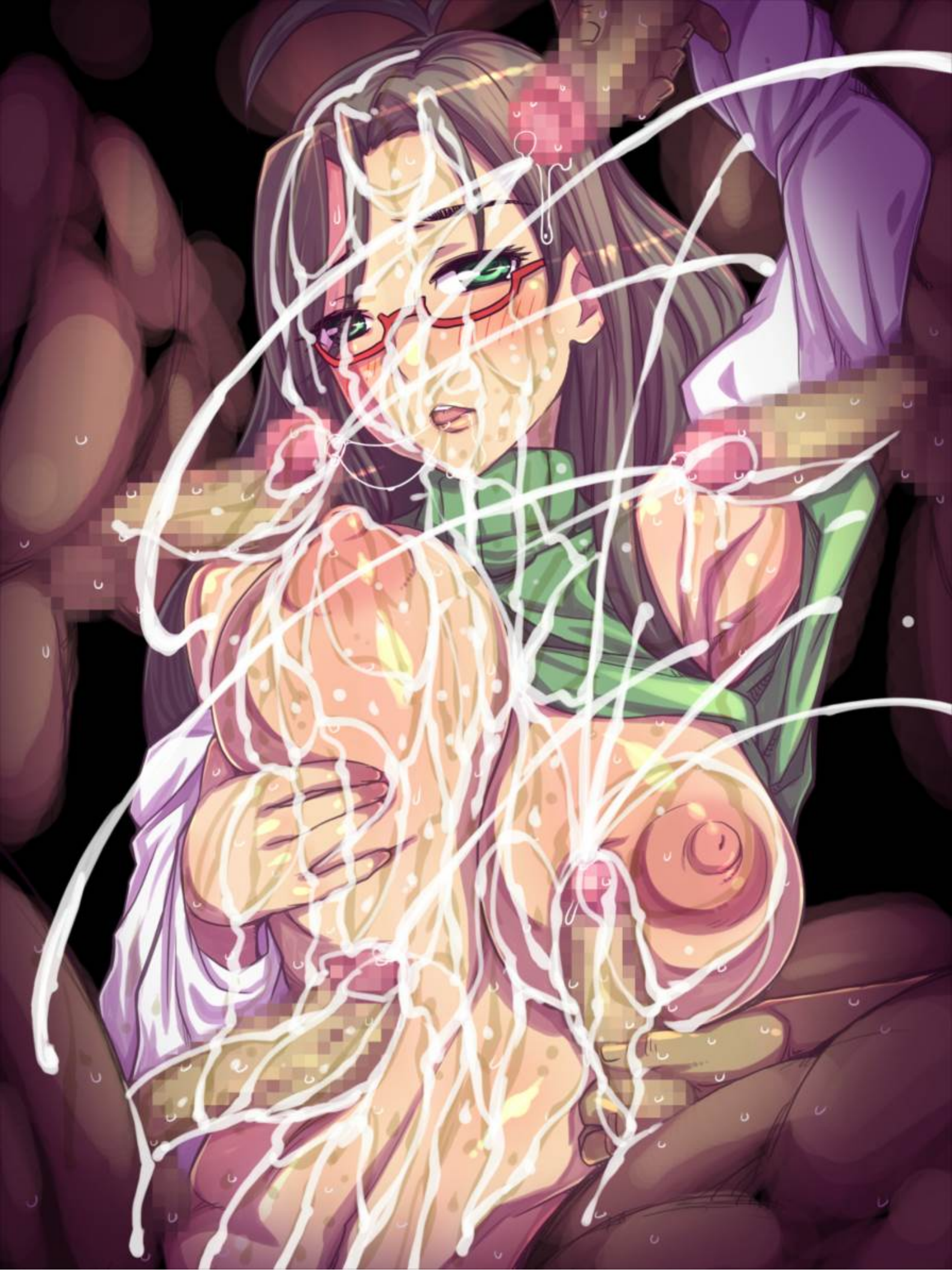
「おっそろそろ肉欲に火がつき始めたかぁ？」
「悔しそうな顔が快楽に歪んできやがったぜ・・・・」

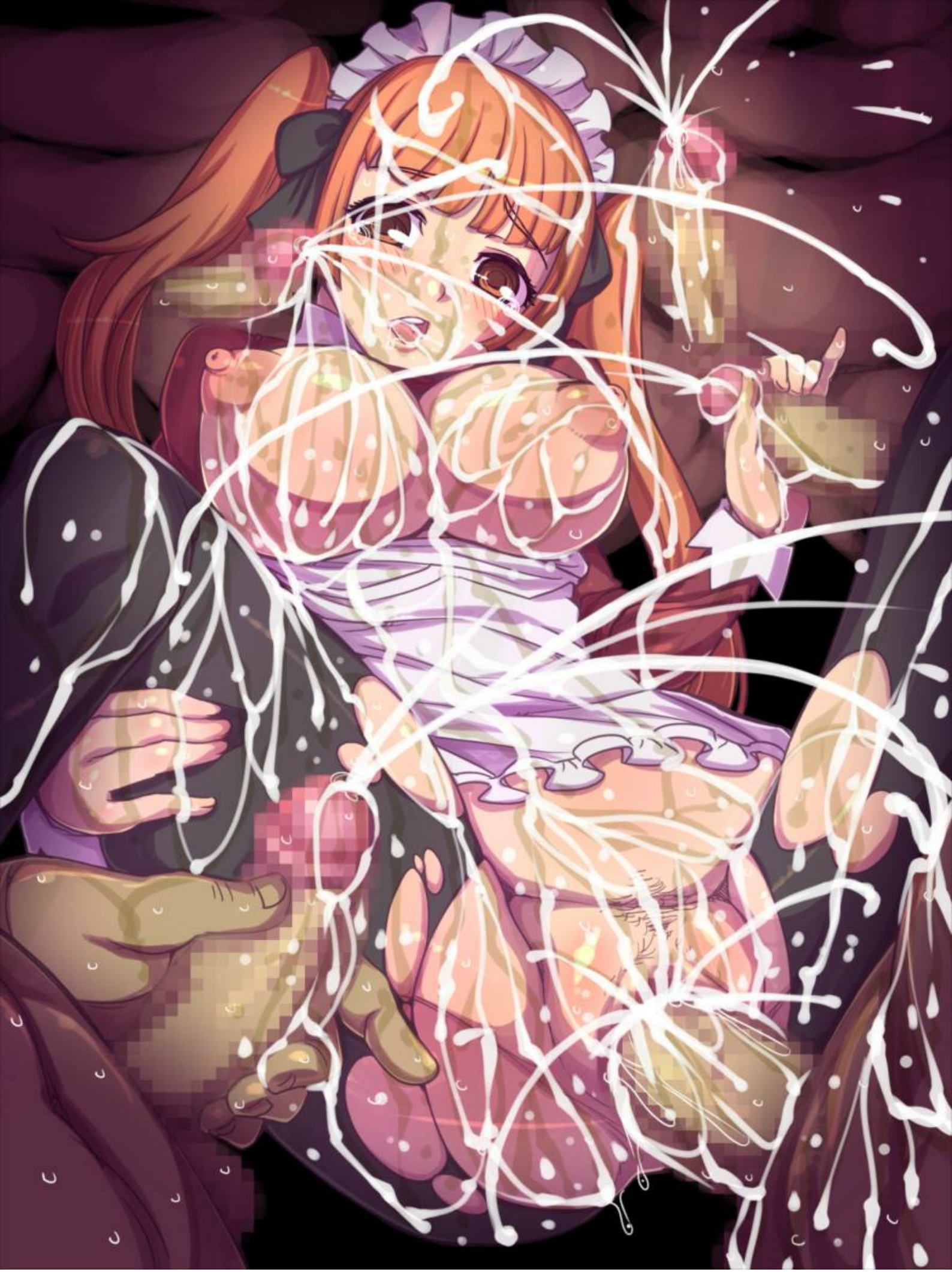
「お嬢ちゃん、あんまし大人をナメてるとこういうメにあうんだよぉ？」
「もっとしっかり分からせてやるからな、大人の悦しみを、よぉ？」

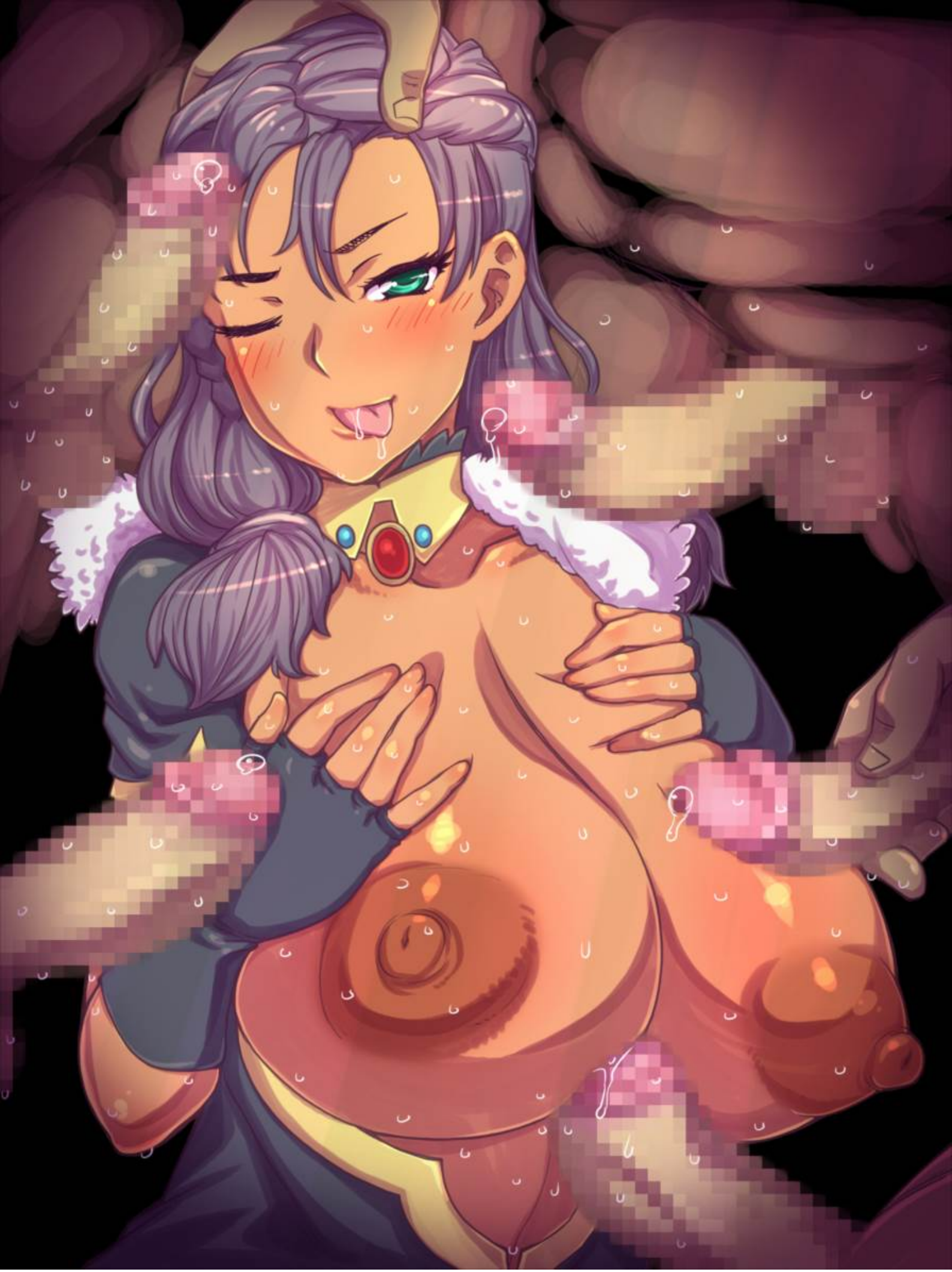
蹂躙される側の悲しさを知るのと引き換えに、失ったものは取り戻せない・・・
ディアンヌの目から、強者の光が消えていった・・・・・。

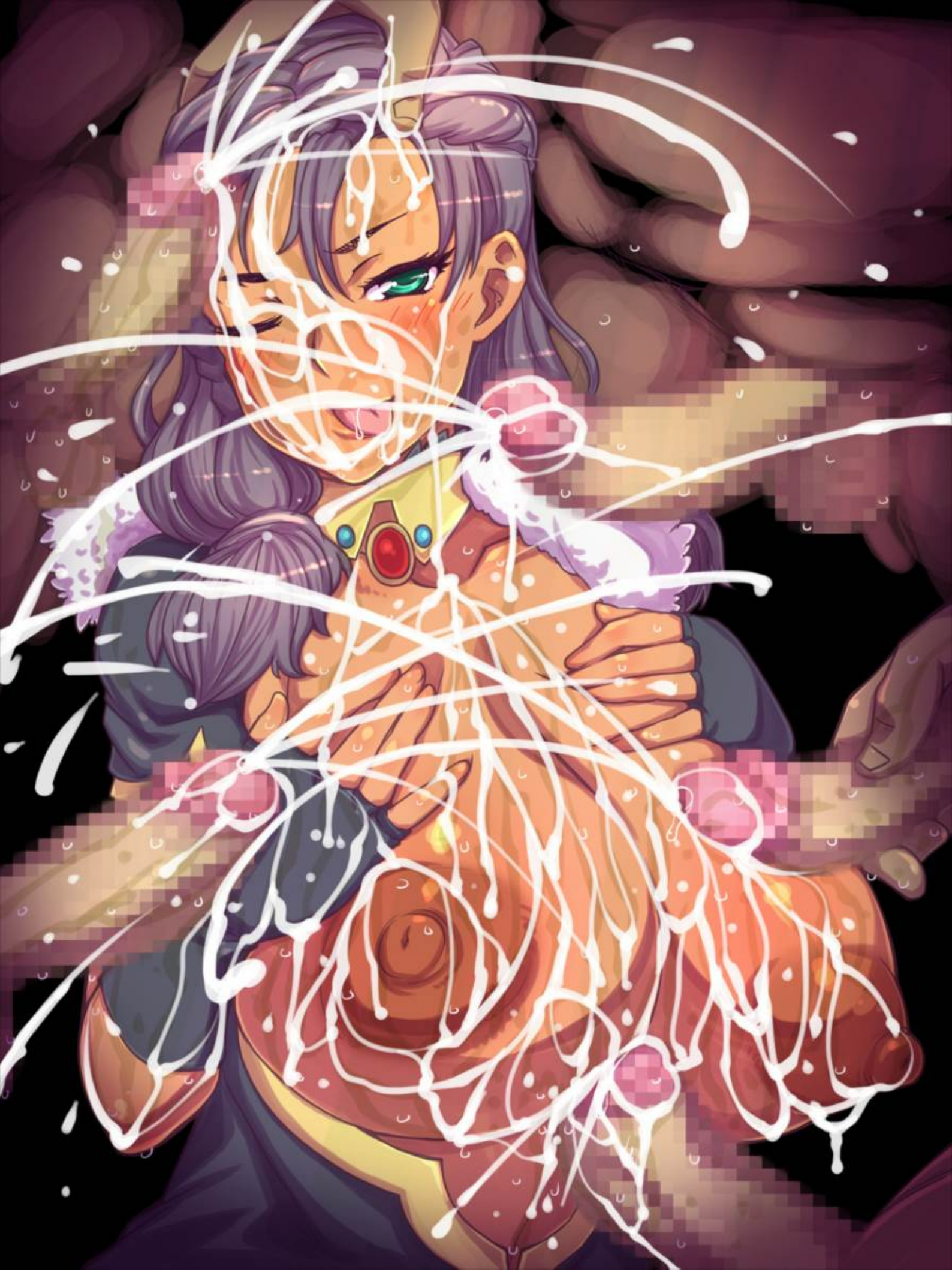
END

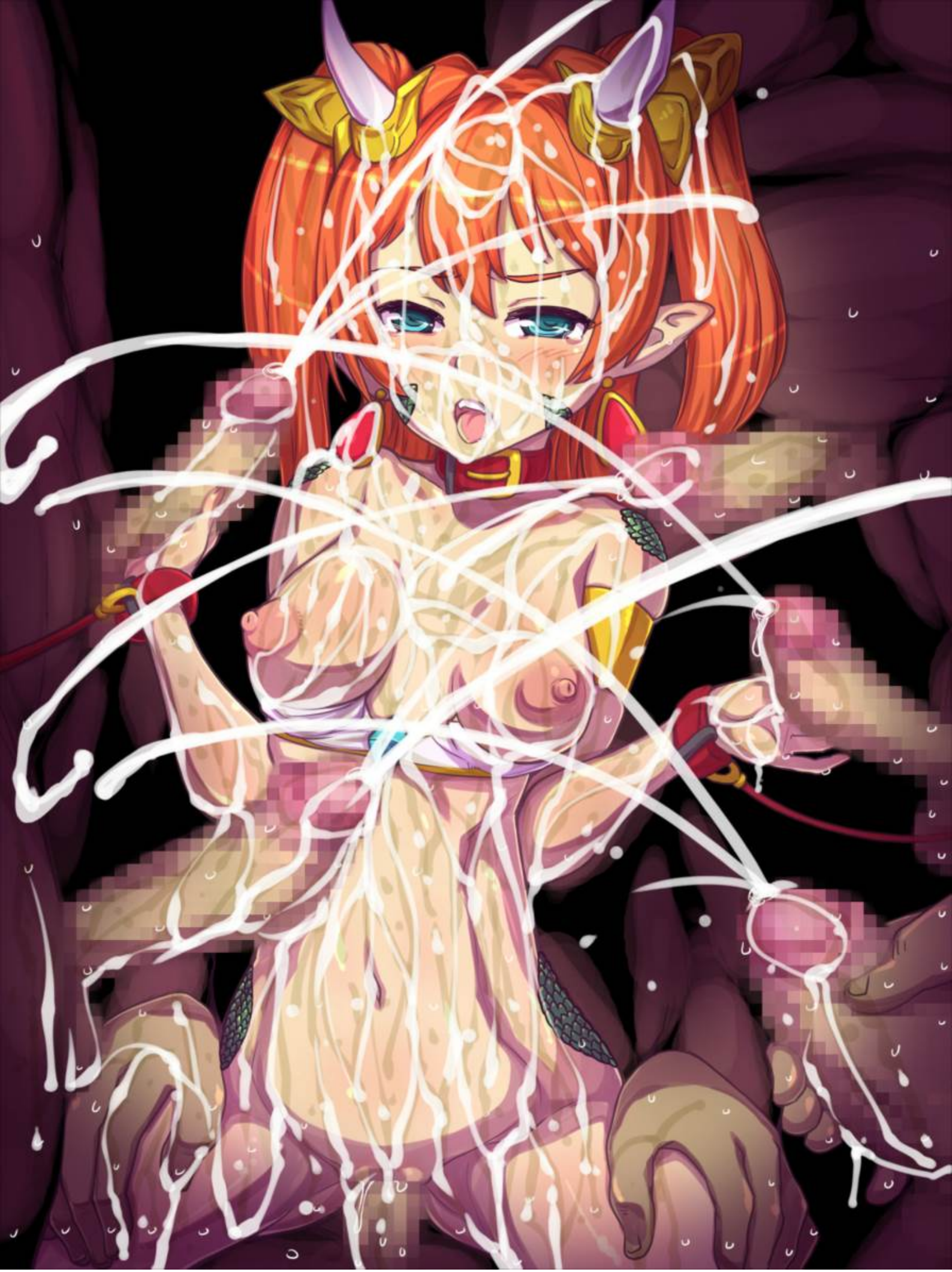


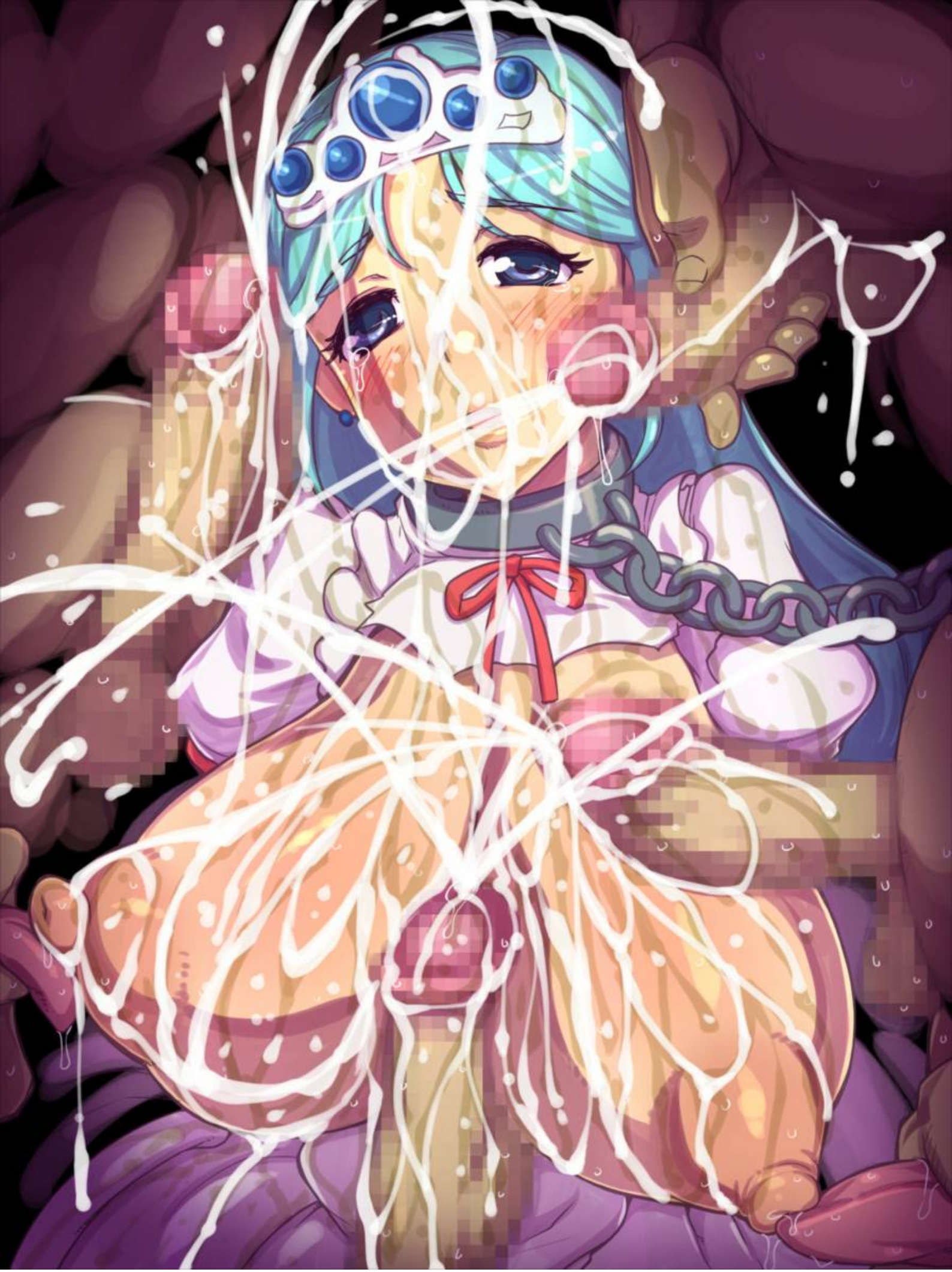












776枚目　ドラゴンクエストⅣ　マーニャ

Pick☆Up

踊る快楽御殿

シナリオ by 辻善

「はなせッ！はなせぇ！！あああ！いやぁああ！」

褐色の肌がなまめかしくクネる。苦悶と悲鳴を美しい顔ににじませ
踊り子のマーニャは牢獄の拘束の中で弄ばれている。

「すげえ～！あこんな上玉なかなかいねえぜッ！」
「おらぁ！もっと腰ふらんかいッ！うへへへ！」

振りたくてふってるんじゃない・・・
わけあってある城の地下に姉妹で幽閉されたマーニャは、
男達の慰み者になるべくこの役割を自分から買ってでた。

妹にはこんな目にはあわせたくない。
はじめは一人、二人程度のオトコの相手をして居ればよかったが
欲求はエスカレートしていくのが常。気がつけば牢獄中の看守達に留まらず
城の兵士達も彼女の肉体を嬲るようになっていく。

「はずして！こんなッ！こんなカッコウ・・・いやあああ！」

兵士達、特に魔物の息がかかった者が行うマーニャへの仕打ちは非道だった。
肉体的苦痛、精神的辱め、代わる代わる犯し、毎晩ボロボロにする。

「ほうれ、みてみい、こいつもうぬれてやがる・・・
　妹もこんな風にぬれるのかのう・・・？フホホホホ！」

「やめろぉ！妹には手を出さない約束だろッ！いたいっ！いや！いやあ！」

反抗的な態度をとれば、容赦なく乳首をつまみ上げ、尻を鞭で叩かれる・

「妹に手を出して欲しくないなら、妹の分まで楽しませろ！おらァ！」

男の股間から生えた肉棒が白濁の体液を吐き出す。
グロテスクな魔物のようなそれが、のた打ち回り、よだれをたらす様に
くて醜い体液を、マーニャの体に滴らせ喜ぶ。

「いやっ・・・いやぁ！あばぁ！」

「おら、こっちみろ、顔ッ！顔ッ！うっ！うっ！ウッ！」

美しく誇り高い顔が苦悶で歪み、それを彩るように男の体液がぶちまけられる。
まさにマーニャを汚すために、男達は欲望のまま、快楽の赴くままに
精液を浴びせ続ける。

「ああ・・・もう・・・もうやめて・・・いやっ・・・イヤッ！うぐっ！」

首枷から伸びた重く頑丈な鎖を、グイっとひかれ、
悲鳴をあげる度にその顔に精液を浴びせかけられる。

まるで弱った小動物に、煮えたロウを浴びせ楽しむかのような行為。
加虐心あふれるその行為に、マーニャは心底おびえ始めている。

（これが・・・この残酷さが魔物たちが持つ恐ろしさなのね・・・
人間であっても、魔物に組するものは、こういう恐ろしさを・・・・）

「おああああでるうう！こっち向かせろ！おらっ！おらっ！おうううう！」
「おい、気を失ってやがるぞ、だれか神父呼べ！」

疲労して気を失うと、おどおどした神父が呼ばれ、
マーニャに回復の魔法をかける。

「はあはあはあ・・・いや・・・・いや・・・・」

気を失うことすら、疲労して無抵抗になることすら許されない責め苦。
悲鳴や抵抗する声が弱弱しくなればホイミをかけられ、また嬲り続けられる。

「あへぇ！あひぃい！」

否応なく男達の性の快楽を見せ付けられ、
マーニャの体にも肉欲の実りが頭をもたげてくる。

ほんのり濡れていたマーニャの肉壷は、いつしか獣たちと同じ
よだれのような大量の愛液を滴らせ、肉欲で満たされることを望み始めている。

「クソッ・・・ころしてよ・・・もう・・・・こんな・・・・アウッ！」

「おっ！おううう！おああ！でるでるでるう～」

精液を出しつくし、マーニャ以上に疲労している男達。
しかし、男達の肉欲が満たされたのとは裏腹に、マーニャの肉体は
性交の渇望に飢え始めている。

「そろそろよかろう・・・・わが寝床につれてまいれ・・・」

抵抗も許されず、堕ちることもゆるされず、
肉欲が満たされることも許されないマーニャ。

敗北の痛みと肉欲の疼きが混濁とした暗黒の感情が満たされ、
その素材の調理は完成していた。

薄暗い寝室でマーニャの肉体にのしかかる魔物・・・・

「ムホホホ！はらめっはらめぇ～！ウッ！ウウ！ウモホ～！」

男達の嬲りはマーニャの肉体を調理していたに過ぎない。
美味しく仕上げられた、肉欲あふれるマーニャ。
極上の快楽に支配された体に、魔物の汚らわしい精液が注がれていく。

やっと堕ちることができる・・・快楽に身を任せ、恍惚の表情で
マーニャはつぶやく。

「ああ・・・れて・・るぅ・・・モンスターにおかされて・・・イクぅ」

END

777枚目 ヒーローアカデミア 麗日お茶子

Pick☆Up

敗北少女

シナリオ by チキン・フィレ雄

「はあはあ・・・ま、まって・・・なんか体が・・・ヘン・・・・」

麗日お茶子は自分の能力による「酔い」と、「薬剤」の効能で
体の自由を失っていた。

「効いとるかぁ？ええぞ、カメラ回せ！男優も入れぇや！」

父の借金を帳消しにする代わり、簡単な実験に協力して欲しい。

なつかしい西側の訛りのある身奇麗な男は、
どこで調べたのかお茶子の能力といくつかの薬剤(酔い止めと彼は言ったが)の
効能を調べる被験者になって欲しいと持ちかけられた結果だった。

医療の発展の為、そう言われれば借金を負う側の引け目が
さらに断りにくくさせる事は明白だ。

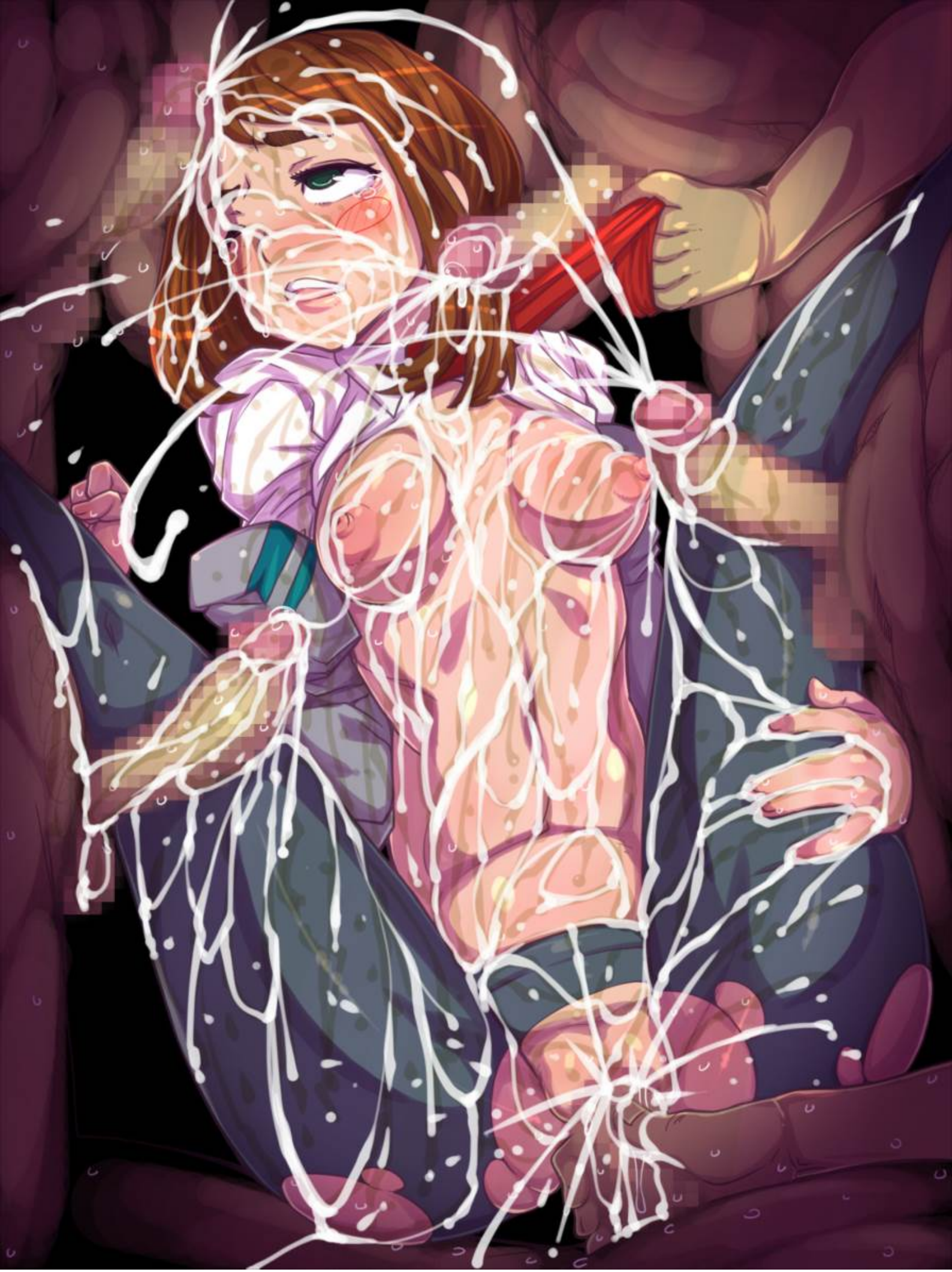
(良くない人だったんだ！悪そうな人に見えなかったのに・・・・！)

「お嬢ちゃん、悪いのはお父ちゃんが作った借金やで
　おっちゃんのこと、恨まんといてなぁ？」

優しそうで紳士のような笑顔だったスーツの男は
今まで見てきた悪者達と同じ目つきになっていた。

「現役は肌のハリが違うぜぇ～！」「おいおい、めっちゃ鳥肌やん」
「効いとる効いとる、おっちゃんらとええことしよな？な？」

お茶子の制服を裸の男達が脱がしにかかる。
抵抗など当然出来ない。それどころか、気色悪い指先がお茶子の肌に
触れるたびにぞくぞくとからだが震え上がり、えもいわれぬ快感が
体を駆け上がってくるのだ。



「あああ！あかんッいくっ！いくぅううう！」

体中の毛穴が開いて、卑猥な声がそこから一斉に滲み出すような
じっとりとした絶頂感。昔、一度だけ興味本位でオナニーをして
まんじりともしない絶頂感を背徳の中で味わったことがあったけど
それとは全く異質の濃い、どろっとした快感。

「あへぇ～！！！」

「いっとるやんけッ！フヒヒヒ！おいじゃあわしも・・・・」
「おら、こっち見たらんかいッ！顔にかけたるでぇ！ウッ！」

目の前に醜い肉の茎がそそり立っている。
悪者が繰り出す触手のように思えるグロテスクなそれが
お茶子の体に涎のような白濁液をぶっかけ、びくんびくんと震えている。

「ウッ！いぐぅ！」「ああ～いくいくいくぅ！」
「いぐでええ！おうぅううう！」「ああああ～でるでるでるぅう！」

男達の喘ぎ声、体臭、夥しい量の精液の匂い・・・
酔いと快楽絶頂の中で、ドロドロになった意識が
その嫌悪感溢れる体験を快感の景色に塗り替えていく。

「いぐっ！いぐううう！いっでるぅううう！おめごっ！オメコいぐぅう！」

お茶子の陰部がぶわっと汁を溢れさせ、潮を吹くと言うより
愛液が沸き溢れるといった風に濡れ滲みだしていく。

「おいじゃあヒーローオメコ、頂くとするかのう･･･フンッ！！！！」

太く張り詰めた肉棒が、ミチミチとお茶子の中へ入り込んでいく。
異常に勃起したそれは、陰茎の半ばほどでお茶子の一番奥にたどり着き
ズンッとした重い衝撃を子宮に与える。

「あ”ん”ッ”！！！」

あまりの気持ちよさに自分のカラダがどうなっているのか、
目がどこを見ているかさえ分からない。

快楽が快楽を越え、子宮をズンズンと叩く男の腰の動きだけが
その快楽に意味を与えているかのような錯覚を覚えていた。

「いぐううう！いぐいぐいぐぅう！あひあひあひあひぁ！！！！」

ただでさえ肉体的快楽に耐性のないお茶子
トリップによる凄まじい絶頂でただひたすらに
狂ったように喘ぎまくるしかない。

「おら！ええのんか？ええのんやな！おらっ！おらっ！おらっ！」

男の腰の動きは狂人じみた動きになり、その動きに合わせて
体にペニスをこすりつけていた男たちが次々に射精していく。
快楽汁を体中に浴びせられ、意識も体もドロドロ犯されていくお茶子。

「現役ヒーローのAVデビュー、これは売れますよ」
それによって与えるヒーローアカデミアへのダメージも計り知れない」

「ヤクと肉体改造を施された男優のちんぽに勝てる女ヒーローなど
いるはずもないがな・・・新型脳無の相手をさせたいから壊すなと
先生から言われている、あまり無理をさせるなよ」

「あひいいい！あむっおふううう！びぐううう！いぐっ！いぐいぐいぐいぐぅ」

ヴィラン連合の下部組織には人間の違法組織がいくつもある。
暴力に物を言わせる敵ばかりじゃない。
本当に恐ろしい敵は、微笑みながらやってくるのだ。

快楽に堕ちたお茶子は、敵からの愛欲を体中に受けながら
それが攻撃だったということには、気付かずに喘ぎ続けるばかりだった。

END

Pick☆Up

酒淫の宴

シナリオ by クスフィアス

「うあぁっ！　も、もう、出る、出ちまうぅ！！」

草木も眠る丑三つ時、虫の声も聞こえない静寂、山深いある神社の境内で、
男達の情けないなき声が響いていた。

裸の男達に囲まれたその中に、妖しい笑みを浮かべる鬼――酒呑童子。

「あらまぁ、ウチの旦那さんになりたい言うたのは自分らやのに…
　これぐらい我慢せな、あかんとちゃいますの？　ふふっ……」

淫猥で怪しい肌をさらけ出し、挑発的に舌なめずりする酒呑童子を
強張らせたペニスをぷるぷると小刻みに震わせながら、
男たちは取り囲み、苦悶とも悦楽ともつかない声をもらしている。

「ぅ…ぁあ……もう我慢…できねぇよぉ……」
「出させてくれよぉ…頼むよぉ……」

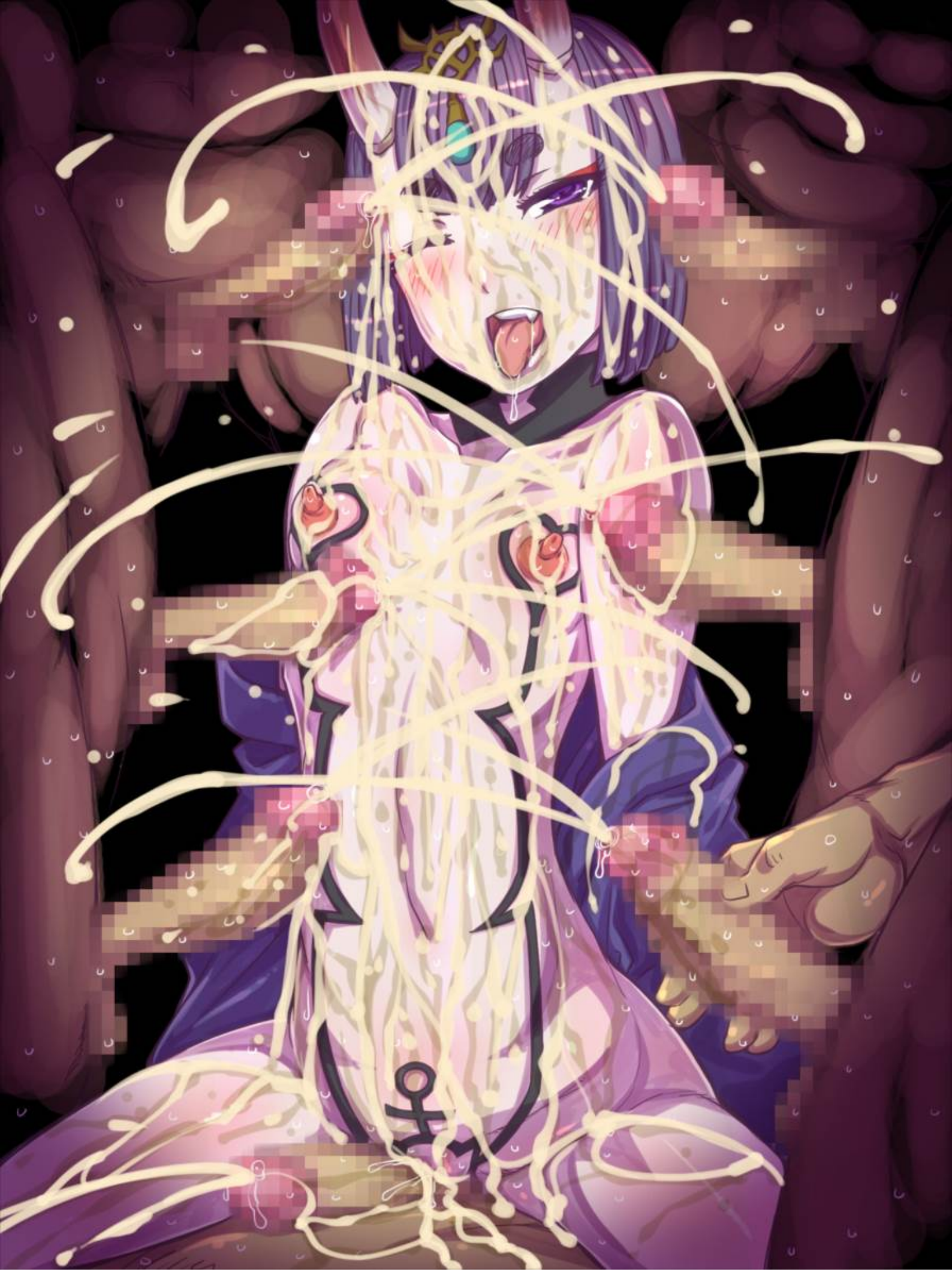
興奮極まった荒々しい息とは裏腹に、情けなく懇願するような
泣き声を漏らす男達。その男達のさきっぽ、天を仰ぐだけで
絶頂を許してもらえないペニス達を酒呑童子の指がはじくと
先っぽに滲み出していた透明な他液は飛び散り、糸を引いて滴る。

「こぉんなに先走り汁垂らして、ウチの手、べとべとやわぁ…。
　どすけべなおちんぽさんは、どないしたいん？　んー？」

酒呑童子は跨っている男を見下ろし、腰をグラインドさせながら
無邪気な笑みを浮かべた。

「ほらほら、うちの攻めに堪え切れたらこのオメコ…
　ハメて、ハメまくって…ぐちゃぐちゃに犯してもええんよ？」

「ああ・・・あああ～！」



艶かしく揺り動かされる腰、いたずらにいじっては離し、
時に激しく扱き嬲る指、酒呑童子の体すべてから繰り出される愛撫に
翻弄される男は、より一層情けなく艶かしい鳴き声を漏らしていく。

「ほらほら、ちゃあんと我慢せなあかんやろ？
　我慢もできひん悪い子には・・・・えぇい！」

悪戯な笑みを浮かべ、酒呑童子は男の玉袋をぐりぐりと捻る。
苦痛と快感がない交ぜになった感覚に、苦悶の表情を浮かべる男。
下半身が突き上げられるような衝動にブルブルと震えるペニス。

その上で酒呑童子の唇からぽたぽたと落ちる涎が
先端の最も刺激を求める部分へ、ささやかな快感を与える。

ビュッ！ビュルルル！ずびゃあああ！　「！！！！！！ッッッ！ッンウ！」

「あはぁ、こんなぎょーさん射精してもうて、可愛いなぁ自分♪」

パンパンに膨らんだ風船が一滴の衝撃で破裂するような、
爆発的な射精。無遠慮に迸り、酒呑童子の顔から首筋、胸に
大量にブチまけられる。そしてその粘っく臭い体液を、下と唇で堪能し
嬉しそうに恍惚の笑みを浮かべる雌の魔物‥‥。

「やっぱあかんわ、自分‥‥こんなんでイクようでは‥‥ガッカリどすなぁ
　なあ、皆はんは、もっと悦しませて、くれはりますなぁ？」

一部始終をみせつけられ、取り囲む男たちはより猛々しく勃起している。
それらを一つ一つ見定めするように、そそり立つそれらを見渡す。

「どれもこれも、可愛くピクピクさせてるでありんすなぁ…。
　ふふっ、ウチも何だかゾクゾクしてきよったわぁ♪」

神社の屋根から漏れ出した月の光が、酒呑童子の身体を照らす。
彼女の身体が、キラキラと妖艶に光り輝く。

「まだまだ夜はこれから……もっと楽しませてなぁ♪」

「あぁっ、出る、出る出るでるぅ～！！」
「我慢っ、できっ、でき、ねぇっ！　あぁあっ！！」

酒呑童子の身体に大量の精液が休む暇無く降り注いでいる。
何時間にもわたって、半ば強制的にイカされ続ける男達。
彼女の妖しい白い肌がどろどろの白濁液と鼻を突く精液の臭いを纏っている。

「んんっ！　こぉんなに出して、ほんまどすけべやなぁ、自分達…」

酒呑童子は愛おしそうに、自身の身体に付着した精液を指で触る。
性のエネルギー、わずかばかりだが、直接的に魔力を啜る、甘美な行為。

「あはぁ、おちんぽさんもいーっぱい喜んではるわぁ
ほんに良い味やなぁ…
ん～？　あら、自分、もうあかんのぉ？」

目の前で力なく萎えるペニス。
酒呑童子はそれに唇を当てると音を立てて吸い上げる。

じゅるるぅ～ッずびゅばっ！ちゅばっ・・・・

唇とペニスの先端から粘液の糸が伸び、粘膜同士のささやかなキスを通して
男は残りわずかな命の火も精力へと、勃起へと変えてしまう。

「素敵やわぁ…ほら、うちのおめこ、こぉんなぐちょぐちょやわぁ……。
旦那さんにならはった人だけが、たのしめるんよ…頑張ろうなぁ……♪」

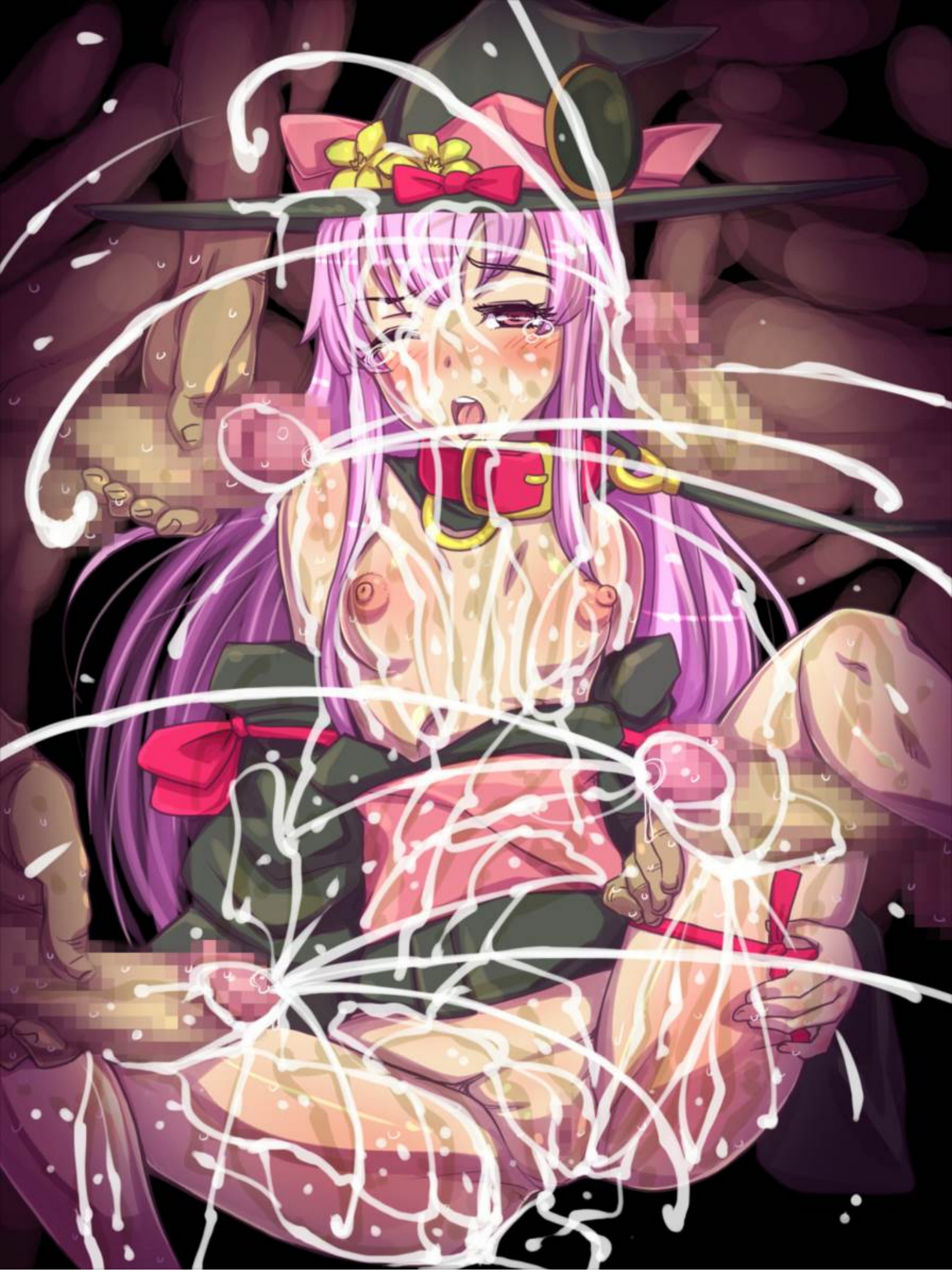
卑猥な肉穴がひくひくと蠢いている。男達は自分の意識とは関係なく
そこへ向けてペニスをそそり立たせる人形になっていた。

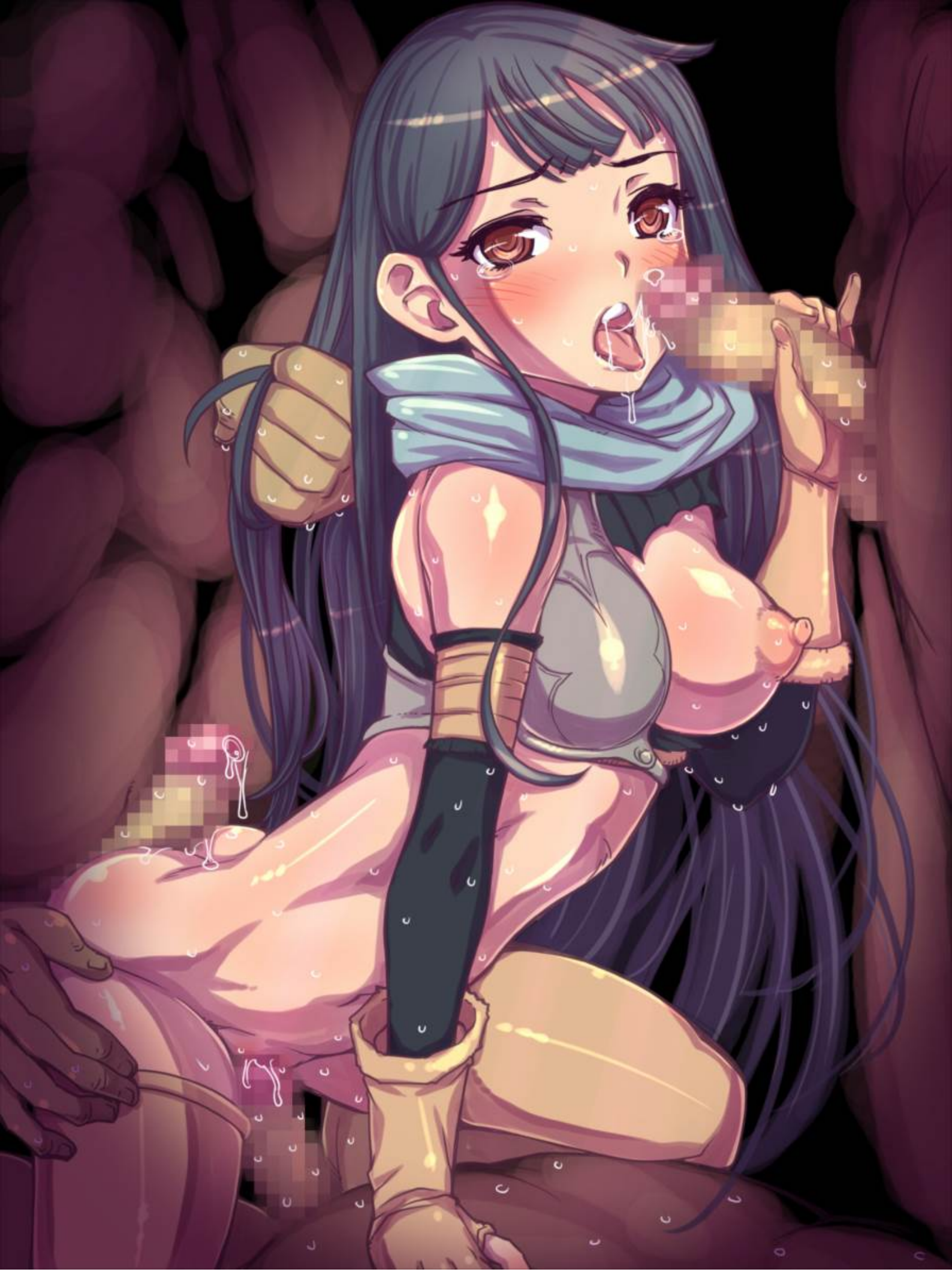
「さぁ、誰がこのやぁーらしい、ウチのおめこを一番に使えるか…。
下品に勃起したおちんぽさんで分からしておくんなし……ふふっ」

男達は命を削りながら、微弱な魔力を帯びた体液を飛び散らせて
芳醇な匂いを撒き散らす華のような肉壷へ、ただひたすらに絶頂を続ける。

白濁した酒を飲むかのように、酒呑童子が精飲を悦む宴は、
今夜もどこかで・・・・・

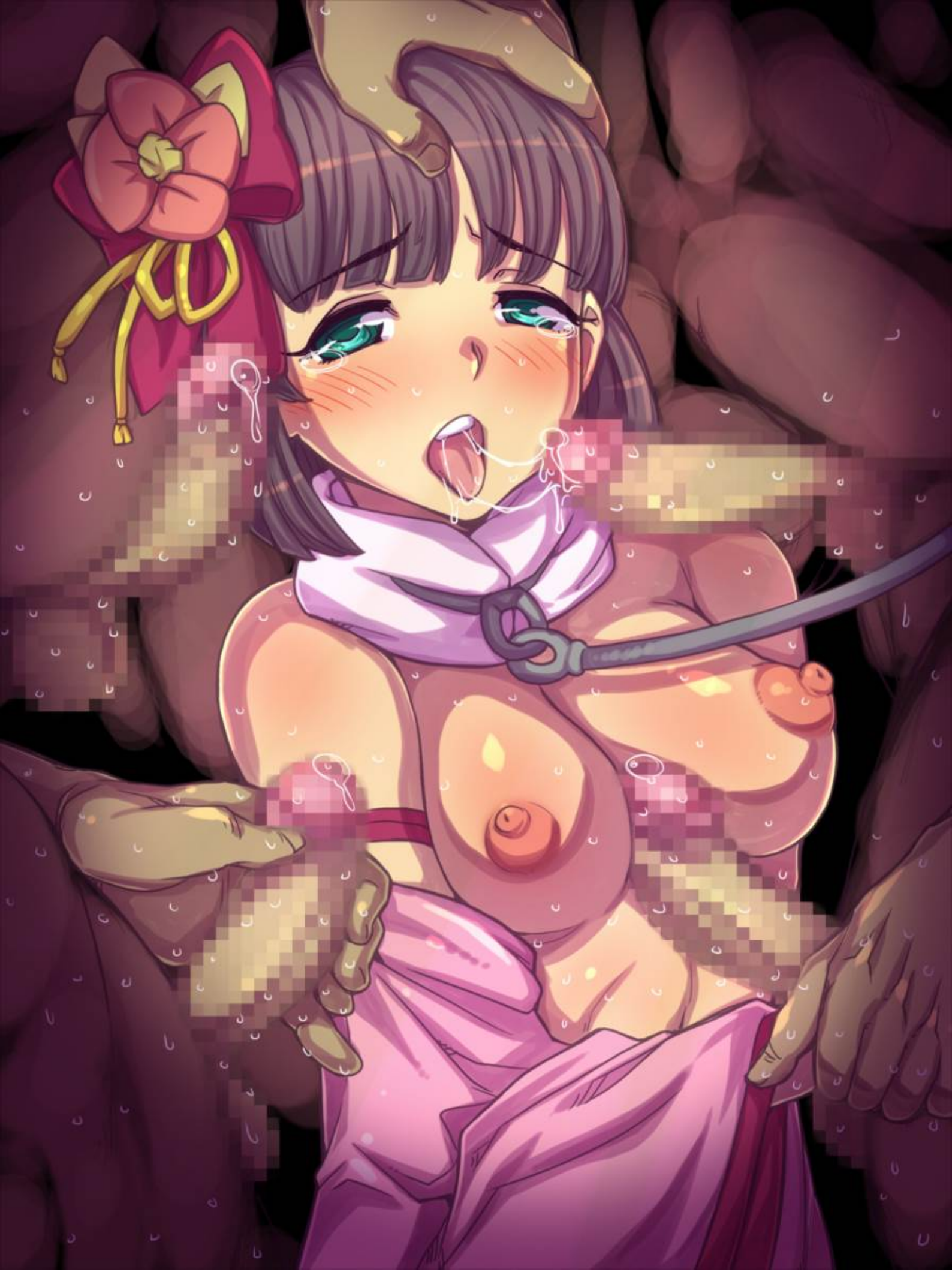
END

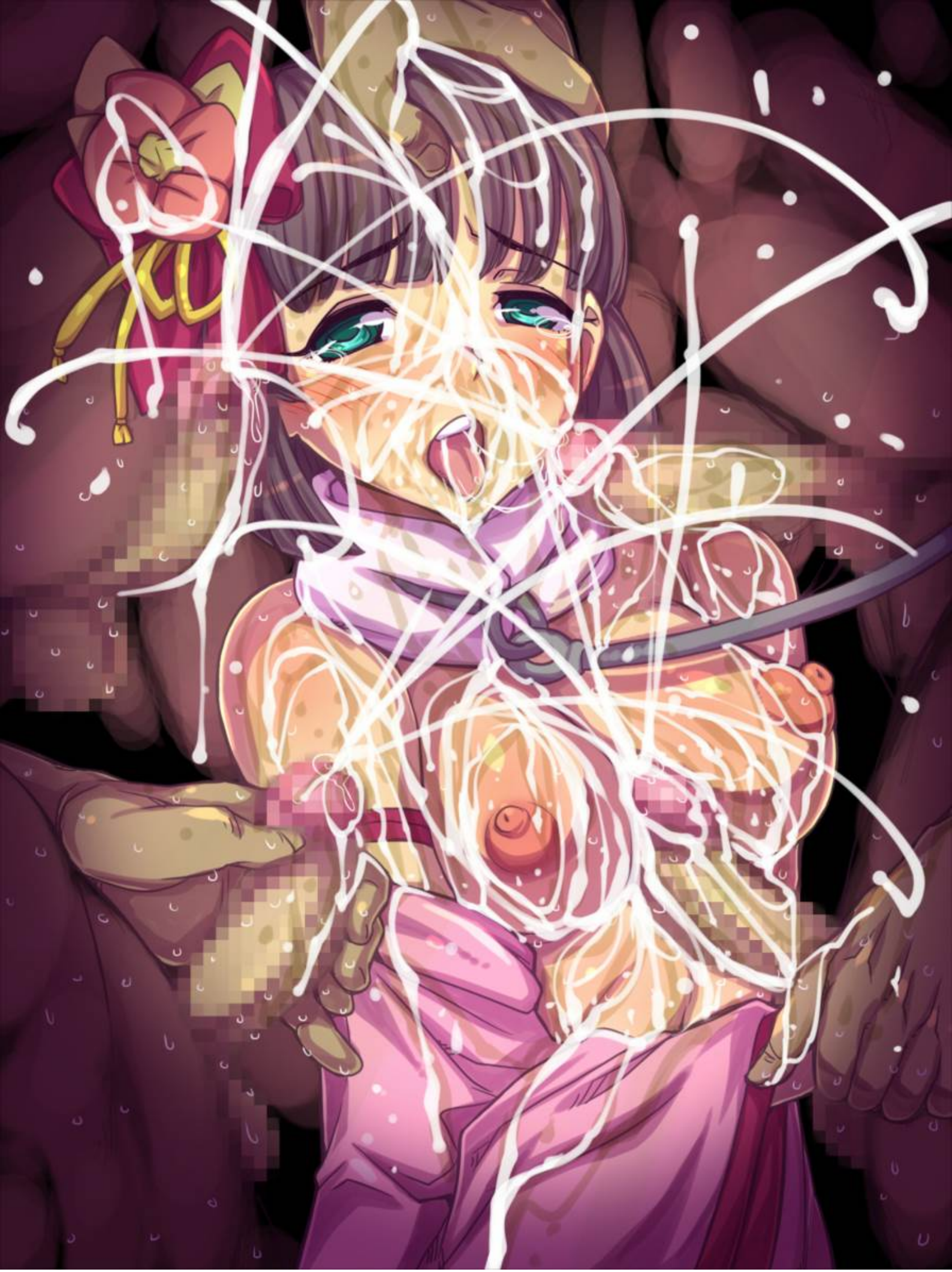


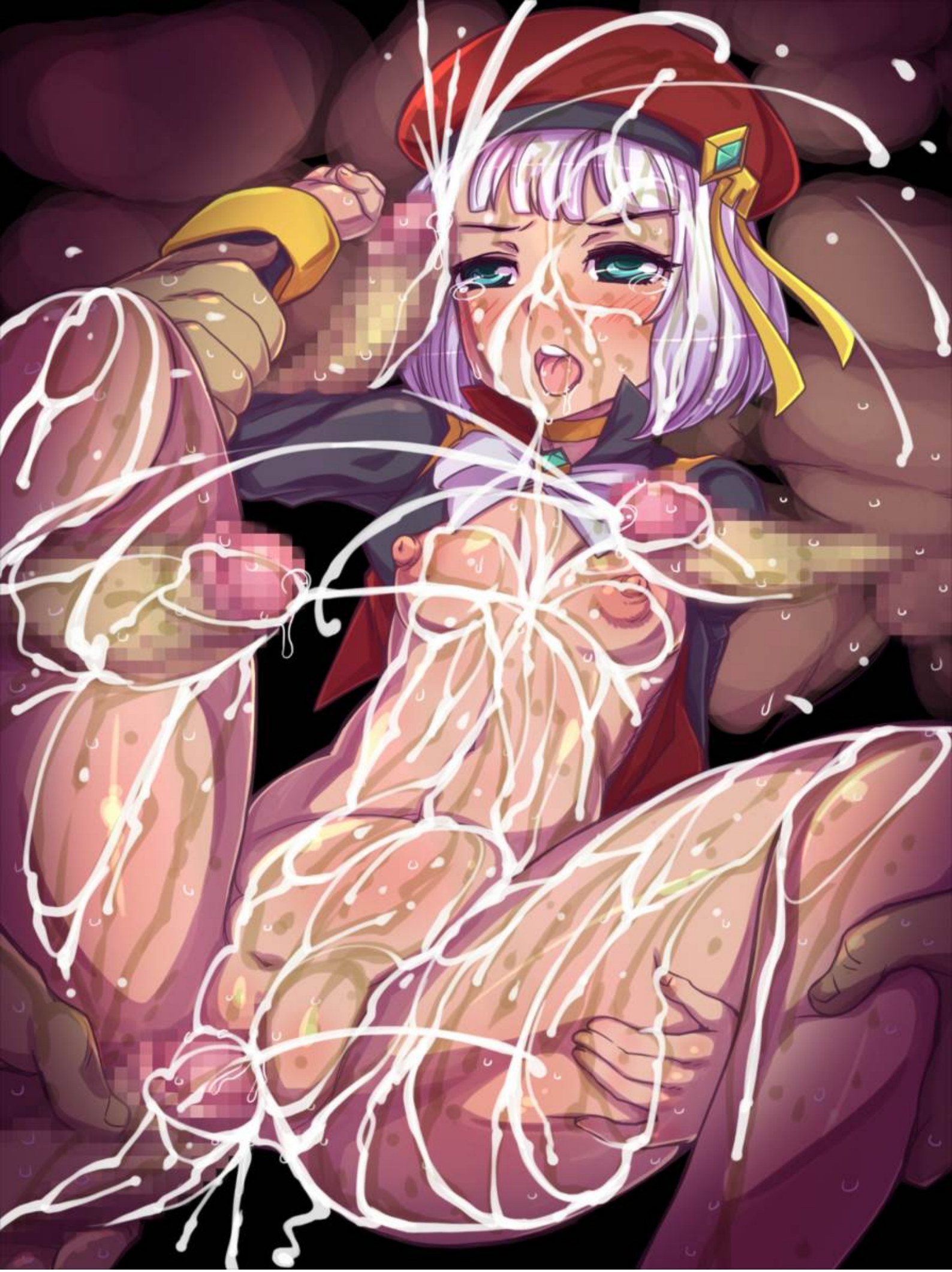


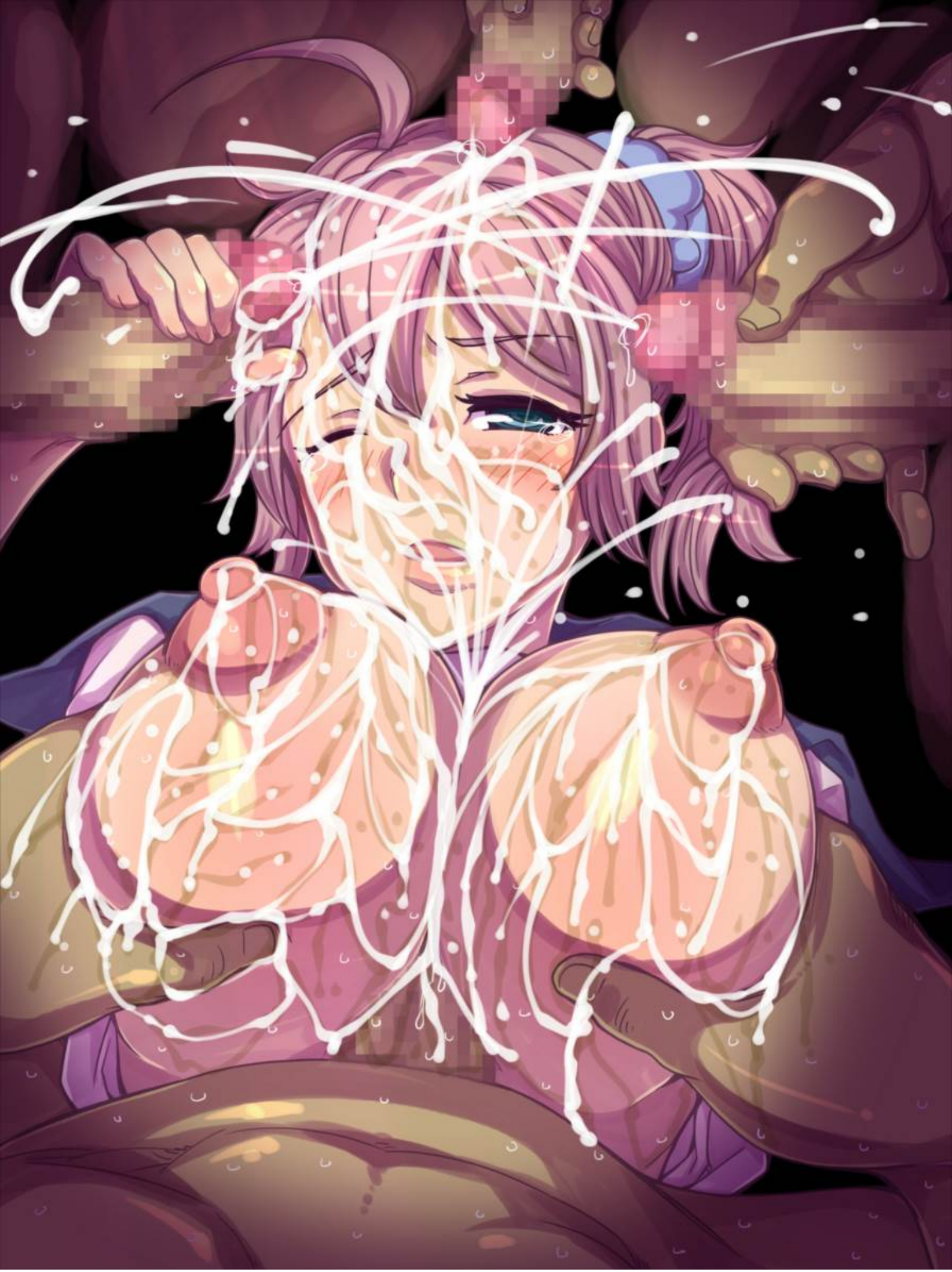
Season 8
堕落書人の放送

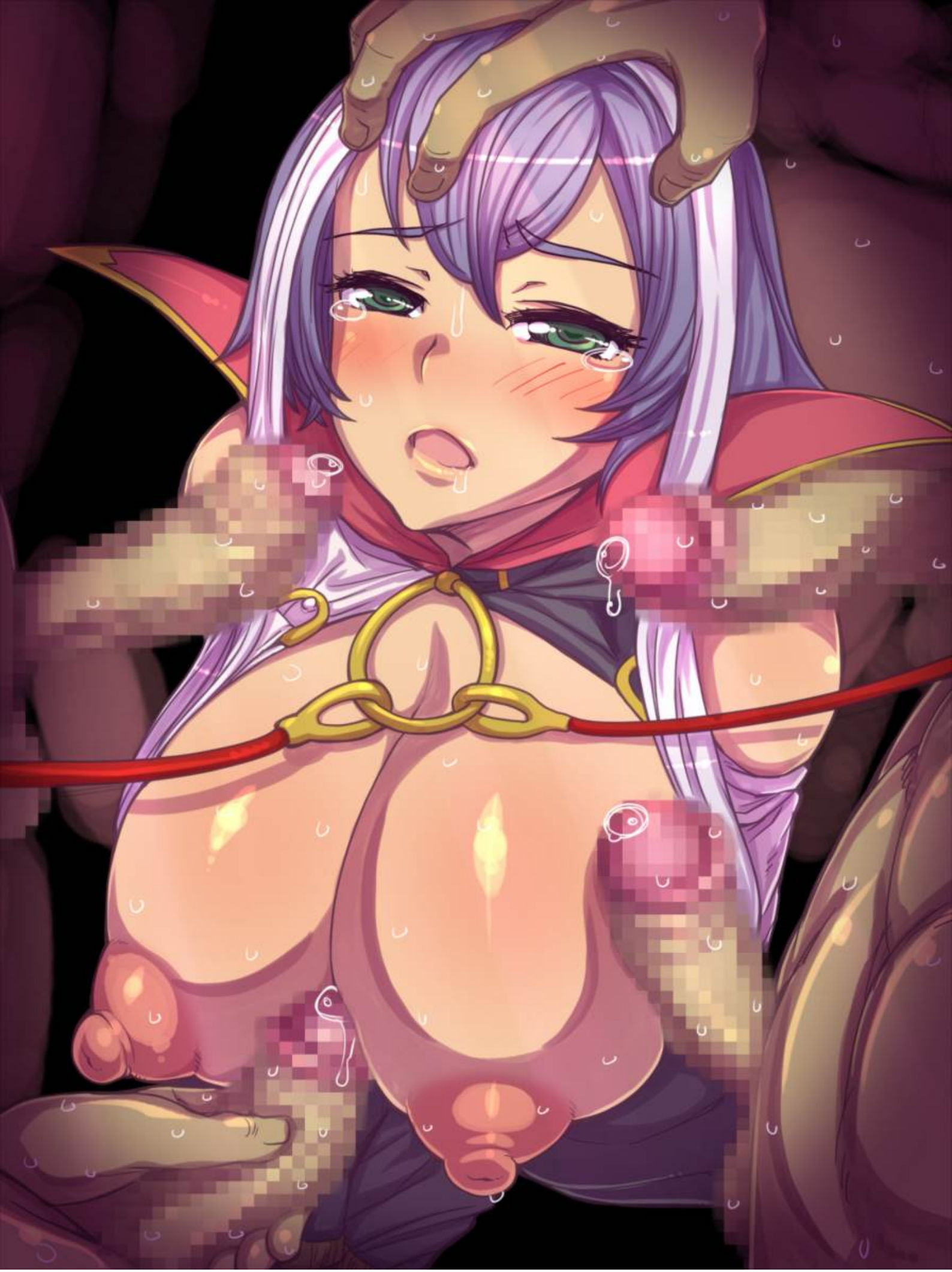
Season 8
堕落書庫 人妻放送

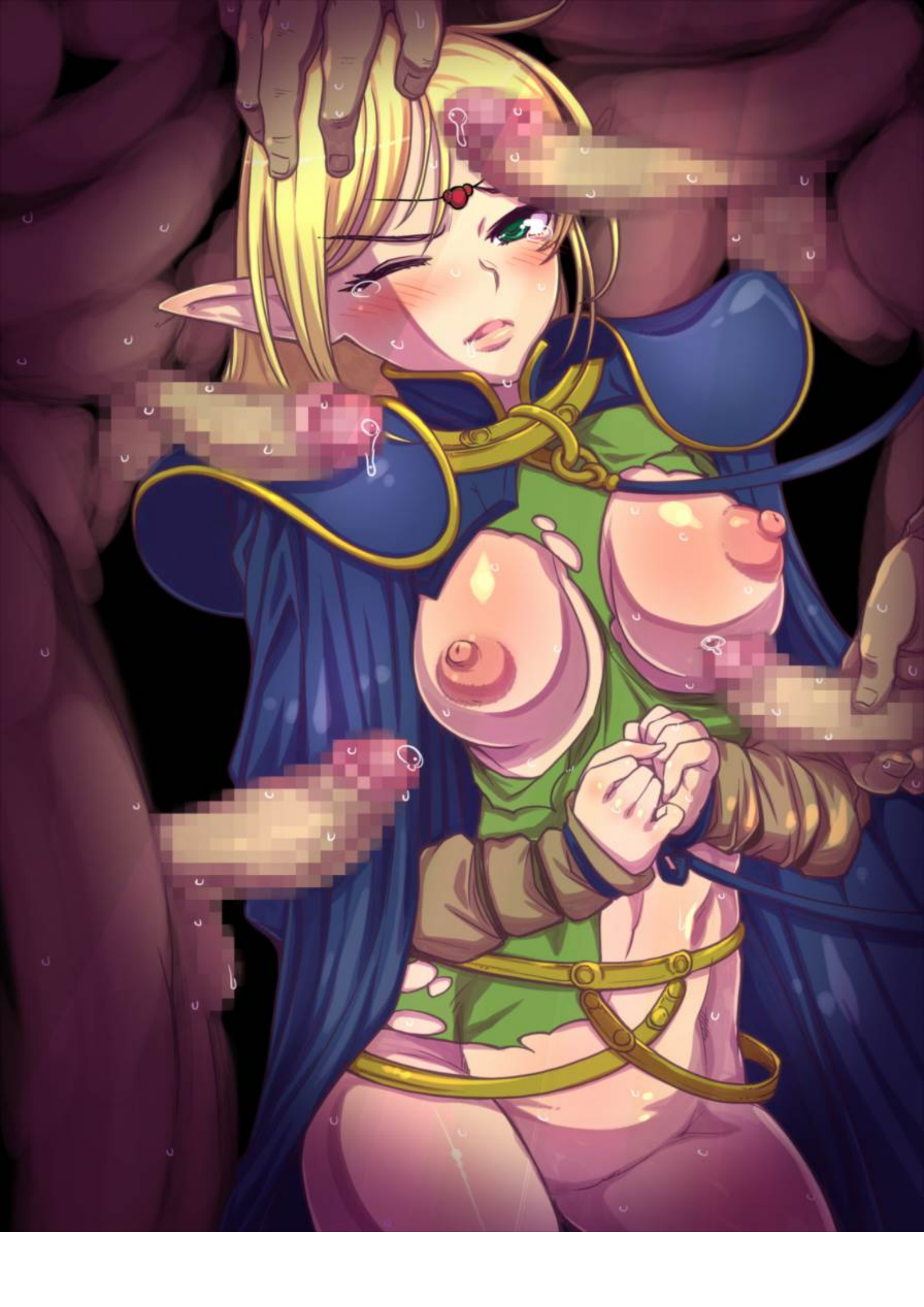


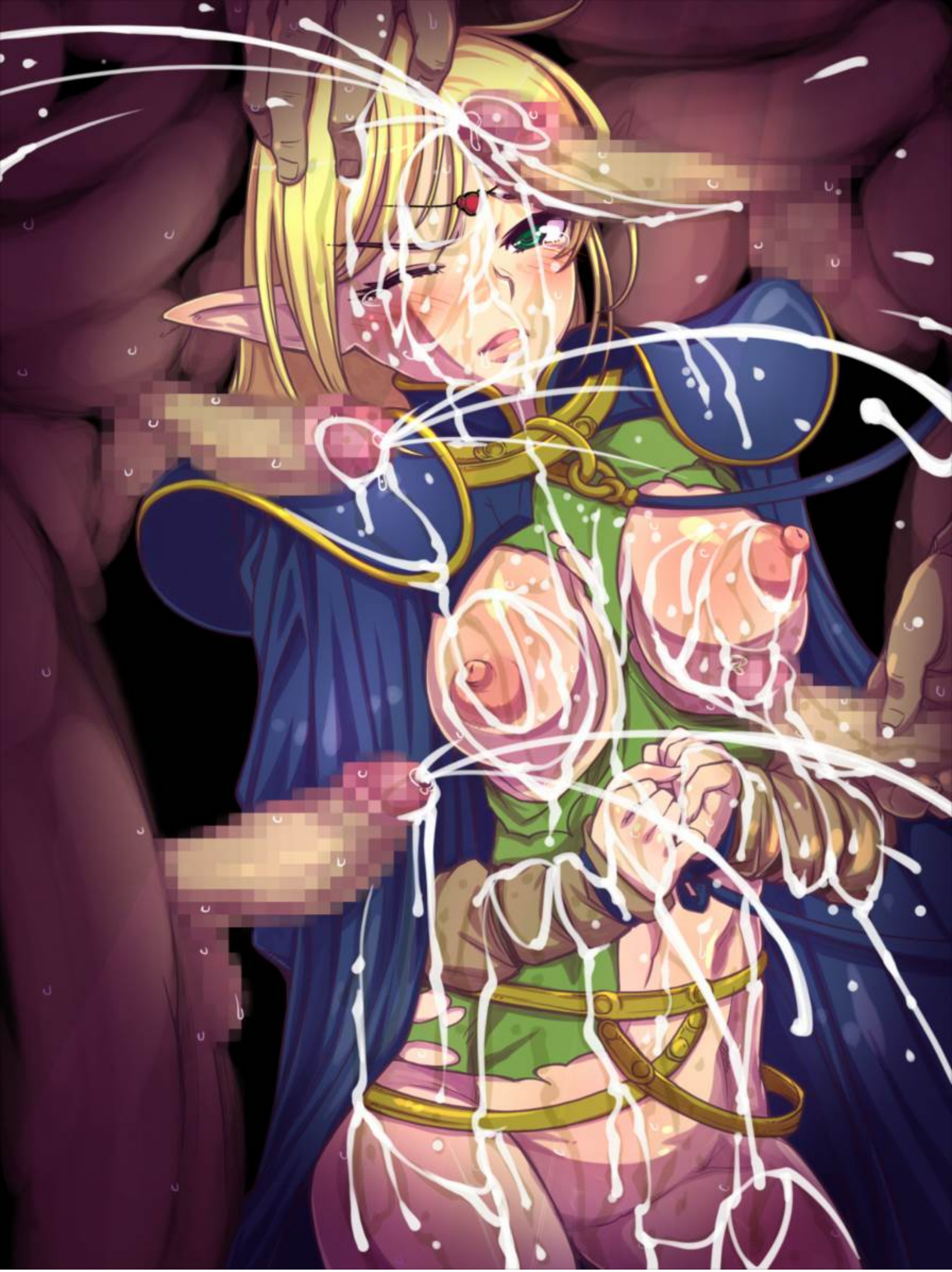


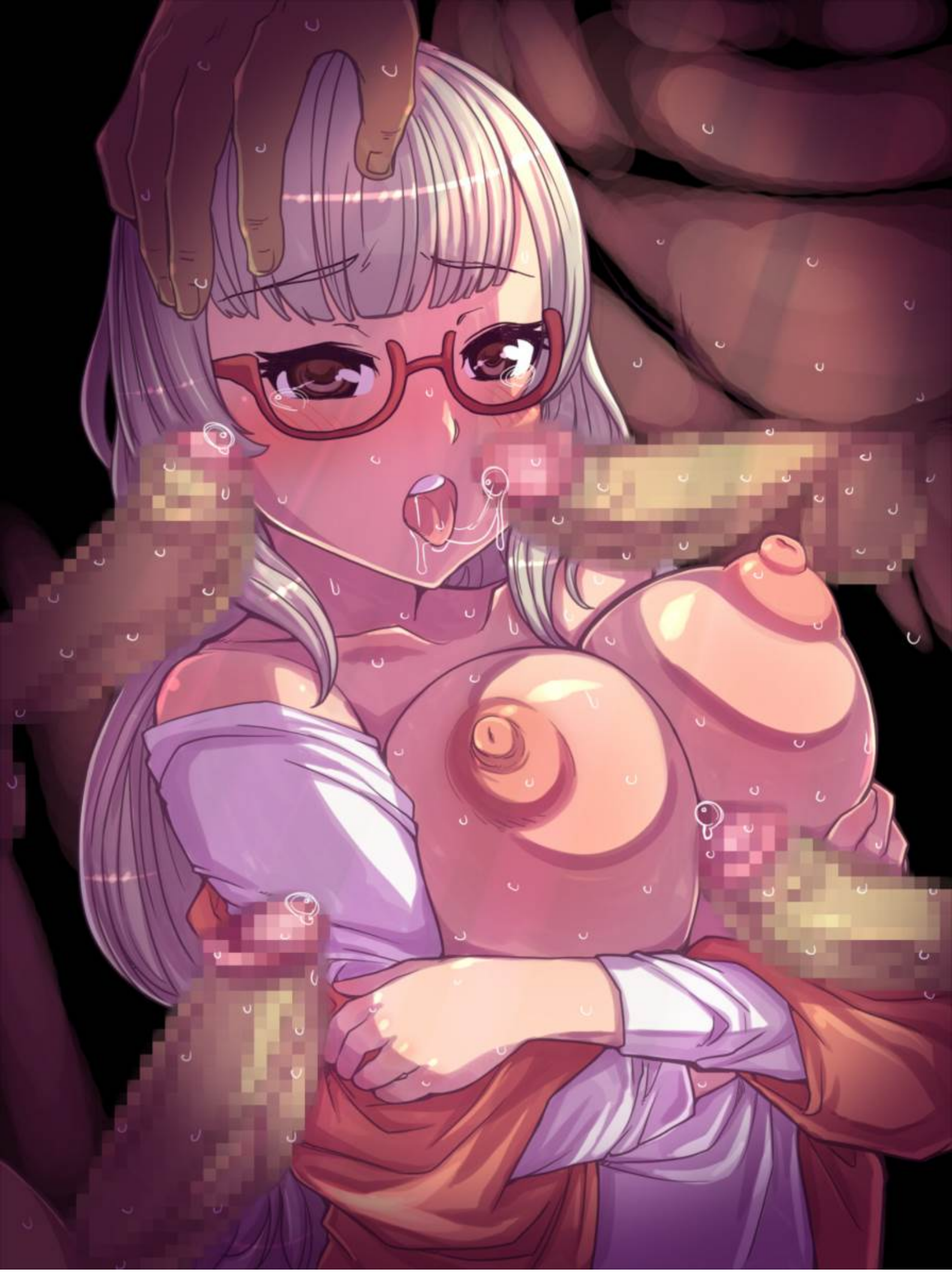


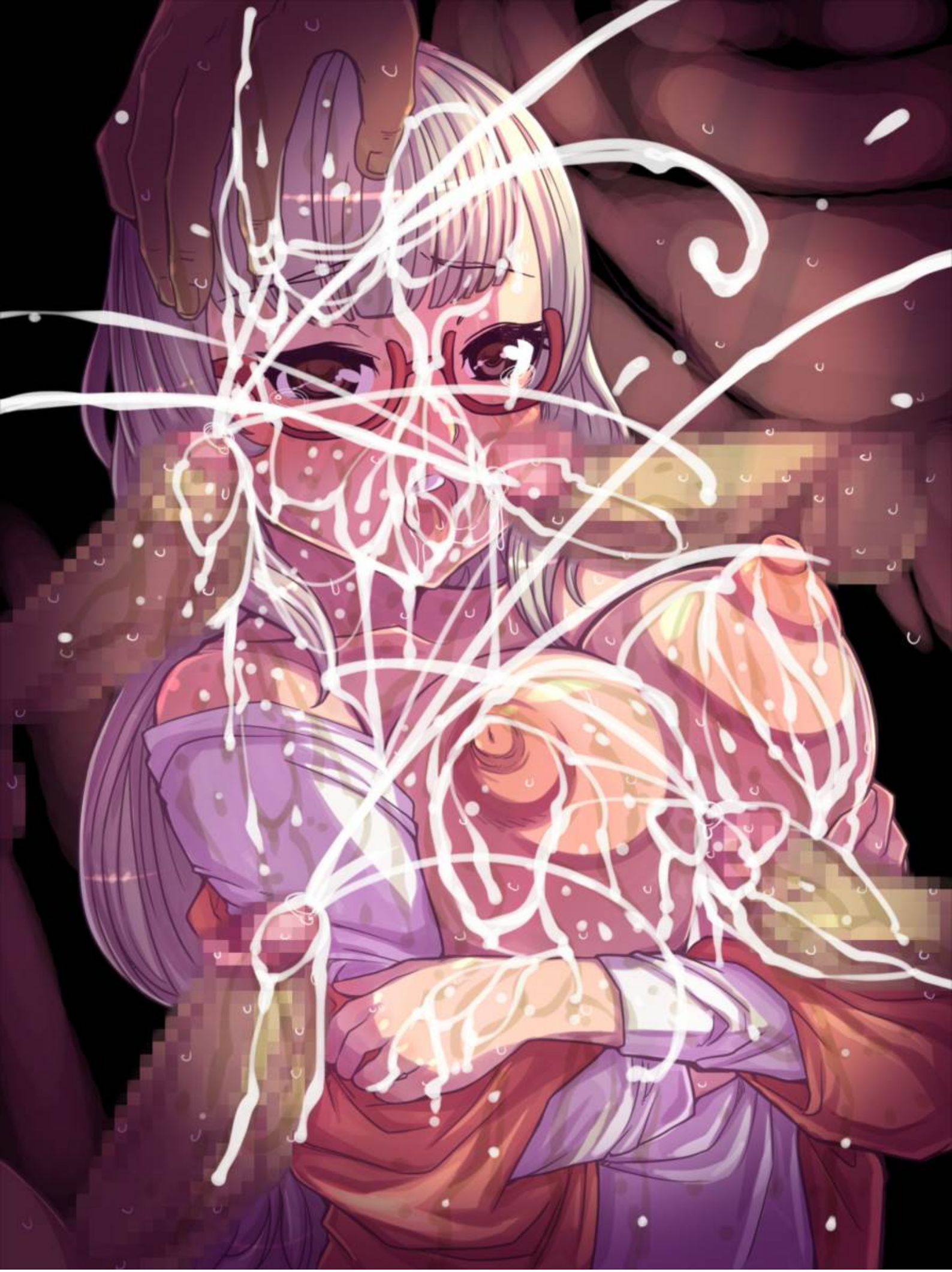


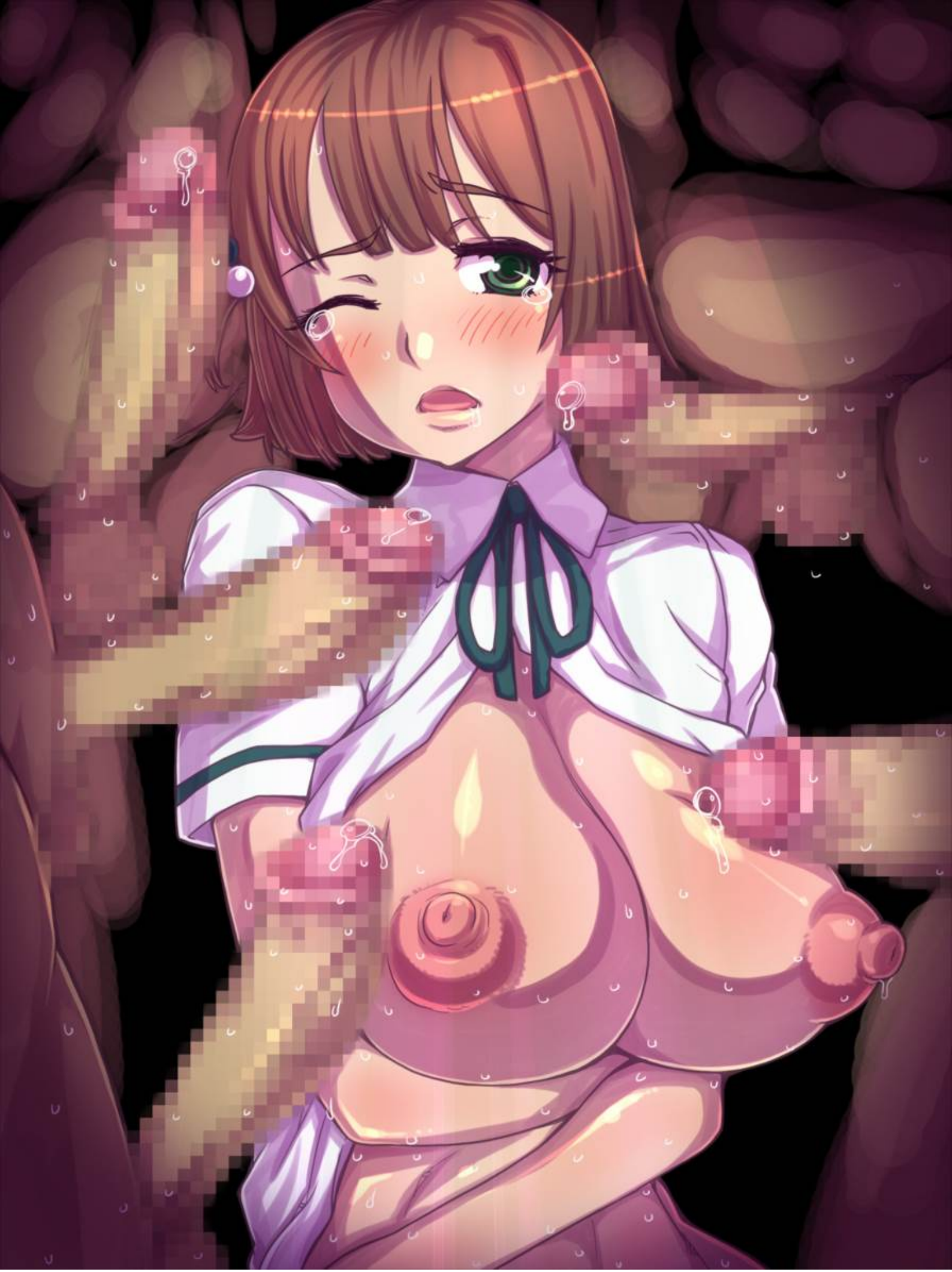


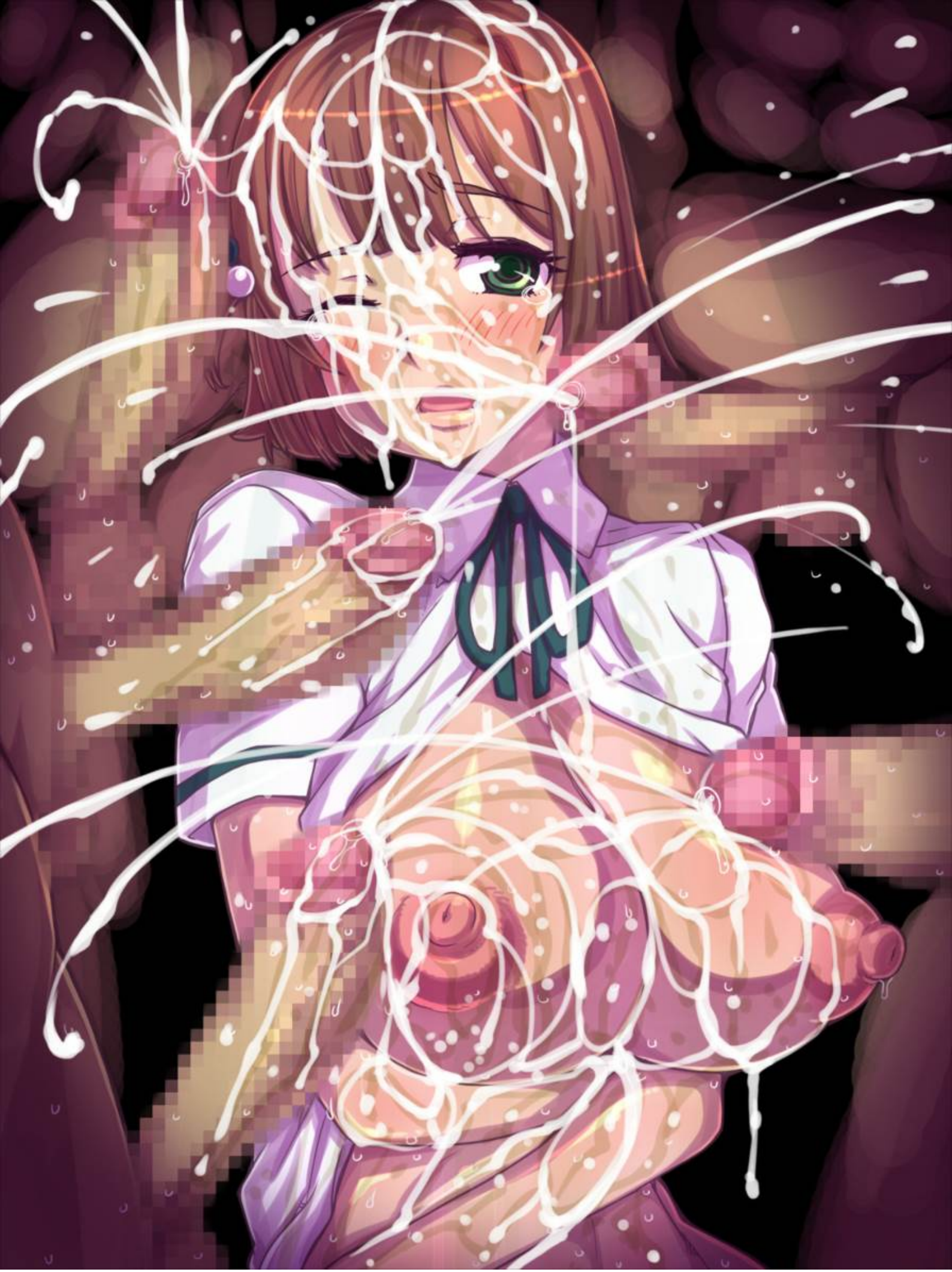


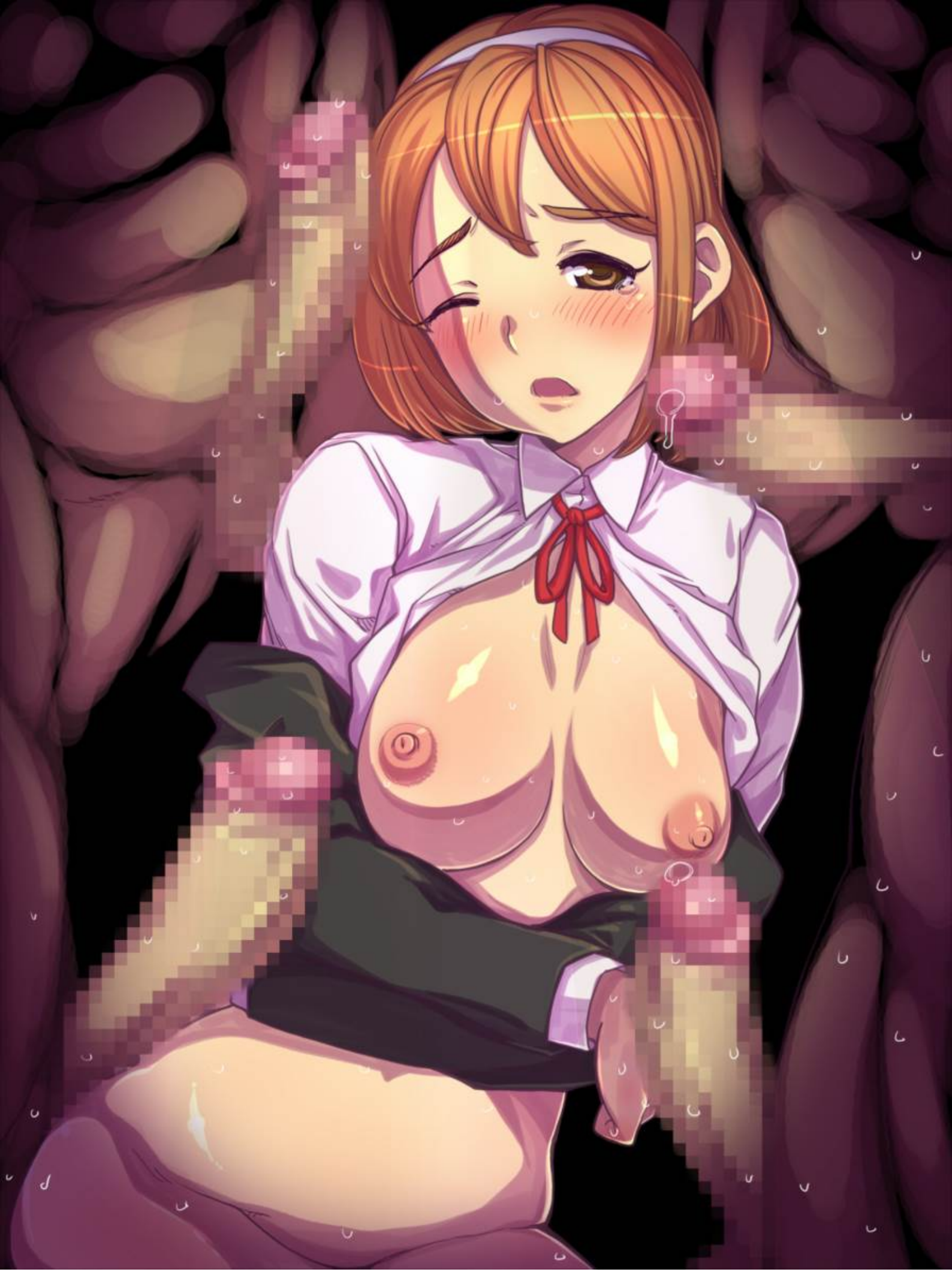


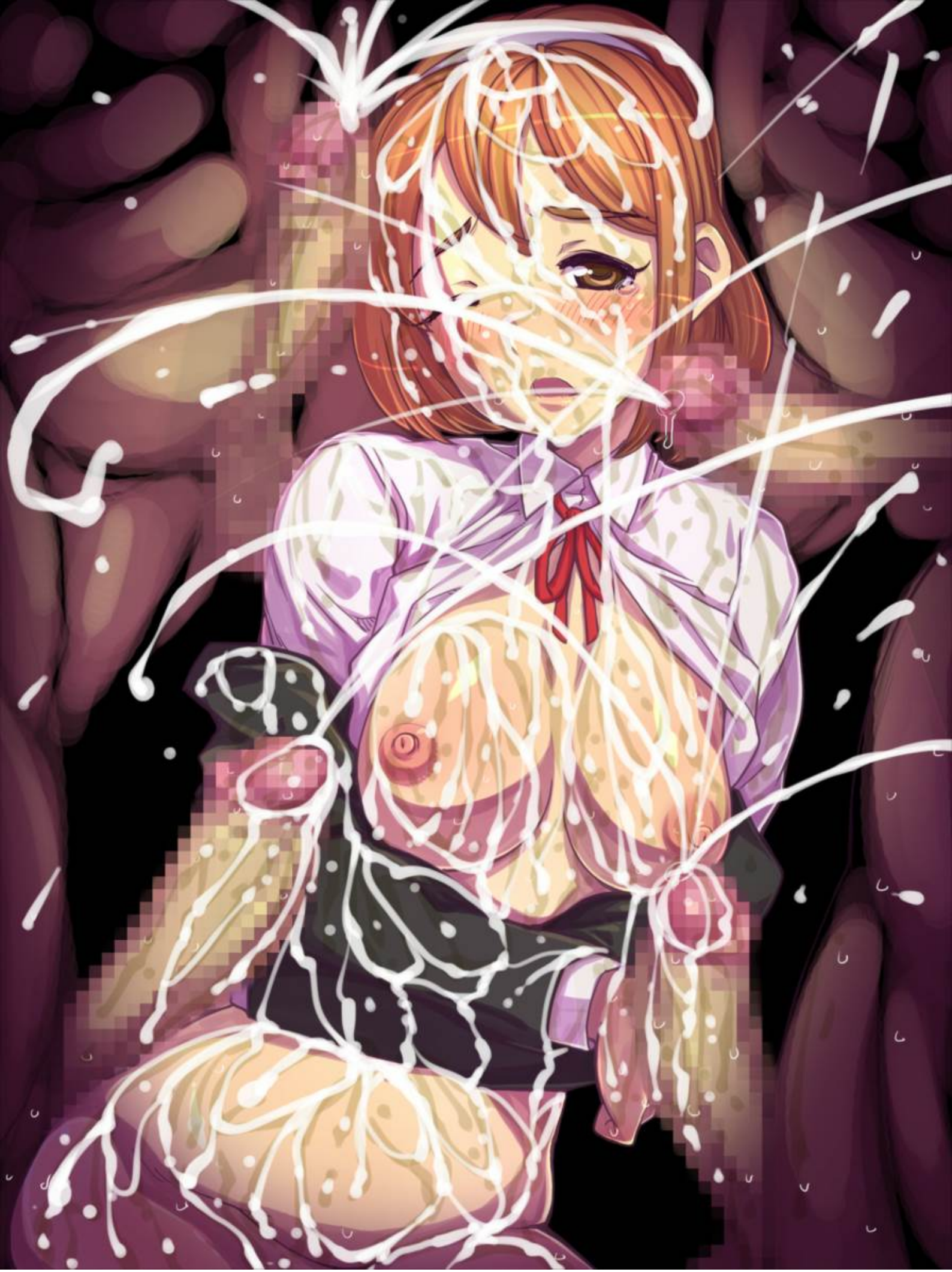


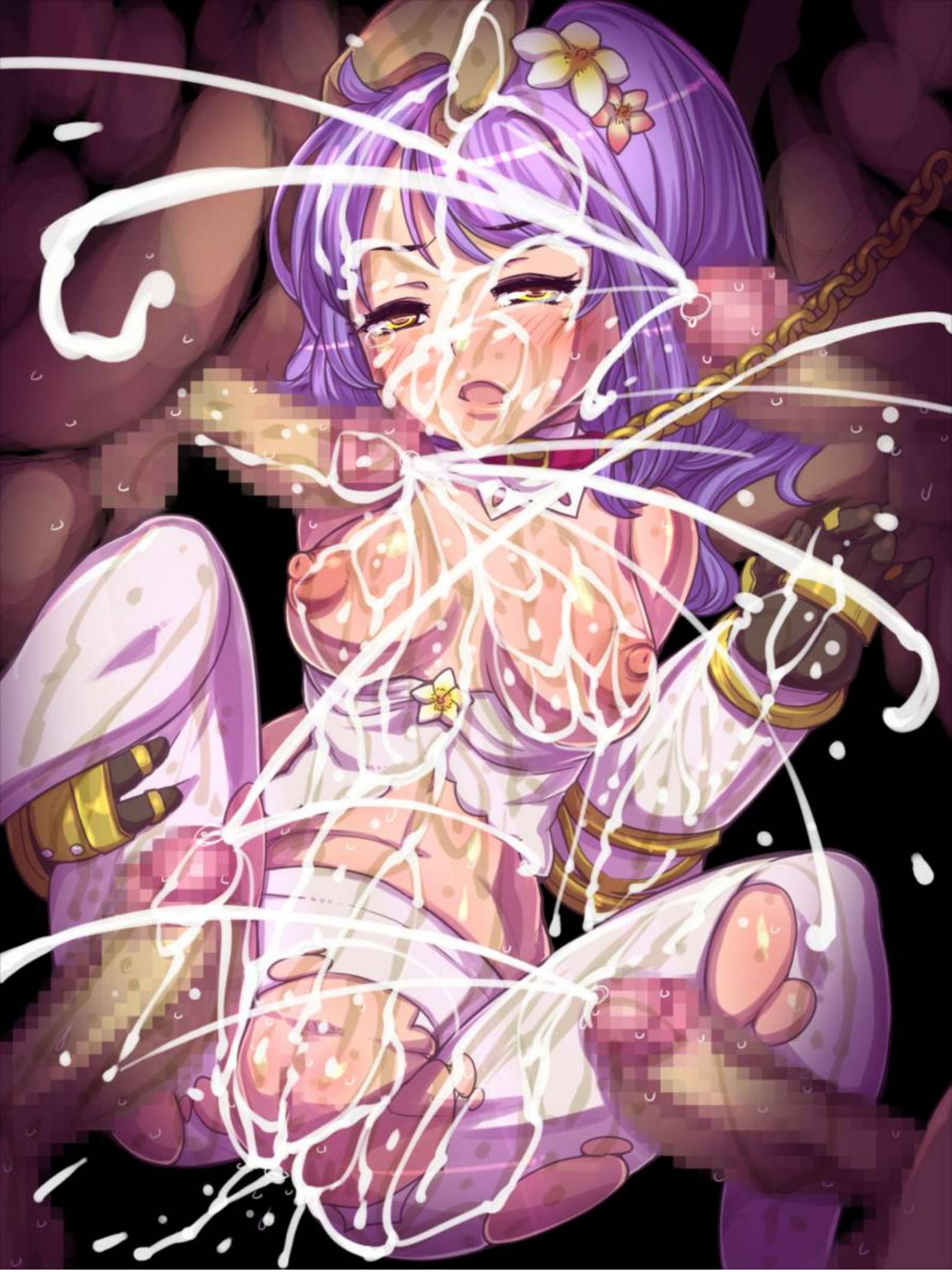


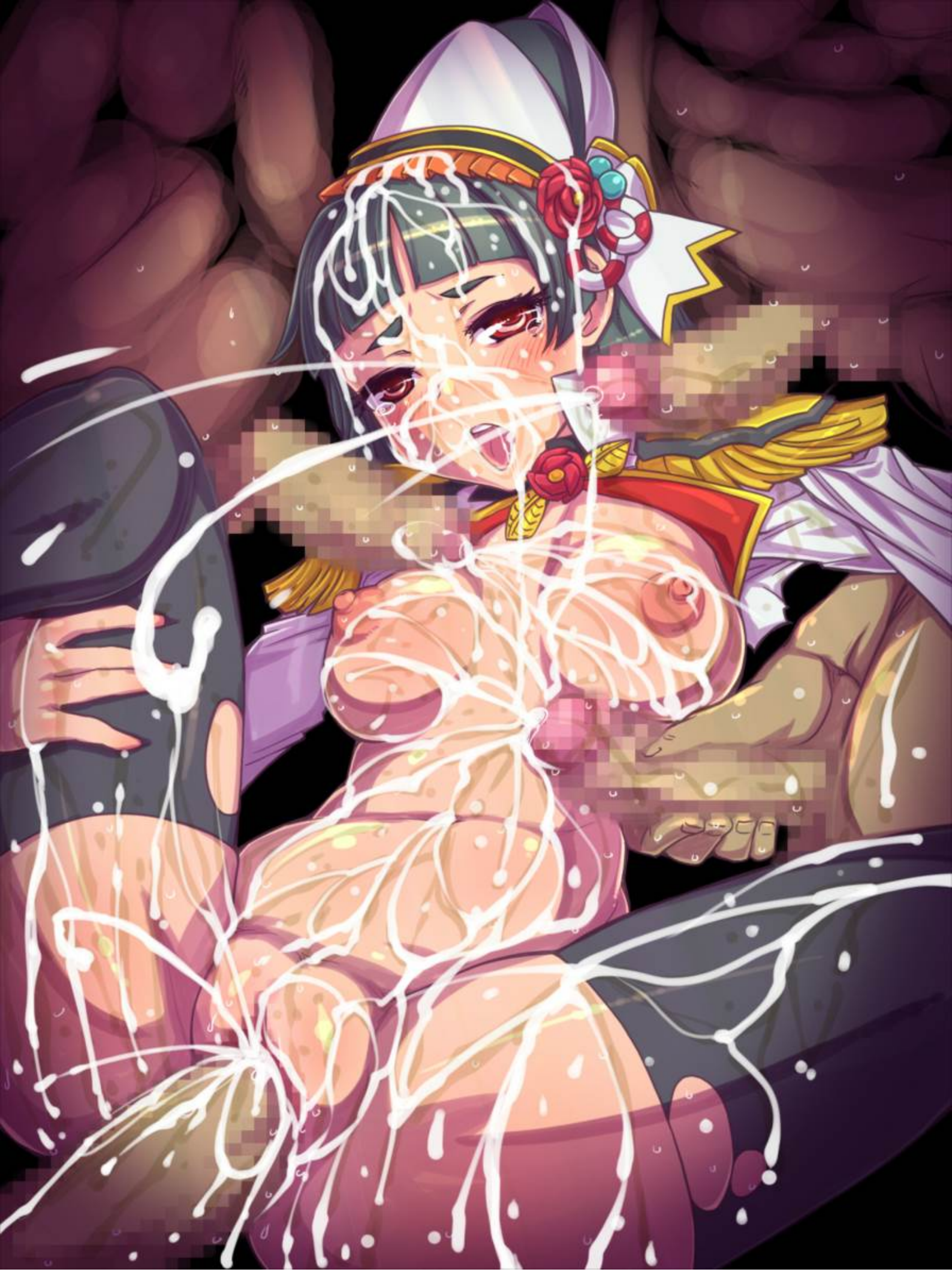


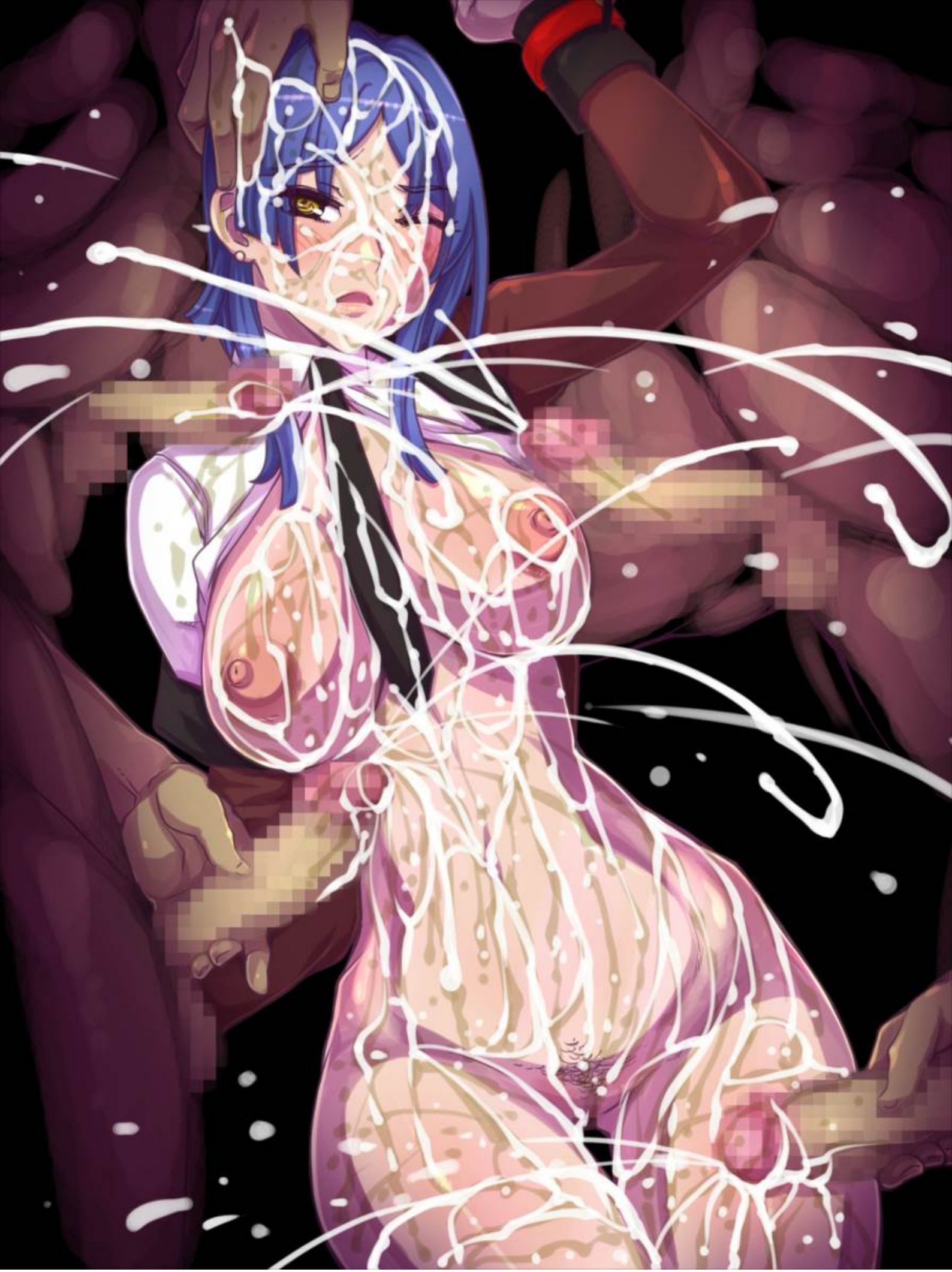


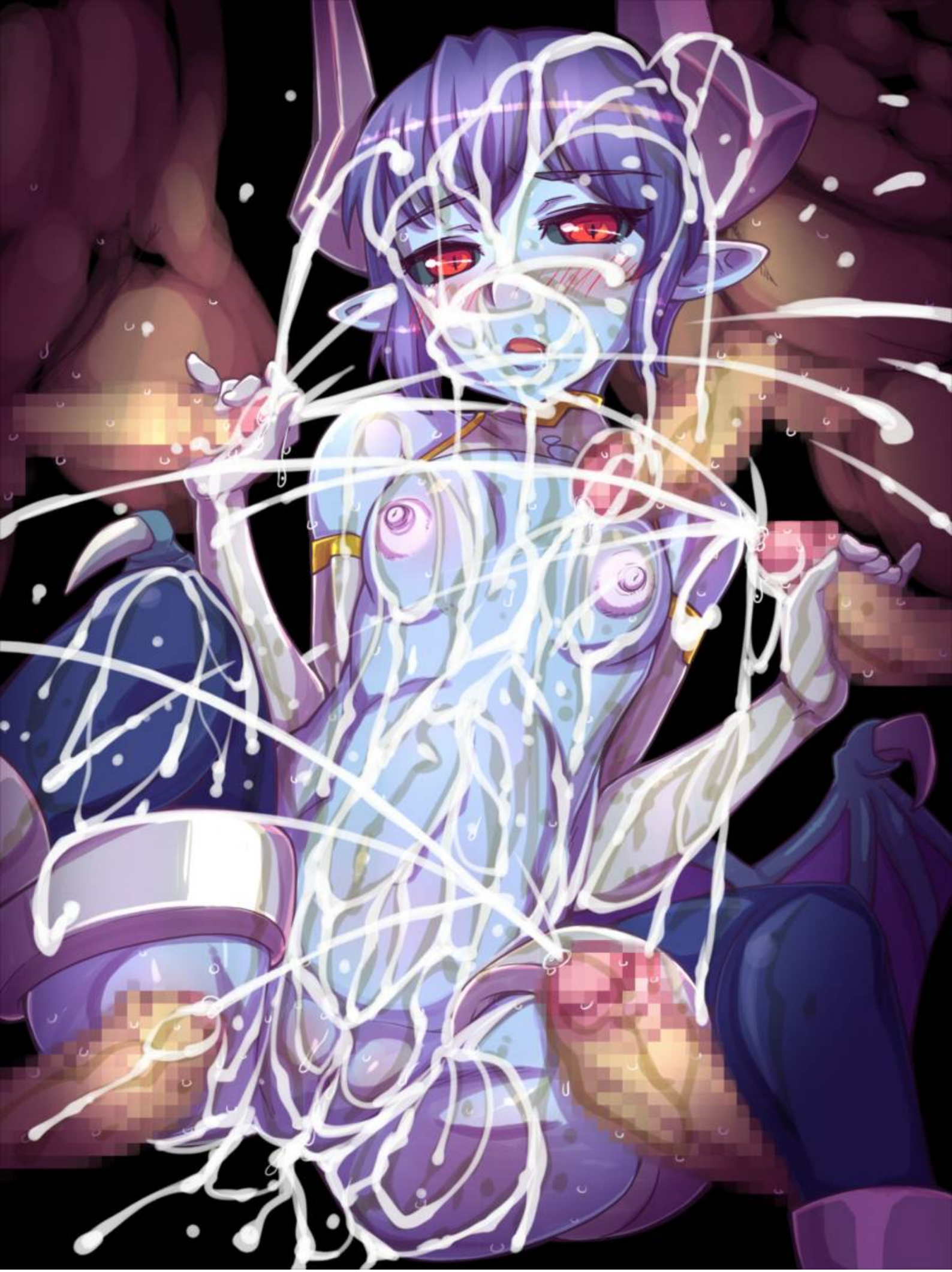












あとがき

つじ町落書きナマ放送Season8エロ絵１００枚まとめましたをお買い上げ誠にありがとうございます！800枚オーバーも単に作品を買ってくださる皆様、配信を見に来てくださる方の恩情の賜物でございます！1000枚目指して頑張りますので、一つナマ暖かい目で見守ってください。

さて、ありがたいことに配信中のリクエストが増えて本当に嬉しいのですが、その反面調べる時間や進行の兼ね合いで、折角のリクエストもバシバシきっていかなければならない状況になってきました。どうしたらリクが採用されますか？と質問をしょっちゅう頂きますが、逆に、作品を買ってくださった方だけに
「こういうリクは採用しません」を、こっそり教えておきますね。
1. お願いします、と言わず作品名キャラ名だけ
2. 画像検索で表示されないマイナーキャラ
3. 絵柄が濃い(独特で似せにくい)
この辺は時間がないので自動的に描かないリクになってしまいます。

あまり堅苦しいこと言うとメンドクサイので気楽に参加していただけるのが何よりです。
是非リクエストしてくださいねー！
それでは配信でお会いしましょう！ＳＢＴ！

辻善

Z級パイオツかいしんのいちげきアニメーション

神乳Z

国民的ＲＰＧの
巨乳ヒロインZ
パイオツ乱舞で
すりどっぴゅん

挟むか？
挟まれるか？
ドッチもイケる！
パイズリトリビュート
アニメ作品！！！

つじもが町に殺ってきた

発売中！700円(税別)